562
19

0030481011

0030481-011

５６２－１９

明治財政史

明治財政史編纂会・編

明治財政史発行所

第４－１５巻

昭和２－３

AEA

241227

72

大藏省內

明治財政史編纂會編纂

明治財政史 第十四卷

銀行(三)

東京 明治財政史發行所

562-19

明治財政史

第十四卷　目次

第十四編　銀行

第七章　日本銀行

第一節　創立ノ趣旨　一
第二節　條例ノ制定及其改正　一一
第三節　創立ノ概況　三〇
第四節　定款ノ制定及改正　三六
第五節　組織　四四

第一款　內規ノ制定　六六
第二款　支店設置　六六
第三款　出張所設置　六六
第六節　資本金　一四三
第一款　政府ノ拂込金　一五九
一六三
一六三
一六三

第二款　資本金ノ增加　一六九
第七節　政府委託事務　一七九
第一款　國庫金事務　一七九
第二款　預金保管供託事務　一八六
第三款　公債事務　一九二
第四款　通貨事務　二二九
第五款　國立銀行紙幣銷却事務　二五三
第八節　兌換銀行券　二五五
第一款　條例ノ制定　二五五
第二款　條例ノ改正　二六八
第三款　製造及發行ノ手續　二七五
第四款　準備及流通ノ景況　二九〇
第五款　兌換ノ景況　三〇六
第九節　監理官　三三九
第十節　營業　三六〇

第八章　日本勸業銀行　四七一
第一節　創立ノ趣旨　四七一
第二節　日本勸業銀行法　六一一
第三節　定款　六二四
第四節　創立ノ概況　六四一
第五節　勸業債券　六六三
第六節　保護及監督　六九〇
第一款　補給金　六九〇
第二款　監理官　六九四
第七節　營業　六九六
第九章　農工銀行　七三一
第一節　創立ノ趣旨　七三一
第二節　農工銀行法及補助法　七三四
第三節　創立　七五一
第四節　資本　七九四

第五節　農工債券及府縣金庫事務　七九九
第六節　農工銀行規程　八〇六
第七節　監理官　八二一
第八節　營業　八二六
第十章　臺灣銀行
第一節　創立ノ趣旨　八三五
第二節　臺灣銀行法　八三五
第三節　創立　八三六
第四節　兌換銀行券　八四五
第五節　保護監督　八五八
第六節　營業　八六八
第十一章　北海道拓殖銀行
第一節　創立ノ趣旨　八七四
第二節　北海道拓殖銀行法　八九一
第三節　創立　八九一

第四節　保護監督　八九三
第五節　營業　八九八
第十二章　日本興業銀行
第一節　創立ノ趣旨　九一一
第二節　日本興業銀行法　九一三
第三節　創立　九四一
第四節　興業債券　九四一
第五節　保護監督　九六一
第六節　營業　九六六
第十三章　銀行集會所及手形交換所
明治財政史第十四卷目次　終　九七八

日本銀行

明治財政史　第十四卷

第十四編　銀行

第七章　日本銀行

第一節　創立ノ趣旨

維新以來百般ノ事業駸々乎トシテ其歩ヲ進メ財政ノ如キ亦著大ノ進歩ヲ示シ明治十四五年ノ交全國ニ散在スル國立銀行ハ其數實ニ百五十餘行ノ多キニ達シ加之ナラス横濱ニハ横濱正金銀行アリテ我國金融ノ機關ハ既ニ殆ント完備セルニ似タリ然レトモ各銀行ハ小資本ヲ擁シテ各一隅ニ據リ互ニ聯絡融和ノ氣ニ乏シク甲銀行ニ餘財アルモ以テ乙銀行ノ不足ヲ補フコトヲナサス痛痒相關セサルモノヽ如クナルヲ以テ金融一方ニ偏滯シテ資本常ニ裕ナル能ハス金利又從テ高ク民間ノ取引勢ヒ阻滯スルヲ免レス之ヲ金融機關全體ノ組織上ヨリ見レハ枝葉既ニ張ルト雖モ身幹ノ以テ之ヲ支フルモノナキカ如シ故ニ歐洲先進國ノ例ニ倣ヒ我國ニモ亦宜シク設立スルニ中央銀行ヲ以テシ之ヲシテ財政ノ樞要ニ當リ全國銀行ノ融和ヲ媒助シ其財政上封建ノ舊習ヲ打破スルハ實ニ當時ニ於ケル焦眉ノ急務タリシナリ明治十四年九月松方正義ノ未タ内務卿タルノ際財政整理ニ關スル建議ヲ太政官ニ提出シ一大中央銀行設置ノ必要ヲ論述スル所アリシカ明治十

四年十月轉シテ大藏卿ト爲ルニ及ヒ大ニ見ル所アリ斷然我國銀行制度ヲ改革スルヲ以テ其意ト
ナシ以爲ラク今歐洲諸國ノ中央銀行ヲ見ルニ其組織各〻一長一短アリ是非善惡素ヨリ一朝ノ能ク
斷スル所ニアラスト雖モ白耳義國中央銀行ハ其組織最モ我ニ適スルカ如シ若カス範ヲ同國中央
銀行ノ制ニ執リ之ヲ我國情ニ鑑ミ以テ中央銀行ヲ設立センニハト爾來銳意部下ヲ督シテ益〻其得
失ヲ講究シ遂ニ得ル所アリ特ニ範ヲ白耳義國中央銀行ノ組織ニ採リ兼ネテ之ヲ我國ノ現狀ニ鑑
ミテ遂ニ日本銀行條例ヲ草シ明治十五年三月一日ヲ以テ之ヲ太政官ニ上呈セリ今左ニ明治十四
年九月提出ニカヽル日本銀行設置ニ關スル建議及創立趣
旨書ヲ掲ケテ日本銀行ノ創立ニ至レル事情ヲ明カナラシメントス

財政議

正義頓首再拜伏シテ惟フニ全國ノ安寧ヲ保護シ人民ノ幸福ヲ企圖スルハ實ニ內務ノ職分タリ
菲才淺劣正義ノ如キモノ奚ソ能ク此重任ニ堪ユ可ケンヤ然レトモ朝廷恩遇ノ厚キ感化已ム能
ハス叨リニ此大任ヲ負ヒ旦暮鞠躬スル者ハ或ハ恩遇ノ厚キニ背カンコトアルヲ畏ルレハナリ」
正義熟〻財政ノ現狀ヲ觀察シテ甚タ杞憂ニ堪ヘサルモノアリ爲メニ鄙見ヲ吐露セント欲スレト
モ事專ラ財政ニ涉ルヲ以テ或ハ越俎ノ畏レナキ能ハス言ハント欲シテ已ムモノ前後數回ノ多
キニ及ヘリ
然レトモ正義竊カニ意ヘラク財政整ハサレハ百業擧ラス況ンヤ國家ノ安寧幸福ニ於テヲヤ故
ニ今議ノ財政ニ涉ルハ固ヨリ現職ノ重キヲ顧ミルニ在レハナリ仍テ自カラ揣ラス將來財政ノ
目的ニ就キ下文ニ鄙意ヲ開陳セントス區々ノ微衷冀クハ明察ヲ垂レヨ

謹テ按スルニ國ニ財政アルハ猶ホ人ニ氣脈アルカ如シ氣脈通セス死亡隨テ至ル財政整理セス
國家衰頽必ス隨フ豈安寧幸福ヲ期スルニ遑アランヤ
故ニ方今ノ急要ハ貨幣運用ノ機軸ヲ定メ正貨ヲ蓄積シテ紙幣償還ノ元貨ヲ充實セシメ物產ヲ
興隆シテ輸入ヲ制スルノ目的ヲ立テサル可ラス
貨幣運用ノ機軸ヲ定ムルトハ何ソヤ

日本帝國中央銀行

ヲ設立スル是ナリ其方法ノ要領左ノ如シ

第一　本行ハ日本帝國ノ中央銀行ニシテ卽チ貨幣運用ノ機軸トス

第二　本行ハ官民共立ノモノトス

第三　故ニ株金ハ廣ク公衆ニ募集シ政府ハ之ニ官金ノ出納ヲ委託スヘシ

第四　營業期限ハ二十五箇年ト定ムヘシ

第五　貲本金ハ當分壹千萬圓ヲ目的トナスヘシ

第六　頭取及ヒ取締役ハ政府ノ特ニ選任スルモノトス

第七　檢查役若干名ヲ置キ官民互ニ其半數ヲ選任スヘシ

第八　本行ハ大藏省ノ管理スルモノトス

第九　本店ヲ東京ニ設ケ各府縣樞要ノ地ニハ支店若クハ代理店ヲ置キ全國ノ氣脈ヲ通スヘシ
但漸次外國各地ヘ支店ヲ設クヘシ

第十　官金取扱上ノ利益ハ之ヲ二分乃至三分シ其一分ヲ本行ヘ下渡スヘシ

第十一　割引手形又ハ預リ手形等ノ發行ヲ許スヘシ

第十二　本行ノ營業ヲ分ッテ三部トス卽チ左ノ如シ

第一　官金出納部

第二　普通營業部

第三　外國爲換部

第一部

一　本部ハ國庫ノ支出收入ヲ取扱フモノトス

但當分ハ取扱上制限ヲ立ッヘシ

第二部

一　本部ハ銀行普通ノ營業ニ從フモノトス

但營業上小口ノ貸借ヲナサス專ラ各地諸銀行又ハ諸會社等ニ對シ全體ノ運用ヲ綜理スヘシ

一　本部ノ貸付金ハ八朱ノ利息ト定ムヘシ

但貨幣ノ運用活動スルトキハ一般ニ金利ノ下落スルハ當然ノ勢ナリ且ッ官金取扱上ノ利益ヲ加算シテ本文ノ如ク八朱ト定ム

第三部

一　本部ハ專ラ直輸ノ爲メニ荷爲換ヲナスモノトス

但現在橫濱正金銀行ヲ合併シテ本部ト定ムヘシ

一　荷爲換ノ利息ハ平均四朱ト定ムヘシ

一　海外ニテ荷物賣上金ハ本店ノ爲換トナスヘシ

以上銀行ノ營業ヲ區分スト雖モ事業ノ進捗ニ隨ヒ更ニ增減スルコトアルヘシ

今此三部ノ目的ニ就キ其主眼ヲ摘記スレハ左ノ如シ

第一部ノ主眼ハ政府費用收入ノ諸金額ヲ活動運用スルニ在リ

第二部ノ主眼ハ全國貨幣運用ノ景況ヲ注視シ其壅塞ヲ開クニ在リ

第三部ノ主眼ハ直輸貿易ヲ助ケ正金ヲ國庫ニ蓄積スルニ在リ

新ニ中央銀行ヲ設立スルニ於テ實際差支フルトキハ第十五國立銀行ノ性質ヲ變シテ實行スルモ妨ケ無カル可シ

中央銀行ヲ創立スルニ於テハ又

貯蓄銀行

ノ設立ヲ至要トス

現今各地方ノ農家ハ年々富有ノ實アルモ全國一般ノ金融ハ日ニ壅塞ニ赴キ金利ノ騰貴今日ノ如クナルハ皆各地方ニ餘財ノ堆積シテ流動活用セサルニ因ル故ニ全國一般財幣ノ需用ニ對スレハ其供給甚タ不足ナルモノト謂フヘキナリ左スレハ中央銀行ノ設立ニ際シ亦必ス本行ヲ設立シ地方ノ散金餘貲ヲ集合シテ廣ク活動スルヲ本旨トスヘシ

又人民ニ於テハ貯金ノ便且ッ利アルヲ知ッテ自カラ儉勤ノ念ヲ發生シ益ミ進ンテ貯蓄ヲ謀ルヘシ故ニ貯蓄ノ法ハ極メテ正確ナルヲ要スレトモ手數ハ成ルヘク煩雜ヲ省クヘシ

驛遞局現行ノ法ハ少シク更正ヲ加ヘ益〻擴張ヲ謀リ其集合シタル金額ハ皆本行ニ引受ケ運用スヘシ

先ツ右ノ如ク大要ヲ述ヘ左ニ方法ノ要領ヲ掲ク

第一　本行ハ全ク官立ノモノトス

第二　頭取ハ政府ノ特ニ選任スルモノトス

第三　營業期限ハ二十五年ト定ムヘシ

第四　本行ノ營業ニ制限ヲ立テ預金若干萬圓ニ至ルマテハ本行ノ運用ニ任セ其以上ノ金額ハ之ヲ中央銀行ニ繰込マシムヘシ

但中央銀行ハ本文ノ取扱ヲナスモ別ニ手數料ヲ要セサルヘシ

第五　預金ノ利子ハ年七朱ト定ムヘシ

第六　本店ヲ東京ニ置キ中央銀行ノ支店若クハ代理店アルノ各地ハ勿論成ルヘク全國一般ニ取扱所ヲ設クヘシ

第七　本行ハ大藏省ノ直管ニ屬スヘシ

中央貯蓄ノ兩銀行ヲ設立セシトキハ又

勸業銀行

ヲ設ケサルヘカラス

此銀行ハ專ハラ貨本流通ノ便ヲ謀リ物產ヲ興隆シ事業ヲ進捗セシムルヲ目的トナスヘシ其方法ノ要領ハ左ノ如シ

第一　本行ハ專ハラ農工業水陸運搬等ノ起業ヲ助クルモノトス

第二　本行ノ株金ハ人民ニ募集シ政府ハ十箇年間其利益ノ八分ヲ保證スヘシ

但本行ニハ社債證書ノ發行ヲ特許スヘシ

第三　貨本金ハ當分五百萬圓ヲ目的トナスヘシ

第四　頭取ハ政府ノ特ニ選任スルモノトス

第五　營業期限ヲ九十箇年ト定ムヘシ

第六　本店ヲ東京ニ置キ全國樞要ノ各地ニ支店若クハ代理店ヲ設クヘシ

第七　貸付金ノ利息ハ事業ノ難易輕重ニ因リ不同アルヘシト雖モ平均八朱ヲ超ユヘカラス

第八　本行ハ大藏省ノ管理スルモノトス

第九　土地ノ開拓等總テ事業上正確ナル目的ヨリ成立スル會社又ハ發起人等ヘ貨本ノ貸與ヲナストキハ其身元等地方廳ノ査定ヲ受ケタル後相當ノ抵當ヲ取リ貸與スヘシ

此銀行ノ目的ハ貨本流通ノ便ヲ謀ルニ在レハ成ル可ク利息ヲ低下ニスルノ精神タルヘシ

以上方法ノ要領ニ依リ斷然財政ノ目的ヲ定メ以テ困難ヲ救治スルニ非サレハ國家ノ事一ニ皆萎靡衰頽遂ニ言フヘカラサルノ慘狀ヲ招クニ至ルヘシ是レ正義カ杞憂ニ堪ヘス鄙見ヲ吐露スルノ第一義ニシテ切ニ政府ノ決行ヲ望ム所以ナリ

今ヤ政府ノ決行ヲ切望スルノ所以ヲ論スルニ先チ現今財政ノ目的ニ就キ正義カ甚タ惑ヘル所ノモノヲ擧ケ左ニ其疑問ヲ開陳セン

第一　紙幣ノ下落ヲ維持スルノ目的ハ如何

第二　正貨ノ濫出ヲ防遏スルノ目的ハ如何

第三　貿易ノ權衡ヲ恢復スルノ目的ハ如何

今爰ニ人アリ此三條ヲ擧ケテ正義ニ向ヒ政府ノ目的ヲ疑問スルモノアリトセン正義甚タ歸解ノ難キニ苦シム何ントナレハ正義固ヨリ政府ノ目的ヲ窺ヒ知ルコト能ハサレハナリ抑〻維新ノ業十四年ノ前ニ始マリ外部ノ觀漸ク美ヲ今日ニ見ハス財政ノ事亦十四年ノ前ニ改マル然レトモ內部ノ實未タ幾年ノ後ニ結フヲ知ラス外觀內實其相異ナル此ノ如シ理由ノ存スル所其レ果シテ安クニ在ルヤ

方今財政ノ困難ナル實ニ漸ク甚シトス現ニ金位ハ殆ント二倍ノ騰貴ニ至リ正貨ハ日ニ空乏ヲ告ケ隨テ紙幣ハ益〻下落ノ勢アリ然ルニ廟堂ノ上常ニ一定ノ議決無ク前途ノ目的茫乎トシテ存セス徒ラニ風潮ニ迷誤シテ苟息偸安皆自カラ外部ノ開明ニ小安スルモノヽ如シ正義竊カニ憂フ國家財政ノ事之ヲ今日ニ豫定セサレハ時勢ノ變之ヲ來日ニ測ル可カラスト

國ニ凶年饑歲ノ時變アルハ人力ノ得テ制スル所ニ非ス況ヤ內憂外患ノ豫期ス可カラサルニ於テヲヤ若シ爰ニ一國アリテ政府カ目的ノ定マラサルコト今日ノ如ク財政ノ整理ヲ失ヘルコト又今日ノ如クナルトキハ其救急備變ノ策ニ苦シムノ甚タ大ナルハ明治初年ノ凶歲及ヒ臺蕃西南兩役ニ於ケルト豈同日ニ論ス可ケンヤ

凡ソ國家ノ大事ヲ行フ必ス先ツ其目的ノ確然タルヲ要ス目的既ニ定マリ而シテ其達スヘキノ理勢アルヲ信スレハ斷然決行シ毫モ中道ノ困厄ニ撓マス唯其達ス可キノ地位ニ達セサレハ已

マサルノ主義ニ出ツ可シ然ラサレハ百事百業決シテ效績ヲ擧ル能ハサルナリ

此ノ如ク爲政ノ大要ヲ論述シ然ル後前文三條ノ疑問ニ對シ正義カ鄙見ヲ述ヘントス

第一條ノ目的ハ　正貨ヲ蓄積シテ準備ノ勢力ヲ增進スル事

第二條ノ目的ハ　輸出ヲ盛ンニシテ輸入ニ勝タシムル事

第三條ノ目的ハ　大ニ物產ヲ繁殖スル事

三條ノ目的ヲ別論スレハ上ノ如シト雖モ畢竟貨幣運用ノ機軸ヲ定ムルニ歸著スルモノトス故ニ下文ニ於テ現時財政困難ノ原由ニ遡リ此目的ノ動カス可カラサルノ所以ヲ詳悉セントス

現行紙幣ノ性質タルヤ維新ノ政變實ニ已ムヲ得サルノ擧ニ出テタルハ內外ノ人俱ニ皆明知スル所ナリ然レトモ此ノ已ムヲ得サルノ紙幣今日ニ至リ終ニ下落ノ勢ニ傾キ人皆困難ヲ訴フルニ及ヒタル以上ハ政府ハ當初發行ノ如何ニ拘ハラス之レカ償還ヲ謀ラサレハ其國民ニ對スルノ義務ヲ失フハ勿論國家前途ノ事復タ爲ス可カラス而シテ紙幣ノ下落ハ其原由スル所獨リ增發ノ故ノミニ非ス政府ノ準備空乏ヲ告クルコト年一年ヨリ多キニ因ル正貨ノ實體ニ勢力無キヤ此ノ如シ豈紙幣ノ虛影ノミ獨リ其勢力ヲ有スヘキノ理アランヤ又遡テ正貨空乏ノ原由ヲ索ムルトキハ一二ニシテ能ク盡ス可キニ非スト雖モ專ラ貿易ノ出入相償ハスシテ濫出ノ多キニ歸セサルヲ得ス貿易ノ出入相償ハサルハ物產ノ繁殖セサルニ原由ス物產ノ繁殖セサルハ貨幣運用ノ機軸定マラスシテ貨本礙滯ノ故タルヤ明ラカナリ

然ラハ則チ紙幣ノ下落ハ正貨ノ足ラサルニ因シ正貨ノ足ラサルハ物產ノ繁殖セサルニ因ル物產繁殖セサルハ貨幣運用ノ機軸定マラサルニ歸スルモノタリ去レハ前段述フル所ノ方法ハ最

モ急要ノ目的ニシテ毫モ疑フ可キ無シ

恭シク惟ミレハ昨十三年國費節減ノ聖諭タルヤ固ヨリ

天皇陛下ノ至仁至愛ナル英旨ニ出テ上下官民ノ共ニ感戴スルヤ深シ爾後官省ノ費途ニ就キ其

節減シ得ヘキモノハ皆勉メテ節減ノ目的ヲ立テ十四年度ニハ自カラ國庫ニ餘裕ヲ生シ

陛下ノ聖諭ニ對フルノ名アレトモ前途財政ノ實績ヲ擧クルニ於テ政府ノ目的ハ安クニ在ルヤ

未タ窺ヒ知ル所ナシ故ニ今爰ニ政府ノ目的ニ就キ明言スル能ハスト雖モ世ノ論者ハ紙幣ノ下

落ヲ以テ單ニ其增發ニ歸シ減却ノ說ヲ唱フレトモ正貨ヲ收メテ償還スルノ法アルヲ知ラス物

產興隆ノ事ニ於テハ紙幣ヲ便用シテ貨本ヲ流通スルノ道アルヲ辨セス漫ニ勸奬保護ヲ非議ス

ルハ蓋シ時勢ニ濶ニシテ論理ニ惑ヘルノ甚シキモノト謂ハサルヲ得ス

論者ノ議スル所ハ今姑ラク論者ノ議ニ任セ深ク辯スルニ足ラサルモノトシ現ニ政府カ財政ノ

實績ニ就キ更ニ二三ノ卑見ヲ吐露シ益前段ノ目的ヲ鞏固ナラシメントス

今大藏省ノ事務タルヤ之ヲ歐米ノ成法ニ取リ改定斟酌シテ實行スルモノトス故ニ出納簿記ノ

周密ナル漸ク其端緒ヲ得殆ント完全ノ狀外部ニ現ハルト雖モ其效績ノ顯然タルモノ無キハ所

謂機軸定マラスシテ貨幣ノ運用其度ヲ得サレハナリ

大藏省ハ財政ノ本部タルカ故ニ大藏卿ハ能ク全國貨幣ノ運用上其礙滯圓通ノ景況ヲ腦裡ニ統

轄シ歲入出ノ豫算決算等精確ニシテ其實ヲ失ハス內外人民ノ信用ヲ收攬スルハ固ヨリ其職分

トス然レトモ實際ニ貨幣ノ活動ヲ謀リ或ハ某ノ會社ニ貨本ヲ貸與シ某ノ銀行ニ官金出納ノ一

部ヲ委託スル等大藏省ノ直接ニ關涉スルハ其當ヲ得タルモノニ非ス却テ準備ノ正貨ヲ消耗シ

テ危殆ノ狀ヲ現出スルノ弊害ヲ招ク可キナリ

今ヤ國立銀行ノ設ケ全國ニ遍ネシト雖モ其營業上各〻其利益ヲ利益トシ其目的ヲ目的トス故ニ

其全國ニ利スル所ノモノハ其害スル所ノモノ多キニ及ハス金利ノ高貴ナル貨本ノ壅塞スル物

產工業ノ振起セサル等今日ノ不幸ヲ生シタルハ各銀行カ營業上ノ弊害又其一部ヲ免カレスト

雖モ畢竟政府カ財政ノ目的確然タラサルニ因レハナリ

中央銀行ノ第一目的ハ既ニ前文ニ詳カナリ其第二目的ハ事業ノ進捗ニ隨ヒ漸ニ就キ機ヲ圖リ

全國大小國立銀行ノ發行紙幣ハ皆悉ク中央銀行ニ收メ其性質ヲ變シテ私立ノモノタラシメ又

政府ノ紙幣ヲモ廢止シ獨リ中央銀行ノ一種トナスニ在リ

故ニ中央銀行設立ノ後ハ各地國立銀行ニ令シテ先ツ利息ヲ通シテ一割ト定メシムヘシ斯ク利

息ノ制限ヲ立ツルモ國立銀行ハ皆公債證書ヲ抵當トナシ紙幣ヲ發行スルノ特許ヲ有スルカ故

ニ敢テ不應ノ制限ニハ非ラサルヘシ

中央銀行ハ貯蓄勸業兩銀行ト相鼎立シ一ハ全國貨幣ノ機軸トナリ一ハ勸業ノ媒介者トナリ共

ニ國ヲ益シ人ヲ富マスノ至大要具トス財政ノ目的豈又他ニ求ム可ケンヤ

竊カニ歐洲諸國カ財政ノ要訣ヲ考フルニ專ハラ貨幣運用ノ機軸ヲ確クシ毫モ淹滯礙塞ノ憂ヒ

無ク勸業ノ事ト相待テ富强ノ實ヲ擧ケサルモノ無シ

今近ク之ヲ全國ノ現狀ニ考ヘ遠ク之ヲ歐洲ノ實例ニ證スルモ財政ノ目的ハ中央銀行ノ設立ニ

歸スルヲ信スルナリ

斯ノ如ク財政ノ要領ヲ說キ本論ヲ結フニ當ツテ嗚咽涕泣言ハント欲シテ言フ能ハス然レトモ

衷情湧クカ如ク默セント欲シテ遂ニ亦默スルニ忍ヒサルモノアリ左ニ其要ヲ開陳セン

政府ノ目的上ニ定マラス人心下ニ動キ上下共ニ時勢ノ流潮ニ左右セラレテ苟息偸安歸著スル所ヲ知ラス他日財政ノ益〻危殆ニ陷キルニ至ルヤ必ス資本ヲ外國ニ仰クノ說ヲ生スヘシ獨リ其說ノ生スルノミナラス必ス實際ニ其事ヲ行ハサルヲ得サルノ不幸ニ沈淪ス可キナリ今試ニ我國ノ現狀ヲ見ヨ稅權ト雖モ法權ト雖モ一モ我ニ歸スルモノナク貧困羸弱ノ地位ニ在ルニ非スヤ而シテ知識才力共ニ富饒ノ外人ニ其資本ヲ仰キ之ヲ以テ內地ニ散布スル時ハ固ヨリ一時正金ノ流通ヲ得ヘシト雖モ其患害ノ百出スルハ言ハスシテ明ラカナリ果シテ然ルトキハ國家ノ事復タ爲ス可カラス此時ニ當リ設ヒ本論ノ目的ヲ行ハント欲スルモ時機既ニ空滅噬臍及ハス全國ノ形勢ハ變シテ埃及、土耳格若クハ印度ノ如キ慘狀ニ陷キルモ唯空シク手ヲ束ネテ待ツコトアラン〻測ル可カラス正義一念此ニ及フ毎ニ忽チ肌膚粟ヲ生シ悚然タラサルモノナシ若シ政府カ正義ノ議スル所ヲ以テ取ルヘキモノトシ之レヲ實行スルトセンカ正義又切ニ望ム所アリ他ニ非ス只政府カ斷然不拔ノ目的ヲ以テ決行センコトヲ欲スルノミ若シ果シテ然ラス優々依々世ノ流潮ト相浮沈シ定見ナキコト今日ノ如キアラハ正義固ヨリ其實行ヲ希ハサルナリ設ヒ實行スルモ斷シテ其益ナキヲ信スレハナリ

前段述フル所、論或ハ激迫ニ涉リ或ハ意ノ盡サヽルヲ恐レス敢テ卑見ノ大要ヲ開陳セリ明察ヲ賜ハヽ幸甚若シ夫細目ニ涉ルモノハ他日推問アルノ時ニ於テ更ニ上陳スル所アルヘシ切々懇々ノ至リニ任ス正義頓首誠恐

內務卿 松方正義

明治十四年九月

太政大臣三條實美殿

日本銀行創立ノ議

伏シテ惟ミルニ維新以來政令法度丕ニ更張ヲ圖ルト雖モ獨リ財政ノ一途ニ至テハ未タ其宜キヲ得サルモノ殊ニ多ク今其最モ大ナル者ヲ擧クレハ曰金融ノ梗塞ナリ曰利息ノ昂騰ナリ曰兌換紙幣ノ未タ國內ニ行ハレサルナリ曰會社銀行等ノ資力擴張スルニ由ナキナリ曰國庫出納ノ便益ヲ圖ルノ機關ナキナリ曰手形割引ノ未タ全國ニ普行セサルナリ此數者ハ財政上ニ於テ最モ重要ノ關係ヲ有スルモノニシテ我邦財政ノ萎靡振ハサル所以ノモノハ職トシテ是ニ之レ由ル苟モ今ニ及テ大ニ釐革更張スル所アルニアラスンハ其レ將タ何レノ日カ之ヲ救治スルヲ得ンヤ曩者國立銀行正金銀行等ノ設ケアルヤ其效亦觀ルヘキモノ無キニ非スト雖モ之レヲ要スルニ一時濟急ノ策ニ出テ亦タ未タ財政救治ノ偉功ヲ奏スル能ハサリキ今若シ我國財政ノ困厄ヲ救治セント欲セハ先ツ中央銀行ヲ設立シ之ヲ名ケテ日本銀行ト稱シ以テ全國理財ノ樞機ヲ執ラシムルヨリ亘キハ莫カルヘシ抑〻中央銀行ノ制タル政府ノ監護ヲ受ケ財政ノ要衝ニ立チ民間金融ノ壅塞ヲ開キ國庫出納ノ便益ヲ助クル者ニシテ歐洲諸國能ク今日ノ富强ヲ致ス所以ノモノ固ヨリ一ナラスト雖モ蓋シ亦中央銀行ノ力與テ居多ナリト謂ハサルヘケンヤ且夫レ幣制ハ一國財政ノ最モ重要ナルモノナレハ我邦今日ノ不換紙幣ノ如キモ其減スヘキハ之レヲ減シ終ニ他日兌換ノ制ニ復センコトヲ是レ正義カ夙夜切望スル所ナリ然リト雖モ事ヲ擧ル必ス順序アリ先後アリ若シ幣制ノ改亘ヲ望マハ先ツ中央銀行ノ設立ヲ以テ第一著手ト爲サヽルヲ可カラス故ニ正義我邦慣習ノ利弊ヲ察シ各國財政ノ得失ヲ考ヘ深ク之ヲ旣往ニ鑒ミ遠ク之ヲ將來ニ

慮リ此ニ日本銀行條例ヲ草シ別ニ日本銀行定款一冊及ヒ日本銀行創立旨趣ノ說明一冊ヲ添ヘテ以テ上ル但此定款ナル者ハ本條例裁定頒布ノ上條例第二十三條ノ主意ニ基キ日本銀行ヨリ之レヲ政府ニ奉呈セシメ其認可ヲ得テ之ヲ實施執行セシムヘキ者ナリト雖モ今其組織營業等ノ詳細ヲ示サンカ爲メ此ニ之ヲ付呈ス而シテ其主趣ノ若キハ別冊說明ヲ以テ詳悉開申ス請フ之ニ就テ覽觀ヲ賜ハランコトヲ且此說明中ニ記載スル政府ニテ日本銀行資本ノ半額ヲ引受ケ之レカ株主トナルノ一議ニ至テハ更ニ他日ヲ以テ稟議上請スルコトアラントス顧フニ此擧ヤ我邦財政ノ機關ヲ一變スルノ重事ニシテ固ヨリ一朝一夕ニシテ其成功ヲ期ス可キニ非スト雖モ若シ能ク今日ニ及テ姑息ニ安ンセス躁急ニ走ラス目途ヲ永遠ニ期シ進歩ヲ漸次ニ取リ一意黽勉敢テ倦怠スル勿ンハ則チ數年ヲ出スシテ金融開通シ國產繁殖シ我日本帝國ノ財政始メテ更張振作スルヲ得ヘキハ斷シテ疑ヲ容レサル所ナリ伏シテ冀クハ國家財政ノ利弊ト既往將來ノ時勢トヲ洞察セラレ速ニ日本銀行創立ノ儀ヲ裁定シ其條例ヲ頒布セラレンコトヲ

大藏卿　松方正義

明治十五年三月一日

太政大臣　三條實美　殿

日本銀行創立趣旨書

凡ソ天下ノ事財政ヨリ大ナルハ莫ク又財政ヨリ要ナルハ莫シ國運ノ隆替民命ノ休戚一トシテ財政ノ利弊得失ニ由ラサルハナシ

熟ラ我邦財政ノ景況ヲ察スルニ金融常ニ一方ニ澁滯シ財路通セス資本缺乏シ金利昂騰シ民間ノ貸借ハ爲メニ益〻澁滯シ加フルニ輸出入常ニ相償ハス金銀貨幣ノ外出年一年ヨリモ甚シク隨

ヒテ貨紙幣ノ間ニ非常ノ差違ヲ生シ眞貨幣ハ既ニ通貨トシ用フルヲ得サルニ至レリ是ヲ以テ各製造者諸商估等資本缺乏ノ爲メニ皆其事業ヲ阻碍セラレサルハナシ嗚呼我邦財政ノ困難今日ニ至ツテ殆ント極レリト謂フヘシ

夫レ銀行ナルモノハ金融ヲ疏通シ財政ヲ救濟スルノ機關ナリ而ルニ今我國立銀行ノ數ハ本支店ヲ併セテ二百六十餘ノ多キニ及ヒ其發行紙幣ノ全額ハ參千四百有餘萬圓ノ多キニ達シナカラ猶且ツ我財政今日ノ困難ヲ來セシ所以ノ者ハ何ソヤ

曾テ我國立銀行ノ沿革ヲ考フルニ維新ノ際政府大ニ金融ノ壅塞ヲ憂ヘ明治二年始メテ爲替會社ヲ各地方ニ設立シタレトモ營業其宜ヲ得ス得失相償ハサルヲ以テ明治五年更ニ米制ニ倣ヒ國立銀行條例ヲ頒布シ尋イテ同九年八月ヲ以テ改正條例ヲ頒布セラル蓋シ當時ニ在テハ事創始ニ係リ焦眉ノ急ヲ救フニ汲々トシテ未タ廣ク歐洲諸國ノ慣例ヲ探リ之ヲ既往ニ考ヘ之ヲ將來ニ慮カルニ遑アラサル者アリキ是レ其完全無疵ノ銀行ヲ成ス能ハサル所以ニシテ蓋シ亦時勢ノ然ラシムル所ナリ

夫レ然リ現在國立銀行ノ大ナルハ四五拾萬圓（二三ヲ除クノ外）小ナルハ五六萬圓ニ過キサル小資本ヲ以テ各地方ニ割據シ互ニ雄對峙ノ狀ヲ爲シ痛痒相關セス首尾相救ハサルノ情況アルヲ免レス是ヲ以テ五萬圓ハ止タ五萬圓ノ用ヲ爲シ拾萬圓ハ止タ拾萬圓ノ用ヲ爲シ曾テ其資力ヲ倍用スル能ハス隨テ金利得テ低下ス可ラス則チ金融ヲ疏通シ財政ヲ救濟セント欲スルモ得ヘケンヤ我邦往時封建ノ世大小侯伯全國ニ碁峙シ國內更ニ數十百ノ小政府ヲ樹立シタリシカ今ヤ中央政府アリ各地政廳アリテ脈絡相通シ首尾相應シ以テ帝國全般ノ政務ヲ綜理經營スルコト、

ナレリ顧フニ我邦ノ銀行ハ猶ホ封建ノ制ノ如ク百五十許ノ銀行相視ルコト秦越胥ナラス常ニ自持ニ汲々トシテ復タ他ヲ顧ミルニ遑アラサル者アリ今ヤ政治上ノ郡縣已ニ其形ヲ成スト雖モ財政上ノ封建未タ其跡ヲ絶タス是レ蓋シ我邦ノ財政ト政治ト雙進竝行スル能ハサル所以ナラン カ若シ此弊ヲ除カント欲セハ宜シク中央銀行ヲ設立シ之ヲシテ財政ノ樞要ニ當リ全國銀行ノ融和ヲ助ケシメ今日財政上封建ノ勢ヲ變シテ郡縣ノ形ヲ成サシムルニ若クハナカルヘシ」

今歐洲各國ニ於テ中央銀行ヲ創立セシ所以ヲ察スルニ國各〻其情勢ヲ異ニスト雖モ其金融ヲ疏通シ財政ヲ救濟スルノ目的ニ至ツテハ均シク一ナリ金融ノ民間ニ於ケル猶ホ血液ノ人身ヲ循環スルカ如シ而シテ其能ク血液ヲ聚散シ循環セシムルモノハ心臟是レナリ蓋シ中央銀行ナル者ハ一國金融ノ心臟ニシテ若シ之レ無クンハ何ヲ以テ能ク全國ノ貨財ヲ流通シ聚散離合其宜ヲ得セシムルヲ得ンヤ是レ歐洲各國悉ク中央銀行ノ設アラサルハナキ所以ナリ

今我邦ノ事情ト歐洲諸國ノ事情トハ東西古今固ヨリ相同シカラスト雖其實貨ノ缺乏利息ノ昂騰紙幣ノ低落金融ノ梗塞國立銀行ノ完全ナラサル貿易ノ權衡ヲ得サル手形切手ノ全國ニ行ハレサル等以テ理財ノ困厄ヲ來セシカ如キニ至ツテハ則チ歐洲諸國ト同ク一轍ニ出テタリト謂フモ敢テ不可ナカルヘシ冀クハ今ニ及ンテ前途ノ目的ヲ定メ速カニ中央銀行ヲ設立シ著實ニ歩ヲ進メ信用ヲ旨トシ全國理財ノ樞要ヲ執ラシメ以テ金融ヲ疏通シ財政ヲ救濟スルノ大目的ヲ達セラレンコトヲ是レ正義カ切ニ希望スル所ナリ

今將サニ中央銀行ノ今日ニ設立セサル可カラサルノ理由ヲ擧ケテ左ニ開陳セントス

第一　金融ヲ便易ニスル事

現今國立銀行ノ景狀タルヤ各地方ニ對峙シテ互ニ相融通シ以テ相補フノ術ナシ勿論銀行間互ニ「コルレスポンデンス」ヲ結ヒ有無相補フノ道ナキニ非スト雖他店ト他店ノ間ニ在テハ流通運轉ノ難易決シテ本店ノ支店ニ於ケルカ如キコト能ハス多クハ自ラ維持スルニ汲々トシテ他銀行ノ缺乏ヲ補フニ遑アラス是ヲ以テ繁劇ハ益〻繁劇ヲ加ヘ遂ニ金融ノ逼迫ヲ致シ緩慢ハ益〻緩慢ヲ加ヘ遂ニ庫中ニ遊金アルニ至ル是レ豈貨幣ノ繁閑ヲ量リテ一國ノ金融ヲ平準スルノ法ナランヤ今夫レ中央銀行ヲ設立シ各地方ニ於テ堅確ナル國立銀行ヲ以テ支店ト同視シ之レト「コルレスポンデンス」ヲ結約セシメハ貨財流通ノ線路全國ニ貫進スルヲ得テ聯絡融和ノ氣ヲ開クニ至ルヘシ而シテ中央銀行ハ財政ノ要路ニ立チ全國商業ノ繁閑ヲ察シ甲乙地方ニ運轉流通スルコト恰モ心臟ノ血液循行ヲ司トルカ如クナラン是ニ於テカ始メテ貨幣ノ繁閑ヲ平準調均シ一國ノ金融ニ澁滯梗塞ノ患ナキヲ得ルニ至ルヘシ

且ツ夫レ現今各地方銀行ノ營業者ハ大率ネ姑息苟且弊風相沿リ動モスレハ一時ノ融通ヲ紙幣準備金ニ試ミントスル者アルヲ免レス今若シ中央銀行ニテ各地方ノ國立銀行ト訂約シ政府ハ條例ヲ以テ之ヲ規シ中央銀行ハ利益上ヨリ之ヲ檢査シ務メテ嚴肅周密ヲ主トシ以テ之ヲ奬勵シ誘導スルニ於テハ銀行ノ資力益〻堅確ヲ加ヘ世人ノ信用決シテ今日ノ比ニ非サルヘシ果シテ然ルトキハ商業上積年ノ弊風始メテ一變スルヲ得ヘシ是レ中央銀行ノ設立セサル可カラサル一ナリ

第二　國立銀行諸會社等ノ資力ヲ擴張スル事

現今ノ國立銀行ハ其資本寡少ニシテ信用ノ薄弱ナルハ既ニ前文ニ縷述セルカ如シ夫レ資本寡

少ナレハ常ニ不時ノ需用ニ苦ミ信用薄弱ナレハ其勢預金ヲ減シテ其營業縮少セサルヲ得ス例ヘハ此ニ資本拾萬圓ノ銀行アリ五萬圓ヲ以テ手形割引其他ノ營業ニ充用シ殘ル五萬圓ヲ以テ手形割引ニ從事スルトセンニ金融繁忙ノ日ニ當テハ手形割引ノ依賴預金引出ノ請求陸續相踵キ終ニ已ムヲ得ス其請求ヲ謝絕シテ唯ニ平生ノ得意先キヲ失スルノミナラス忽チ商業社會ノ信用ヲ失シ人之ヲ目シテ倒行鎖店近キニ在リトシ他ノ銀行會社モ亦容易ニ其有金ヲ融通スル能ハスシテ其極終ニ倒行鎖店ノ不幸ニ至ランモ知ルヘカラス是レ蓋シ巨百萬ノ資本ヲ備テ一時貨幣ヲ融通スルノ財源ナキニ由ルナリ

又東京市場ニ於テ金融逼迫ノ時ニ當リ試ミニ五六拾萬乃至百萬圓ヲ注出セヨ全部ノ金融ハ依然トシテ洋々順流スルヲ見ルヘシ顧フニ僅々五六拾萬乃至百萬圓ノ貨幣ヲ注出シタリトテ全部商估ノ需用ニ應スルノ理ナカルヘケレハ曩者ニ金融逼迫ノ聲市場ニ恟然タリシハ蓋シ一二銀行カ一時金融ニ迫リ手形ノ取付金ヤ其他預金等ノ仕拂ヲ怠リ二三商人カ隨テ之カ木鐸トナリシニ由レリ然レハ則チ金融逼迫ノ虛聲ヲ遏メント欲セハ一時貨幣ヲ融通シテ其一二銀行ヲ幇助スルノ財源ヲ開クヨリ急ナルハナシ

今若シ中央銀行ヲ設立シ之ヲシテ貸付割引等ヲ以テ專ラ金融ヲ開キ商業ヲ助ケシムルトキハ資金ノ缺乏ニ際シ昨日迄引承ケタル割引手形ヲ以テ中央銀行ニ至リ再割引ヲ依賴スルカ又ハ其所持ノ公債證書ヲ抵當トシテ一時需用ノ貨幣ヲ融通スルヲ得ヘキナリ

其他一般ノ商工會社ノ如キモ事業ノ伸張ト金融ノ流轉ト一時其度ヲ失ヒ爲メニ困難ノ時機アルハ是レ經濟世界ニ於テ得テ道ル可カラサルノ常數ナリ是時ニ當リテ中央銀行アリ常ニ其資

力ヲ幇助スルアラハ則チ能ク其困難ヲ排除シテ社會一般ニ利益スル所果シテ幾許ソヤ是レ中央銀行ノ設立セサル可カラサル二ナリ

第三　金利ヲ低減スル事

夫レ金利ノ昂低ハ必スシモ通貨ノ盈虛ニ在ラスシテ常ニ貸金資本ノ消長ニ從フモノナリ

現今國立銀行ノ數殆ト百五十餘行發行紙幣ノ總額前後參千四百餘萬圓ノ多キニ及ヒ之ニ加フルニ政府發行ノ紙幣ヲ以テスレハ無慮壹億四千萬圓許ニ達スヘシ今之ヲ全國三千四百餘萬ノ人口ニ當算スレハ固ヨリ歐米各國ニ於ケル通貨ト人口トノ比例ニ及ハサル者アリト雖モ亦我邦人民生計ノ程度商工事業ノ需要ヲ以テ彼ニ比較推算スルトキハ豈其レ之ヲ夥多ナラスト言フ可ケンヤ全國流布ノ通貨既ニ已ニ此巨額ニ登レリ而シテ猶ホ金融ノ壅塞ヲ告ケ利息ノ昂騰ニ苦ム所以ノモノハ蓋シ現今國立銀行ノ營業未タ其宜キヲ得サルニ職由スルナリ

現今國立銀行ノ資本寡少ニシテ信用ノ薄弱ナルハ既ニ前文ニ論述スルカ如シ加フルニ當業者ハ常ニ利ヲ金利昂騰ノ間ニ射ルコトヲ知リテ復タ之ヲ金融運轉ノ內ニ求ムルコトヲ知ラス或ハ銀行株券ヲ抵當トシ或ハ公債證書ヲ抵當トシ其甚シキハ家屋地券或ハ自店ノ株券ヲモ抵當トシ貸付期限ノ如キモ長キハ二三年短キモ五六箇月ニ下ラス久シク一事一業ニ固著シテ動カス抵當品ハ一種固著ノ性質ヲ有スルモノニシテ夫ノ割引手形ノ如ク今日之ヲ甲ヨリ引受ケ明日之ヲ乙ニ賣却シ以テ一時貨幣ヲ融通シ得ルノ便ナキモノナリ夫レ然リ是ヲ以テ金融繁忙ノ日ニ遭フト雖モ毫モ目下ノ需要ニ供スル能ハス是レ我國立銀行カ常ニ貸金資本ノ缺乏ニ苦ム

所以ナリ貸金資本缺乏スレハ卽チ金利ノ昂騰セサランコトヲ欲スト雖モ得ヘケンヤ

中央銀行ハ其體面ヨリ之ヲ名稱スレハ乃チ中央銀行ナリト雖モ其營業ヨリ類別スレハ乃チ所謂割引銀行ニシテ手形割引ヲ以テ本務トスルモノナリ拿破崙一世曾テ參事院ニ臨ミ揚言シテ曰ク「銀行營業ニ於テ吾レ唯割引アルコトヲ知ル其他ヲ知ラス」蓋シ割引ノ銀行營業ニ於テ最モ實著活潑ニシテ商業上ニ鴻益アルヲ言フナリ歐洲諸國中央銀行ノ營業ヲ通觀スルニ固ヨリ各種ニ涉ルト雖モ手形割引ヲ以テ其事業十中ノ八九ヲ占ムル者ハ蓋シ是カ爲メナリ

夫レ中央銀行ニテ割引スル手形ハ三人以上資產確實ナル者ノ調印アルカ故ニ其仕拂確實ナルノミナラス必ス仕拂期限ノ百日以內ニ在ル者ヲ擇フカ故ニ資本金ノ流動暫クモ淹滯スルコトナシ勿論中央銀行ト雖モ公債證書、鐵道證券、政府手形等ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲サヽルニ非スト雖モ多クハ三十日若クハ四十日ヲ以テ期限ト爲スヘキカ故ニ資本金久シク銀行ヲ離ルヽノ患ナケレハ豈復タ貸金資本ノ缺乏ニ苦ムカ如キコトアランヤ

今若シ中央銀行ニテ割引ノ步合ヲ低下シテ一般ノ利息ヨリモ二三銖ヲ低落シタリトセハ忽チ貨幣ノ融通ニ影響ヲ及ホスヘキカ故ニ諸會社銀行等ノ若キモ從テ利息ヲ低下スルニ至ル可シ縱令兩換店若クハ小金貸等ノ若キ或ハ時ニ乘シ機ヲ見テ偶〻高利ヲ射ル者ナキニ非スト雖モ商業世界ノ大機關ニ至テハ蓋シ大概ネ中央銀行ノ發動ニ從ハサルヲ得サルヘシ故ニ中央銀行ハ利息昂低ノ權ヲ掌握スト謂フモ敢テ誇稱ニ非サルナリ是レ中央銀行ノ今日ニ設立セサルヘカラサル三ナリ

第四　中央銀行ヲ設立シ行務整頓ノ日ニ至テハ大藏省事務ノ中央銀行ニ託シテ弊害ナキモノハ分チテ之ニ附スル事

凡ソ政府ノ本務ハ國家ノ康寧ヲ保チ民庶ノ治安ヲ圖ルニ在リテ夫ノ商業貿易等ノ如キ人民ト直接ニ利益ヲ爭フノ事業ハ政府ノ敢テ自ラ爲ス可キモノニ非ラサルナリ

今我國ノ信用未タ厚カラス國位ノ未タ高カラサル所以ノモノハ何ソヤ曰ク實貨缺乏スレハナリ蓋シ實貨ナル者ハ人ニ在レハ一人ノ信用ヲ厚フシ國ニ在レハ一國ノ價格ヲ高フス然レトモ人ニ在テハ耳目鼻口ノ嗜好ニ從ヒ常ニ囊底ヨリ放出スルノ傾向アリ國ニ在テハ貿易取引ニ從ヒ常ニ國境ヨリ離出スルノ傾向アリ是レ固ヨリ貨幣ノ常觀ニシテ人力ノ得テ支撐シ得ル所ニ非サルナリ鎖國封港ノ往時ハ姑ラク之レヲ舍キ旣ニ外國交通ノ今日ニ在テハ內國ノ實貨ハ必ス內國ノ商況ニ依テ國境ヲ離出スルノ患アルヲ免レス況ヤ輸出入ノ相償ハサル必ス實貨ヲ以テ其闕ヲ補充セサルヲ得サルニ於テオヤ然ラハ則チ實貨回收ノ機關ヲ具フル豈亦急務ナラスヤ而シテ其機關ニ當ルモノハ果シテ商人ニ在リトスルカ曰ク然ラス商人ハ利ヲ錙銖ニ爭ヒ損ヲ絲厘ニ恐ルヽ者ナレハ徒ニ內國ノ物品ヲ彼ニ販賣シ其得ルトコロノ貨幣ヲ擧ケテ之ヲ內國ニ輸入スルカ如キハ決シテナサヽルヘシ必スヤ彼ノ物品ヲ仕入レ之ヲ內國ニ輸入シテ其間大ニ利益ヲ謀ルヘキハ商人ノ常情ナリトス或ハ實貨ノ儘ニテ輸入スル者アルヘシト雖モ是レ特ニ內外一時ノ商況ニ由ルモノニシテ之ヲ平時ニ望ムコトヲ得ス故ニ曰ク實貨回收ノ任ハ敢テ之ヲ商人ニ望ムヘカラスト

其任ニ當ルモノハ惟リ政府アルノミト雖モ政府ハ自カラ商業ニ從事スヘキモノニ非ス必ラス之レカ機關ヲ備ヘ以テ幣制ヲ正フシ且ツ實貨出入ノ均調ヲ保タシメサル可ラス而シテ其機關

ハ卽チ中央銀行是レナリ歐洲各國政府ハ常ニ中央銀行ヲ保護シ國庫ノ出納ヲ以テ之ニ付託シ若シ官金ニ餘裕アル時ハ之ヲ用ヒテ外國手形地金銀等ヲ買入レシメ日夜注意シテ實貨回收ノ策ヲ怠ラス我國實貨ノ外出ヲ促スモノハ固ヨリ輸出入ノ權衡ヲ得サルニ由ルコト居多ナリト雖モ亦外國政府カ其中央銀行ノ力ニ依テ日夜吸收セシムルニ由ルニ非サルヲ得ンヤ

今若シ中央銀行ヲ設立シテ百事整頓ノ日ニ至テハ國庫出納國債償却等ノ事務ヲ分チ以テ之レニ附シ官金ノ繁閑ヲ量リテ商業手形割引等ニ使用セシメ以テ國庫ノ殖益ヲ圖リ併セテ民間融通ノ便ヲ助クヘシ而シテ若シ官金ノ餘裕ヲ生スルトキハ漸次之ヲ蓄積シ專ラ內外貨幣地金銀等ヲ購收スルノ資ニ充テ漸ヲ以テ政府發行ノ紙幣ヲ交換セシムヘシ若シ果シテ然ルトキハ金貨輸入ノ道始メテ開通シテ數年ノ後兌換紙幣ノ美制ヲ見ルニ至ルヤ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ然レトモ我邦ノ歐米諸國ニ於ケルヤ船舶ノ往來常ニ數閱月ヲ要ス夫ノ英佛諸國カ土壤相接シ朝ニ往キ夕ニ來ルカ如キコト能ハス加フルニ爲替相場ノ變動常ナキヲ以テ時アリテハ爲替運送費保險料等ノ損失ヲ蒙ランモ測ル可カラス去リトテ此損失ヲ憚リテハ猶ホ夫ノ一般商人トノ異ナル所幾ク モ無ク到底實貨輸入ノ日ヲ見ルコト能ハサルヘシ

故ニ若シ不幸ニシテ損失ヲ蒙ムルコトアルニ於テハ政府自カラ之ヲ補充スルノ道ヲ求メ官金運轉ノ利益ヲ以テ之ヲ支辨スヘキナリ抑モ官金ハ一國經營ノ公資敢テ之ヲ輕忽ニスヘキニ非スト雖モ官省府縣ノ支出ハ自ラ經常恒規アリテ決シテ一時ニ之カ總額ヲ要スルモノニ非サレハ若シ適當ノ法ヲ設ケ收入支出ノ繁閑ヲ量リテ其餘剩ヲ使用セハ敢テ顧慮スルニ足ラサルナリ故ニ他日中央銀行事務整頓ノ時ニ至ラハ政府ハ先ツ國庫出納條例ヲ制シ銀行內ニ別ニ國庫部

ヲ置キ官金出納ノ事務ヲ掌ラシメ銀行一般ノ事務トヲ判別シ專ラ諸官廳經常ノ支出ヲ辨シ其緩暇ヲ見テ國庫殖益ノ爲メニ確實ナル商業手形ヲ割引シ或ハ確實ナル抵當アルモノハ期限ヲ短クシテ貸付等ニ使用セシメハ爲メニ年々幾拾萬圓ノ利益ヲ生スルヤ必セリ是レ卽チ歐洲各國政府ノ官金ヲ中央銀行ニ付託シテ國庫ノ殖益ヲ圖ラシムル所以ナリ我國他日此殖益ヲ見ルノ日ニ至ラハ其利得スル所ハ皆正租雜稅ノ外ニ在リテ一種ノ裕餘金ヨリ生セシモノナレハ之ヲ以テ實貨輸入ノ諸費其他ノ損失ヲ補充セハ卽チ正租雜稅ノ正額ヲ傷クルノ患ナクシテ而シテ實貨輸入ノ功ヲ奏スルニ至ルヘキヤ必セリ

今若シ中央銀行ヲシテ國立銀行其他ノ諸會社ヲ幇助シ時ニ乘シ機ヲ察シテ其資力ヲ培養スルコト恰モ歐洲各國ノ中央銀行カ私立銀行及ヒ諸會社等ニ於ケルカ如クナラシメハ則チ政府カ朝ニ一會社ヲ補助シ夕ニ一事業ヲ保護スルノ煩ナク又事ニ後レ機ヲ失スルノ憂ナカルヘキナリ果シテ然ハ則チ政府ノ保護スル所ハ獨リ中央銀行ニシテ其ノ滋潤養息スル所果シテ如何ソヤ

又中央銀行ニ國庫ノ出納ヲ託シ其緩暇ヲ見テ民間ノ融通ヲ助ケシメハ貨幣一タヒ租稅トナリテ官庫ニ入ルモ亦割引貸付等ニ使用セラレ民間ニ下リテ市場貨幣ノ缺乏ヲ補フヲ得ヘシ果シテ然レハ則チ啻ニ國庫殖利ノ利アルノミナラス周年貨幣ノ繁閑始メテ平準調均スルヲ得ヘシ是レ中央銀行ノ設立セサル可カラサル四ナリ

第五　外國手形割引ノ事

今人財政ヲ談スレハ輒チ曰ク財政ノ困難ハ金貨ノ濫出ニ由ル金貨ノ濫出ハ外國貿易ノ權衡ヲ

得サルニ由ルト蓋シ我ヨリ壹千萬圓ノ貨物ヲ輸出シ彼レヨリ壹千貳百萬圓ノ貨物ヲ購求スルトセハ則チ其差額貳百萬圓ヲ償フカ爲メニ我レノ實貨ヲ以テ之ニ充テサル可カラス故ニ輸出入ノ相償ハサルハ卽チ實貨外出ヲ促スノ原因タルヤ復タ言フヲ俟タス

然レトモ輸入ノ輸出ニ超過スル豈獨リ我邦ノミナランヤ歐洲各國ト雖モ亦タ時有リテカ免レサル所ナリ然レトモ其能ク實價ノ缺乏ヲ致サヽル所以ノモノハ蓋シ亦金銀貨ヲ輸入スルノ機關アルニ由ルノミ

此機關トハ卽チ中央銀行ニシテ英佛獨墺皆其設ケアリテ以テ金銀貨ヲ輸入スルノ路ヲ開カサルハ莫シ今其實貨輸入ノ方策ヲ略述センカ爲メ此ニ佛朗西銀行ト白耳義國立銀行ノ一例ヲ擧ケン

佛朗西銀行ハ白耳義國某私立銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約シ常ニ白耳義國ニ於テ割引ノ歩合ニ注目シ白耳義國立銀行モ亦佛京巴里ニ於テ某私立銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約シ常ニ佛國割引ノ歩合ヲ見テ佛國手形ヲ買入レシムルナリ此時ニ當リ若シ白耳義國立銀行ニテ割引ノ歩合四錢佛朗西銀行ニテハ三錢ナリト假定セハ佛朗西銀行ハ直チニ白耳義約定店(卽チコルレスポンデンス私立銀行)ニ命シ三錢ニテ割引手形ヲ引受ケシムヘシ是ニ於テ佛朗西銀行約定店ノ割引低利ナルヲ以テ依賴者陸續相踵キ白耳義ノ手形ハ多クハ佛國銀行ノ手ニ歸シ其手形取附ノ日ニ至リテハ盡ク金銀貨ト爲リテ佛國ニ輸出セラルヽナリ是レ佛朗西銀行ニテ實貨輸入ヲ助成スルノ概略ナリ

若シ又佛朗西白耳義ノ兩銀行ニテ從來同シク三錢ヲ以テ割引ヲ引受ケシニ白耳義ニテハ割引

手形ノ稀少ナルカ爲メニ其歩合ヲ二錢ニ低下シタリト假定セハ佛朗西銀行ハ直チニ白耳義ナル約定店ニ命シテ其從來三錢ニテ割引シタル手形ヲ以テ更ニ白耳義國立銀行ニ至リ二錢ノ歩合ニテ再割引ヲ受ケシムヘシ蓋シ初メ三錢ノ歩合ヲ取リ今更ニ二錢ヲ以テ再割引ヲ受クルトキハ中間ニ於テ一錢ノ利益ヲ得ルノミナラス其仕拂ニ於テハ銀行紙幣ニテ受取ルヘキヲ以テ佛國ヘ輸送スルニハ豫メ金銀貨ニ交換スルヲ得ヘキナリ是レ亦佛朗西銀行カ外國歩合ノ低下セルニ乘シテ以テ多少ノ利益ヲ收メ且ツ實貨輸入ヲ圖ルノ一例ナリ

又白耳義國立銀行カ佛國ノ約定店ニ於ケルモ亦此方略ヲ用キ其他英ニ蘭ニ獨ニ墺ニ到ル所私立銀行ノ盛大ナルモノト「コルレスポンデンス」ヲ結ヒ各國貨幣ノ動靜ヲ窺ヒ割引歩合ノ昂低ヲ以テ之ヲ平均調和スルヲ圖ラサルハ莫シ

我邦今日ノ勢全國ノ資力未タ大ナラス一國ノ信用未タ厚カラス遽カニ此方略ヲ用キ難シト雖モ先ツ中央銀行ヲ設立シテ會社銀行等ノ事業ヲ幇助セシメ大ニ我カ帝國ノ資力ヲ養ナヒ而ル後外國銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ結ヒ漸ク以テ實貨輸入ノ策ヲ取ルコト前文ノ如クセハ則チ輸出入ノ相償ハサルモ實貨ノ外出スルモ庶クハ深ク憂慮ス可カラサルニ至ラン是レ中央銀行ノ設立セサル可カラサル五ナリ

然リト雖モ此ノ事業タルヤ歐洲各國ノ大銀行ト雖モ深謀遠慮常ニ以テ一大難事トスル所ナリ況ンヤ我邦今日ノ形勢ニ於テヲヤ固ヨリ一朝一夕ニシテ之レカ好結果ヲ得ヘキニ非スト雖モ既ニ中央銀行ヲ設立シタル上ハ日夜孜々トシテ其事業ヲ擴張セサル可カラス是レ亦中央銀行カ國家ニ對スルノ一大義務ニ非スヤ

中央銀行ハ當分兌換銀行券發行ヲ許サス之ヲ補助スル爲メニ其資本金ノ半額ヲ引受ケ政府之カ株主トナル事

中央銀行ノ設立ヲ要スル所以ノモノハ既ニ前文ニ詳論セリ第一金融ヲ疏通スル事第二會社銀行ヲ幇助スル事第三金利ヲ低下スル事第四國庫出納ノ事務ヲ負擔スル事第五外國手形ヲ割引スル事此五ノ者ハ政府ニテ中央銀行ヲ設立スル所以ノ目的ニシテ銀行カ國家ニ對シテ卓然自任當サニ盡スヘキノ義務ナリ其責任タル亦重且大ナラスヤ

夫レ責任重大ナレハ必ス之ヲ負擔スルノ勢力ナカル可カラス政府中央銀行ヲ責ムルニ此重任ヲ以テセンニハ亦必ス之ヲ保護シテ其重任ニ耐ユヘキノ特權ヲ附與セサル可カラス是レ歐洲諸邦ニ於テ政府カ中央銀行ニ附與スルニ銀行券發行ノ特權ヲ以テスル所以ナリ

往時白耳義國立銀行ノ創立スルニ際シ當時大藏卿「フレオール」バン氏下院ニ說明シテ言ヘルアリ曰ク「若シ銀行券發行高ヲシテ資本金額マテニ制限セシメハ縱令ヒ銀行ヲシテ周年四銖ノ割引ヲナシ毫モ損失ヲ蒙ムルコトナカラシムルモ其割賦金ハ僅カニ年利三銖ニ過キサルヘシ故ニ銀行若シ十分ニ其目的ヲ達セント欲セハ必ス資本金幾倍ノ銀行券ヲ發行セサル可カラサルヤ明カナリ」ト此說ヤ方今歐洲諸國ニ於テ現在施行スル所ニシテ若シ此制ニ據ラサレハ豈能ク金融ヲ疏通シ財政ヲ救濟スルノ目的ヲ達スルヲ得ンヤ

今我中央銀行ニモ其重任ニ對シ銀行券發行ノ特權ヲ與ヘサル可カラス然レトモ我邦實貨乏少ノ際遽カニ巨額ノ眞貨幣ヲ募ル能ハス去リトテ公債證書ヲ抵當トナスコト國立銀行ノ制ノ如クナラシメハ亦八百萬圓ノ紙幣ヲ市場ニ汪溢セシムルノ患アルヲ奈何セン是故ニ日本銀行ノ

株金ハ暫ラク通貨ヲ以テ招募シ直チニ之ヲ以テ營業資本ニ充用セシメ而シテ漸次ニ全國理財ノ機關ヲ整理シ外國手形割引外國貨幣及ヒ地金銀買入等ノ方法ヲ以テ實貨輸入ノ策ヲ講シ他日實貨充牣ノ時ヲ待チテ先ツ政府發行ノ紙幣ヲ交換セシメ而ル後始メテ兌換銀行券ノ發行ヲ許スヘシ是レ亦時勢ノ已ムヲ得サルニ出ツルナリ

是故ニ政府ハ當分中央銀行ヲシテ銀行券ノ發行ヲ實施セシメサル代リニ特別ナル保護ヲ加ヘ資本金壹千萬圓ノ半額卽チ五百萬圓マテハ政府自ラ株主トナルヘシ是レ素ヨリ保護助成ノ精神ニ出ツル者ニシテ人民ト共ニ利ヲ爭フカ爲メニ非サレハ利益金配當ニ至テモ亦一般人民ノ株主タル者ト異同ナカル可カラス

人或ハ政府ノ此擧ヲ非議スル者アラン蓋シ此擧ヤ固ヨリ時勢ノ已ムヲ得サルニ出ツルモノニシテ若シ政府ノ補助ナケレハ銀行成立セス銀行成立セサレハ到底金融ヲ疏通シ財政ヲ救濟スルノ日ナカルヘシ往時佛朗西銀行ノ創立ニ當リテヤ發起人等ハ猶ホ資本金ノ遽カニ募集シ難カランコトヲ患ヘ當時各地方ノ收稅總官（ロワール・エ・オラル）ヨリ納メタル身元保證金ノ半額ヲ銀行ニ下附セラレンコトヲ佛國政府ニ請願セシカハ政府ハ直チニ之ヲ聽ルシ五百萬「フラン」ヲ銀行ニ下附シテ國債局ノ名ヲ以テ五千株ヲ引承ケタル事アリ蓋シ時勢ノ已ムヲ得サルニ當テハ亦此ニ出テサルヲ得サル者アレハナリ然リト雖モ他日事業益〻旺盛ヲ加ヘ基礎益〻鞏固ニ赴クニ及ヒテハ漸次相當ノ價ヲ以テ株券ハ之ヲ人民ニ附スルノ日アランコト是レ固ヨリ政府ノ深ク冀望スル所ナルヘシ

日本銀行條例ノ大旨

歐洲諸國中央銀行ノ制ヲ通觀スルニ規模ノ宏大ナル勢焰ノ赫奕ナルハ固ヨリ英佛兩銀行ノ右ニ出ルモノナシト雖モ其機關ノ完全ナルト事業ノ整理セルトニ至テハ白耳義國立銀行ヲ以テ之レカ最トス蓋シ該國立銀行ノ創立最モ輓近ニ在ルヲ以テ英佛墺米諸國ノ成績ニ考ヘ利害得失ノ存スル所ヲ審カニシ萃ヲ拔キ華ヲ摘ミ前車ノ覆轍ハ之ヲ未然ニ警戒シ以テ其完璧ヲ成スヲ得タリ是レ各國理財家ノ稱贊止マサル所以ナリ今我中央銀行モ其模型ヲ此ニ取リ之ヲ我邦固有ノ慣習ニ參酌セハ則チ我國情ニ適應スルノミナラス其機關モ亦大ニ整備スル所アラント信ス乃チ制度ヲ白耳義銀行ニ取リ以テ我慣習ニ參酌シ條例及ヒ定款ヲ草定シテ以テ上ツル其組織綱領ヲ略擧スレハ左ノ如シ

第一　營業年限ヲ三十箇年トスル事

第二　資本金ヲ壹千萬圓トスル事

第三　資本金ハ開業前ニ於テ其五分ノ一ヲ入金セシメ其殘額ハ營業上ノ都合ニ由リ幾回ニテモ入金ヲ命スル事

第四　營業ニ制限ヲ立テ危險ノ事業ヲ禁スル事

第五　政府ノ都合ニ由リ國庫出納ニ從事セシムル事

第六　兌換銀行券發行ノ特權ヲ有スヘシト雖モ當分之ヲ許サヽル事

第七　總裁ヲ勅任トシ副總裁ヲ奏任トスル事

第八　大藏卿ノ監理官ヲ置ク事

第九　毎月報告ヲ大藏卿ニ呈スル事

第十　政府ニ於テ資本金ノ半額ヲ引承ケ之カ株主トナル事

右十項ハ中央銀行ノ鞏固ヲ保チ旺盛ヲ圖ルニ極メテ緊要ナル事件ナリトス但第七項ハ或ハ世人ノ怪訝スル者アルヘシト雖モ全國ノ信憑ヲ厚フシ銀行ノ基礎ヲ固フセンニハ必ス其主宰者ノ地位ヲ高顯ニシ其授任ヲ鄭重ニセサル可カラス英佛墺獨諸國ノ中央銀行ニハ皆勅任總裁ヲ奉戴セサルハナシ殊ニ佛國ノ如キハ興業銀行ノ總裁モ亦國王(現今ハ大統領)ノ命任ニ係レリ從來我國會社銀行等ノ信用甚タ薄弱ナル苟モ政府カ之ヲ待スルノ厚キヲ示スニ非スンハ焉ソ能ク世人ノ信憑ヲ厚フスルヲ得ンヤ又焉ソ外國ニ對シテ日本銀行ノ體面ヲ存スルヲ得ンヤ

右十項ノ主旨ニ據リ中央銀行ヲ設立シ徹頭徹尾信用ヲ以テ根據トシ全國理財ノ樞要ヲ執ラシメハ則チ金融始メテ疏通シ商業始メテ隆興シ我日本帝國ノ財政大ニ更張振作スル所アランコト深ク信シテ疑ハサル所ナリ

今此說明ヲ畢ハルニ臨ミ姑ク一言ヲ要スルコトアリ何ソヤ興業銀行及貯蓄銀行ノ件是レナリ興業銀行ハ土地家屋等ヲ抵當トシテ起業資本ヲ貸付或ハ田野ノ開墾ヲ勸メ或ハ地質ノ改良ヲ翼ケ或ハ製絲鑿溝築港等ノ事業ヲ振作スルヲ目的トスルモノナリ貯蓄銀行ハ細民日常ノ貸銀ヨリ其幾分ヲ貯蓄セシメ他日就產ノ道ヲ得セシムルヲ旨トスルニ在リ凡ソ一國ノ富ヲ成スモノハ勞働ト節儉トニ在リ貯蓄銀行ノ細民ニ於ケルハ其節儉ヲ助クルモノナリ興業銀行ノ農工ニ於ケル中央銀行ノ商業ニ於ケルハ皆其勞働ヲ助クルモノナリ此三者ハ組織營業固ヨリ相異ナリト雖モ亦相須チ相扶ケ以テ一國ノ富ヲ養成スルモノナレハ之ヲ全國財政ノ鼎足ト謂ヘルモ可ナリ

且ツ夫レ與業銀行ノ事業ハ極メテ重大ニシテ且ツ之ヲ永遠ニ期スヘキモノトス故ニ政府ハ特別ニ條例ヲ製シ保護監督ノ法ヲ設ケサル可カラス又貯蓄銀行ノ預金ノ如キハ皆細民額汗ノ餘滴ニシテ彼ノ大賈巨商カ縱ヒ一方ニ敗失スルモ猶ホ一方ニ恢復スルノ餘力アルカ若クナル能ハス其事業豈愼重嚴密ナラサル可ケンヤ

今ヤ我邦農工ノ事業日ニ進ミ月ニ盛ンニ隨テ其資本ヲ要スル巨大ナルヲ以テ速カニ與業銀行ノ設立ヲ要スルヤ言フヲ俟タス又近頃民間ニ於テ貯蓄銀行ノ設立陸續相踵キ其主意善美ナリト雖モ事業上偶〻愼重ヲ缺クノ憾ナキ能ハス豈速ニ條例ヲ判定シ以テ之レヲ羈縛セサル可ケンヤ然リト雖モ今中央銀行設立ノ際ニ當リ一時ニ事ヲ擧クルハ蓋シ國家理財ノ得策ニ非サルヘシ將サニ他日ヲ待チテ與業銀行條例及ヒ貯蓄銀行條例ヲ草シ以テ政府ノ裁定ヲ取ルアラントス

第二節 條例ノ制定及其改正

日本銀行創立ニ關スル大藏卿ノ建議ハ太政官ノ容ルヽ所トナリ同十五年六月二十七日布告第三十二號ヲ以テ日本銀行條例ヲ全國ニ頒布シタリ而シテ日本銀行ノ創立ハ我國財政史上ニ一大時期ヲ畫セルモノト云フヘク其條例ハ僅々二十五條ヨリ成ルト雖モ其內容ハ夙ニ當局者ノ審議攻究ノ結果ニ成レルモノナリ卽左ノ如シ

布告第三十二號（明治十五年六月二十七日）

日本銀行條例左ノ通リ制定ス

日本銀行條例

第一條　日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノタメ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條　日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之レヲ設置セシムルコトアル可シ

第三條　日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條　日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之レヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增加ヲ請願スルコトヲ得

第五條　日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條　日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受ク可シ

第七條　資本金總額五分ノ一卽貳百萬圓ノ入金アルトキハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムルモノトス

第八條　營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ內幾分ヲ減少シタルトキハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其缺額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條　事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ增加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條　純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引キ去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金トナスヘシ

第一　資本金ノ損失ヲ補フ

第二　割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條　日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一　政府發行ノ手形爲替手形其他商業手形等ノ割引ヲナシ又ハ買入レヲナスコト

第二　地金銀ノ賣買ヲ爲スコト

第三　金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スコト

第四　豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲナスコト

第五　諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬竝證券類ノ保護預リヲ爲スコト

第六　公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲナスコト但其金額及利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受ク可シ

第十二條　日本銀行ハ第十一條ニ揭ケタル事業ノ外左ニ揭クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一　不動產及銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲スコト

第二　本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲナシ又ハ株券ノ買戻ヲ爲スコト

第三　諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スルコト

第四　本支店出張所ヲ開設スルタメ必要ナルモノヽ外一切他ノ不動產ノ所有主タルコト

第十三條　政府ノ都合ニ依リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ニ從事セシムヘシ

第十四條　日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條　日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條　日本銀行ハ公債證書ヲ買入又ハ之レヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條　日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スルモノトス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置ク可シ

第十八條　總裁副總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但シ任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條　理事ハ株主總會ニ於テ選擧シ大藏卿ノ命スルモノトス但創立第一回ハ五箇年ノ任期ヲ以テ大藏卿之レヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選擧シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第二十條　理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十一條　大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條　日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調查シ少クモ毎月一

同之ヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條　日本銀行ハ本條例ノ趣旨ニ基キ銀行定款ヲ作リ政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スルトキハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條　政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條　此條例ヲ改正增削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三箇月以前ニ之ヲ布告スヘシ

右條例ノ精神トスル所ハ實ニ第二條第十一條第十三條及ヒ第十四條ニ在リテ存スルコト前揭創立趣旨書ニ由テ窺フヘク尙ホ政府カ第十二條ヲ以テ本行ノ營業ニ制限ヲ付シタル所以ノモノハ其之ヲ保護スルノ餘萬一ノ危險ナカランコトヲ慮リタルニ出テタルモノナリ

明治十五年六月日本銀行條例ノ制定セラレタル以來同行ノ事業ハ著シキ發達ヲ爲シ當初ノ制規ヲ以テシテハ頗ル不便ナルモノアルニ至レリ是ニ於テ明治二十三年五月日本銀行條例中改正ニ關スル法律案ヲ具シテ閣議ヲ求メ同年八月法律第六十一號ヲ以テ同條例第十九條及第二十條ヲ改正シ左ノ如ク公布セラレタリ

日本銀行條例改正ノ件

日本銀行ハ明治十五年ノ設立ニ係リ爾來已ニ八星霜ヲ閱シ其事業駸々トシテ長足ノ進歩ヲ爲シ頗ル見ルヘキモノアリ而シテ該行規模ノ擴張ヲ見ルニ更ニ驚クヘキモノアリ今其著シキモノヲ擧クレハ設立ノ當時ハ未タ之ニ許スニ兌換銀行券發行ノ特權ヲ以テセス國庫金取扱及國債事務ノ如キハ僅ニ其一小部分ヲ任セシノミ今ヤ則チ然ラス十七年始メテ兌換銀行券ノ發行

ヲ許サレシヨリ其高年々多キヲ加ヘ二十一年兌換銀行券條例ノ改正アリテ政府發行紙幣及銀行紙幣ハ漸次ニ之ヲ兌換銀行券ト引換ユルモノトシ通貨晝一ノ制度茲ニ定マリ其結果ヲ見ル將サニ數年ヲ出テサルヘシ而シテ兌換銀行券ノ發行高ハ七千萬圓ヲ超過シ其最多額ナルトキハ殆ント八千萬圓ニ達シ其一伸一縮ハ以テ市場ノ景況ヲ制スルニ足リ方今已ニ日本銀行ハ通貨整理ノ大任ヲ帶フ加フルニ國庫金ノ出納事務ハ擧テ之ヲ同行ニ任シ又國債事務ト雖モ一二ノ場合ヲ除ク外ハ悉ク之ヲ同行ニ任ス同行責任ノ重キ實ニ往日ノ類ニアラサルナリ故ニ設立ノ際定メラレタルトコロノ條例定款中今日該行ノ規模ニ適合セサルモノナシトセス就中理事ノ選擧貨物ノ制限ノ如キハ最モ改正ヲ要スルモノ也加之方今社會漸ク發達シ人文漸ク繁多ナルニ從ヒテ法律規則ノ精確ヲ要スルハ言ヲ俟タス又商法已ニ發布セラレ社會ヲ支配スルノ方法茲ニ完備シ又論スヘキモノナシト雖モ日本銀行ハ素ト特別ノ性質ヲ有シ特種ノ事業ヲ經營スルヲ以テ萬端ノ事擧テ以テ國法ニ據ル能ハサルモノナシトセス同行ノ爲メ特ニ規定スル所ナキヲ得ス是レ日本銀行條例改正ヲ要スル所以ナリ依テ別紙法律案ヲ提出ス

明治二十三年五月二十九日

大藏大臣　伯爵　松方正義

内閣總理大臣　伯爵　山縣有朋　殿

法律第六十一號（明治二十三年八月八日）

日本銀行條例中左ノ通改正ス

第十九條　理事ハ株主總會ニ於テ選擧シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選擧ス理事ノ任期ハ四年トス監事ノ任期ハ三年トス

理事、監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條　總裁ハ毎半期ニ通常株主總會ヲ招集ス

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ招集ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十個ニ付投票一個ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一個ノ投票權ヲ增加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十個以上ヲ超ユルコトヲ得ス

右ノ如ク明治二十三年法律第六十一號ヲ以テ理事監事總裁及株主總會ニ關スル規定ヲ改定セル以來日本銀行條例ハ何等ノ變更ヲ見ス而シテ資本ノ增加ニ伴フ條例ノ改正ハ便宜資本金ノ節ニ讓ル

第三節　創立ノ概況

日本銀行條例發布ノ當日卽チ明治十五年六月二十七日大藏卿松方正義ハ太政官ニ上申スル所アリ日本銀行創立事務所ヲ大藏省內ニ置キ創立委員ヲ命シテ株主募集等ノ手續ヲ初メ其他創業ニ關スル一切ノ事務ヲ處辨セシメンコトヲ期セリ其上申左ノ如シ

今般第三十二號ヲ以テ日本銀行條例御頒布相成候ニ付テハ該銀行創立ノ際殊ニ確實整理ヲ要シ且右資本ノ半額ハ政府ヨリ補充セラルヽ儀ニモ候ヘハ創立ノ事務ハ總テ當省ニ於テ負擔シ當省中ヘ日本銀行創立事務取扱所ヲ設ケ創立委員ヲ命シ株主募集等ノ手續ヲ始メ都テ創業ニ係ル一切ノ事務處辨爲致而シテ第一回入金相濟ミ開業ノ日ニ至リテハ右委員ノ名義ヲ解キ都テ該銀行ヘ引渡シ候樣仕度尤右創立ニ係ル一切ノ費用ハ當省定額金ノ內ヲ以テ繰換置キ追テ該銀行創立費トシテ償却爲致度此段相伺候也

明治十五年六月二十七日

大藏大臣　三條實美　殿

此上申ハ直ニ採用セラレ同日、日本銀行創立事務所ヲ大藏省中ニ設ケ大藏少輔吉原重俊、大藏大書記官富田鐵之助及大藏權大書記官加藤濟ヲ創立事務委員ト爲シ又第三國立銀行頭取安田善次郎、三井銀行副長三野村利助ニ御用掛心得ヲ命シ日本銀行創立事務ニ從事スヘキ旨ヲ命セリ先ツ株主募集ノ事ニ著手シ七月二十八日創立委員ハ大藏卿ノ認可ヲ得テ之ヲ各新聞紙ニ廣告セリ其廣告文ハ左ノ如シ

今般日本銀行創立ニ付テハ該銀行株主募集竝入金期限等左之通相定メ候條株主加入望ノ者ハ加入申込書ニ株數金額身分職業住處（原籍寄留）姓名等ヲ詳記シ正副二通ヲ以テ速ニ當事務取扱所ヘ自身出頭又ハ書面ヲ以テ可申込此旨廣告候事

明治十五年七月二十八日

東京大藏省中

一　日本銀行株主ハ左ノ割合ニ準シ入金ス可シ

第一回　四拾圓（一株貳圓ニ付貳百）

但明治十五年九月十五日ヨリ同三十日至入金ノ事

第二回　貳拾圓（一株貳圓ニ付貳百）

但明治十六年五月十五日ヨリ同三十一日至入金ノ事

第三回　貳拾圓（一株貳圓ニ付貳百）

但十六年十月一日ヨリ同十五日至入金ノ事

第四回　貳拾圓（一株貳圓ニ付貳百）

但十七年五月十五日ヨリ同三十一日迄ニ入金ノ事

一　第五回以降ノ入金ハ銀行ノ都合ニヨリ募集ス可シ其期限ハ少クトモ五箇月前ニ廣告スルモノトス尤其募集ノ員額ハ一回毎ニ一株ニ付貳拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル者トス

右株主募集ノ廣告一度新聞紙上ニ散見スルヤ其招募ニ應スルモノ陸續踵ヲ接シ日ヲ閲スル僅ニ二十有三日、八月二十日ヲ以テ滿株トナリ早クモ其加入差留ノ廣告ヲ出スノ止ムヲ得サルニ至ラシメタリ是ニ於テ創立委員ハ條例第六條ニ據リ株主名簿ヲ大藏卿ニ奉呈シテ設立ノ許可ヲ得各株主ニ報スルニ九月十五日ヨリ同月三十日迄ニ第一回入金ヲ爲スヘキ旨ヲ以テシ東京ニ於テハ第一國立銀行、第三國立銀行及三井銀行横濱ニ在リテハ第二國立銀行ト約定ヲ締結シ託スルニ右

一回入金ノ請取方ヲ以テシ右四銀行ハ約ニ從ヒ入金ヲ蒐集シテ之ヲ創立事務所ヘ送付セリ

抑、日本銀行條例第四條ニ依レハ日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トシ株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ增加ヲ請願スルコトヲ得ルモノトセリ而シテ資本金ノ內其半額ハ政府ニ於テ之ヲ引受クヘキモノニシテ創立趣意書ニ依レハ政府ハ當分中央銀行ヲシテ銀行券ノ發行ヲ實施セシメサル代リニ特別ナル保護ヲ加ヘ資本金壹千萬圓ノ半額卽チ五百萬圓迄ハ政府自カラ株主トナルヘシ是素ヨリ保護助成ノ精神ニ出ルモノニシテ人民ト共ニ利ヲ爭フカ爲ニアラサレハ其利益配當ニ至テモ亦一般人民ノ株主タル者ト異同ナカルヘカラサル旨ヲ示セリ故ニ政府ハ一般株主募集ノ結了スルニ方リ十月二日ヲ以テ貳萬五千株ニ對スル第一回ノ入金額百萬圓ヲ日本銀行ニ交付セリ

是ヨリ先キ八月中創立委員ハ本店開設ノ場所ヲ選定シ東京府下日本橋區北新堀町二十一番地舊開拓使出張所建物（當時大藏省所轄）ヲ十五箇年ノ期間ヲ以テ貸與ヲ受ケ借用年期中ハ在來ノ建物修繕等ヲ始メ土地家屋ニ關スル諸經費ハ銀行ニ於テ之ヲ支辨スルハ勿論他日本店新設ノ場合ニ及ンテハ現在ノ家屋其儘ニ返還スヘキ旨ヲ稟請シ其許可ヲ得タリシカ其建物ハ狹隘ニ失シ營業上ノ不便甚タ尠カラサルニヨリ創立委員ハ更ニ營業場新築ノ事ヲ大藏卿ニ上申シ許可ヲ得テ其工事ニ著手シ大藏省會計局ハ日本銀行建築事務ヲ監視スル事トナレリ而シテ先ニ大藏省ヨリ借入レタル家屋ハ改築補修ノ爲メ舊形ノ儘返還スルノ能サルニ至レルヲ以テ更ニ大藏卿ニ請願スル所アリ代金貳萬五千圓卽納ニテ借用ノ地所建物ヲ凡テ日本銀行ニ拂下ヲ受ケタリ

明治十五年九月中子安峻、外山修造、松本重太郎、草間貞太郎ノ四人新ニ創立事務御用掛ヲ命セラレ

倶ニ創立ノ事ヲ經畫シ且定款及ヒ內規等ヲ審議シ其他開業ノ準備ニ就キ商量スル所アリ同年十月六日定款ノ認可ヲ經タリ定款既ニ定リタルヲ以テ政府ハ十月六日大藏少輔吉原重俊ヲ日本銀行總裁ニ大藏大書記官富田鐵之助ヲ同副總裁ニ任シタリ而シテ監事ハ條例ニ依リ株主總會ノ公選ニ付スヘキモノナルモ爲メニ開業ノ時日ヲ遷延スルハ營業上ノ利害ニ關スルコト少ナカラサルヲ以テ創立ノ初期ニ限リ株主中重立チタル者ヨリ數名ノ候補者ヲ選ヒテ大藏卿ノ特選ヲ請ヒ明治十六年二月ノ總會ニ至テ公選ヲ行ヒ度旨創立委員ヨリ大藏卿ニ對シテ稟請スル所アリ大藏卿之ヲ容レ其九日ヲ以テ安田善次郎、三野村利助、外山修造ヲ日本銀行理事ニ、子安峻、北岡文兵衛、森村市太郎ヲ同監事ニ任命シタリ

是ニ於テ創立委員ハ其事務ヲ擧ケテ悉皆之ヲ該銀行ニ引繼キ十月九日ヲ以テ遂ニ其創立事務所ヲ閉鎖セリ此日政府ハ特許狀竝ニ開業免狀ヲ下付シ日本銀行ハ其翌十日ヲ以テ愈〻開業ヲ告ケタリ其特許狀竝ニ開業免狀ハ左ノ如シ

特許狀

東京府下ニ於テ創立スル日本銀行ヨリ差出セル定款ニ據リ日本銀行ハ明治十五年六月二十七日太政官第三十二號ヲ以テ布告セル日本銀行條例ノ趣旨ニ遵據シタルコト明確ナルニ付明治十五年十月十日ヨリ向フ滿三十箇年卽チ明治四十六年十月九日迄右條例ヲ恪守遵奉シテ其業務ヲ經紀スルコトヲ玆ニ特許スルモノ也

右ノ證據トシテ余ハ玆ニ記名調印シ併セテ官印ヲ鈐スルモノナリ

明治十五年十月九日

大藏卿　松方正義

營業免狀

東京府下ニ創立スル日本銀行ハ明治十五年六月二十七日太政官第三十二號布告日本銀行條例ヲ遵奉シタルコト該銀行定款ニ依リ明確ナルヲ以テ明治十五年十月十日ヨリ滿三十年間卽チ明治四十六年十月九日迄右條例ヲ遵奉シ其業務ヲ營ムコトヲ許可スルモノ也

明治十五年十月九日

大藏卿　松方正義

斯ノ如ク日本銀行ハ明治十五年十月九日政府ヨリ開業免狀ヲ下付セラレタルヲ以テ該行創立事務ハ玆ニ全ク終ヲ告ケ創立委員ハ日本銀行ニ事務ヲ引繼キテ創立事務所ヲ閉鎖シ翌十日ヲ以テ同行ノ營業ヲ開始セリ斯ノ如クシテ多年ノ計畫ニ屬セル我國中央大銀行ハ玆ニ始メテ設立セラルヽニ至リシカ明治十六年四月二十八日ヲ以テ盛大ナル開業式ヲ擧行シ大藏卿松方正義ハ之ニ臨場シテ左ノ演說ヲ爲セリ

明治十六年四月二十八日日本銀行本店開業式ニ於ル大藏卿ノ演說

今ヤ日本銀行開業ノ典ヲ擧ケントス此ノ盛典ニ臨テ余ハ我政府カ日本銀行ヲ創立セラルヽノ大主意ヲ聊カ此ニ明言シテ以テ此銀行ニ從事スル諸君ハ勿論株主一同及ヒ公衆ニ向ヒ深ク注意ヲ請フ所アラントス抑モ我國銀行ノ沿革ヲ考フルニ維新ノ際兵革騷擾大政漸ク緒ニ就クニ當リ民間從來ノ慣習頗ニ地ニ墜チ金融日ニ梗塞シ商業日ニ衰頹スルヲ以テ政府大ニ之ヲ憂ヒ明治二年始メテ爲替會社ノ設立アリシモ未タ其目的ヲ達スル能ハス明治五年ニ至リ更ニ國立

銀行條例ヲ發布シ尋テ同九年八月ヲ以テ改定條例ヲ發布セラル爾後國立銀行ノ創立全國ニ相踵キ僅々二三年間ニシテ百五十有餘ノ多キニ至レリ之ニ加ルニ私立銀行ヲ以テスレハ其數蓋シ三百有餘ニシテ我國商業ノ進度ニ比較スレハ亦尠少ナリトセス然レトモ其商業上ニ現ルヽ所ノ效驗ヨリ之ヲ視レハ當初國立銀行ヲ起スノ目的ヲ達スル能ハサル蓋シ猶遠シ是レ其故何ソヤ蓋シ現今ノ國立銀行ナルモノハ其營業自カラ制限アリテ千種萬端ニ渉ルヲ得サルハ勿論ナリト雖モ其制限內ノ事業スラ猶且十中ノ二三ニ局促シテ十分活動ノ餘地アルヲ知ラサルモノヽ如シ蓋シ銀行ノ事業モ亦類多シ農業ニ工業ニ其他百般ノ事業一トシテ銀行カ其力ヲ伸フルノ地ニ非サルハナシ國立銀行コソ營業ノ制限アレ私立銀行ノ如キハ一事一業ニ局促セラレタルモノニ非スシテ其活動力ヲ伸張スル固ヨリ餘地アリト雖モ現今ノ景狀ヲ以テ之ヲ觀ルニ盡ク國立銀行ニ模倣シ恰モ同一轍ニ出タルモノヽ如シ乃チ銀行事業中ニ於テ所謂分業法ナシト謂フ可シ是レヲ以テ銀行ノ數三百有餘ノ多キニ上ルト雖モ其事業上ニ現ハルヽノ效驗ニ至テハ猶ホ其比例ニ及ハサルコト遠シ今之ヲ七八年前ノ景狀ニ比スレハ多少其效ヲ奏セサルニ非スト雖モ所謂財路ヲ疏通シ富强ヲ培養スルノ機關蓋シ未タ完備シタリト謂フヘカラス今ニ及テ速ニ中央銀行ヲ設立シ財政ノ樞要ニ當リ全國ノ貨源ヲ開キ財路ヲ疏通シ富强ヲ培養スルノ基礎ヲ建ルニ非サレハ將來一國ノ經濟將ニ測ル可カラサルモノアラントス蓋シ中央銀行ノ制タル政府ノ監護ヲ受ケ財政ノ要衝ニ立チ民間金融ノ壅塞ヲ開キ國庫出納ノ便益ヲ助クルモノニシテ歐洲諸國能ク今日ノ富强ヲ致ス所以ノ者固ヨリ一ナラスト雖モ亦中央銀行ノ力與テ居多ナリト謂ハサル可ケンヤ且夫幣制ハ一國財務ノ最モ重要ナルモノナリ我國今日ノ不換紙

幣ノ如キモ早晩跡ヲ市場ニ收メ終ニ兌換ノ本制ニ復センコトヲ是レ我カ政府カ夙夜計畫ヲ怠ラサル所ナリ然レトモ事ヲ擧ル必ス順序アリ先後アリ若シ幣制ノ改革ヲ望マハ先ツ中央銀行ノ設立ヲ以テ第一著手ト爲サヽルヲ可カラス是ニ於テカ我政府ハ我邦慣習ノ利弊ヲ察シ各國理財ノ得失ヲ考ヘ之ヲ既往ニ鑒ミ之ヲ將來ニ慮リ客年六月二十七日ヲ以テ初テ日本銀行條例ヲ頒布セラルヽ是畢竟經濟上ノ一大機關ヲ具ヘ以テ財政ヲ將來ニ救濟セント欲スルニ在ルナリ夫レ財政ハ治國ノ樞要ナリ國運隆替ノ係ル所民命休戚ノ由ル所其國家ニ於ケル亦至大且至要ナリト謂フヘシ乃チ此至大至要ナル財政ノ機關ニ當ルモノ亦自ラ其至大至要ナル所以ヲ知ラスシテ可ナランヤ

何ヲカ財政ノ機關ト謂フ曰ク銀行是レナリ銀行モ亦類多シ國立銀行ト云ヒ私立銀行ト云ヒ或ハ某會社ト稱シテ銀行ノ事業ヲ營ムモ盡ク是レ資財ヲ運轉シ有無ヲ融通シ財政上缺ク可カラサルノ機關タラサルハナシ然リト雖モ其地位官民ノ中間ニ在テ非常ノ特典ヲ有シ能ク全國ノ貨財ヲ流通シ善ク聚メ善ク散シ操縱離合各〻其宜ヲ得セシムルノ一大機關ニ當リ一國ノ財政ヲ維持スルノ力ヲ有スルモノハ其レ所謂中央銀行ニシテ卽チ今日開業ノ盛典ヲ擧クル所ノ此日本銀行ニ非スヤ日本銀行ノ任斯ノ如ク其レ重ク其責斯ノ如ク其レ大ニ其地位ノ高顯ナル斯ノ如ク其資力ノ强盛ナル斯ノ如ク之ニ加フルニ政府ハ國庫金取扱ノ事務ヲ付託シ銀行券發行ノ特權ヲ附與スルノミナラス其之ヲ實行スル蓋シ亦遠キニ非サルヘシ政府カ此銀行ヲ信用スル斯ノ如ク其レ厚シ固ヨリ尋常一般ノ銀行會社ト同視ス可キ者ニアラス日本銀行モ亦至大至要ノ機關ニ當ルコトヲ自ラ顧ミテ世人ヲシテ尋常一般ノ銀行會社ト同視セシメサランコトヲ勉

メサル可ケンヤ何トナレハ日本銀行ナル者ハ一人一個ノ私利ヲ謀ルモノニ非ス公利公益ヲ主眼トシ徒ニ商業社會ノ狂濤ニ搖カサレス卓然屹立シテ以テ一視同仁ノ義務ヲ盡スヘキモノナリ我政府カ此銀行ヲ創立スルノ主旨此ニ外ナラス諸君其レ旃ヲ鑑ミヨ

抑〻銀行ナル者ハ何ヲ以テ成立スルヤ信用ノ二字ヲ以テ成立スルニ非スヤ苟モ信用ナケレハ是レ卽チ銀行ナキナリ今ヤ日本銀行既ニ開業セリ是乃チ一國ノ財源ヲ開キタルナリ若シ此銀行ニ從事スル者常ニ信用ノ二字ヲ念頭ニ忘却セス徹頭徹尾信用ヲ以テ基礎ト爲シ漸次著實ニ歩ヲ進メ其既ニ開キタル財源ハ益〻之ヲ疏開シ之ヲ灌漑シ苟モ其時機ヲ失セス其方法ヲ惩ラス拮据黽勉敢テ倦怠スル勿ンハ此銀行ノ旺盛固ヨリ言ヲ俟タス隨テ全國ノ商業是ヨリ振興シ銀行會社ハ是ヨリ益〻繁盛ヲ致サンコト譬ハ猶水源一タヒ開テ千里滋潤ニ綠野蒼林極目欝葱タルカ如クナルヘキハ余カ斷乎トシテ疑ハサル所ナリ今余ハ此銀行開業ノ盛典ニ臨ミ恐多クモ上ハ天皇陛下ノ萬歳ヲ奉祝シ隨テ下ハ日本銀行ノ益〻旺盛ニ赴カンコトヲ祝ス

第四節　定款ノ制定及改正

日本銀行創立委員ハ日本銀行條例第二十三條ノ規定ニ基キ同行定款ヲ作成シ更ニ在京ノ各地株主就中東京横濱及大阪ノ株主中銀行事務ニ經驗アル者十數名ヲ事務所ニ招集シテ內議諮問ヲ盡シ其議決制定セル所ヲ以テ大藏卿ノ認可ヲ申請シ大藏省ハ少許ノ修正ヲ加ヘ十月六日之カ認可ヲ與ヘタリ右定款ハ銀行ノ組織資本金及積立金營業報告及配當行務綜理監理官株主總會總則ノ八章ニ分チ全部八十七條ヨリ成ル卽左ノ如シ

日本銀行定款

第一章　日本銀行組織ノ事

第一條　日本銀行ハ有限責任トシテ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條　日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ又各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルヲ得ヘシ但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルトキハ其理由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受ク可シ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルトキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアル可シ

第三條　支店及出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コルレスポンデンス」ヲ締約スルノ規則ハ銀行重役ニ於テ決議シ大藏卿ノ許可ヲ受ク可シ

第四條　日本銀行ノ營業年限ハ條例第三條ニ據リ明治十五年十月十日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ヲ繼續セントスルトキハ其延期ヲ請願シ更ニ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第五條　日本銀行ノ實際報告ニ於テ資本金半額以上ヲ損失セシ旨ヲ證明スルトキハ鎖店スルモノトス

前項ノ場合ヲ除クノ外期限內ニ鎖店セントスルトキハ株主總會ノ出席員四分ノ三以上ニシテ總株半數以上ヲ所有スル者ノ決議ヲ經テ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　日本銀行ハ期内ト雖期ト雖ヲ問ハス前條ノ場合ニ在ツテ鎖店スルトキハ株主總會ニ於テ鎖店所分人ヲ選定シ其權限職制ヲ定メテ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二章　資本金及積立金ノ事

第七條　日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トス但政府ノ命令ニ依リ資本金ヲ增加シ若シクハ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ經ルニ於テハ資本金ヲ增加スルコトヲ得

第八條　日本銀行ノ資本金半額迄ハ政府ニ於テ引受ケ之レカ株主タルヲ得ヘシ

第九條　資本金總額五分ノ一卽チ貳百萬圓(一株ニ付キ四拾圓ノ割)ハ必ス開業五日前迄ニ入金スヘシ

右資本入金ノ割合及期限ハ左ノ如シ

第一回　金四拾圓(一株ニ付)

但明治十五年九月十五日ヨリ同三十日迄入金ノ事

第二回　金貳拾圓(一株ニ付)

但明治十六年五月十五日ヨリ同三十一日迄入金ノ事

第三回　金貳拾圓(一株ニ付)

但明治十六年十月一日ヨリ同十五日マテ入金ノ事

第四回　金貳拾圓(一株ニ付)

但明治十七年五月十五日ヨリ同三十一日マテ入金ノ事

第五回以降ハ銀行ノ都合ニ由リ募集スヘシ而シテ其期限ハ少クトモ六箇月以前ニ新聞紙又

ハ其他ノ手續ヲ以テ廣告スヘシ但其金額ハ一回毎ニ一株ニ付貳拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサルモノトス

第十條　營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ內幾分ヲ減少シタルトキハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其缺額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第十一條　事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ增加ヲ要スルトキハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十二條　株主若シ資本入金ノ日限ニ入金セサルトキハ過怠金トシテ追募金十分ノ一ヲ增納セシム可シ若シ又二箇月ヲ經テ猶入金セサルトキハ其株券ヲ賣拂ヒ其代金ヨリ追募金額過怠金竝ニ其賣拂ニ係ル費用ヲ差引キ餘贏アレハ原株主ニ還付シ不足ハ尙ホ之レヲ追徵スヘシ

第十三條　株券ハ總テ記名トシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第十四條　日本銀行ノ株主タラントスルモノハ大藏卿ノ許可ヲ受ク可シ

第十五條　株券ハ銀行ニ於テ株式牒ヲ設ケテ之ニ記入スヘシ若シ株券ヲ賣買又ハ讓與セントスルトキハ賣方ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ銀行ニ請求シ銀行ハ大藏卿ノ許可ヲ經テ之ヲ當人ヘ通報スヘシ此通報ヲ受ケタル上賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作リ雙方連印ヲ爲シ株券ヲ添ヘテ銀行ニ差出スヘシ而シテ銀行ニテハ之ヲ牒簿ニ記入シ且其賣買讓與ヲ證スル爲メ總裁及文書局長株式局長其株券ノ裏面ニ署名捺印スルモノトス

第十六條　株主ハ銀行ノ資產ヲ共有シ割賦金ヲ受取ル爲メ其所有株ノ多寡ヲ問ハス每株ニ付

各一個平等ノ權理ヲ有スル者トス

第十七條　日本銀行ノ株主タルモノハ本行ノ定款及株主總會ニ於テ決議スル所ノ事件ヲ遵守スヘシ

第十八條　凡株式ニ屬スル權理義務ハ其株券（何人ノ所有タルヲ問ハス）ニ附從スルモノトス

第十九條　純益金總額ヨリ第三十六條ノ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲ス可シ

第一　資本金ノ損失ヲ補フ

第二　割賦金第三十六條ノ割合ニ及ハサルトキ之ヲ補フ

第二十條　前第十九條ニ記載セル積立金ハ金銀貨地金銀及公債證書ノ買入ニ使用スヘシ但此積立金ヨリ生スル所得金額ハ銀行ノ總益金ニ算入スヘシ

第三章　銀行營業ノ事

第二十一條　日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一　政府發行ノ手形爲替手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二　地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三　金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四　豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五　諸預リ勘定ヲナシ又ハ金銀貨貴金屬竝諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六　公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸

又ハ定期貸ヲ爲ス事

第二十二條　日本銀行ハ前第二十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ揭クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關渉スルヲ得ス

第一　不動產及銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二　本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此ノ株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三　諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四　本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切地ノ不動產ノ所有主タル事

第二十三條　日本銀行ニ於テ割引ヲ爲ス商業手形ハ總テ裏書ヲ以テ授受ヲ爲シ印稅規則ニ依リテ印紙ヲ貼シ資產確實ナル者二名以上ノ裏書アリテ且ツ支拂期限ノ百日以內ニ在ル者ニ限ル可シ但銀行總會ノ決議ヲ經大藏卿ノ許可ヲ得タル格段ノ約束アルモノハ一人ノ裏書ニテモ割引ヲ許スコトアルヘシ

第二十四條　割引依賴人ヨリ其手形金額ニ匹敵スル商品又ハ商品預證書ヲ質入レシタルトキハ之ヲ一人前ノ署名捺印ト見做シ割引ヲ許ス可シ

第二十五條　政府發行手形ノ割引ハ仕拂期限及割引ノ步合共時々大藏卿ニ稟議シ重役集會ニ於テ決定スルモノトス

第二十六條　手形割引ノ步合ハ每月重役集會ニ於テ決定シ支店出張所ニ於テハ本店ヨリ時々指定スル所ノ步合ニ從フ可シ但シ此步合ハ重役集會ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ變更スルヲ得ヘシ

第二十七條　政府發行手形ノ割引ニ充ツル金額及公債證書其他政府ノ保證ニ係ル證券ヲ抵當トシテ貸出スヘキ金額竝ニ利子ノ割合ハ毎十日重役集會ニ於テ決議シ監事集會承諾ノ上大藏卿ノ許可ヲ受ク可シ

第二十八條　前第二十七條ノ貸付ハ銀行ニテ資產確實ト認ムル者ニ限ルヘク且ツ期限ハ永ク トモ六箇月ヲ超過スヘカラス而シテ其貸付金ハ當日證券ノ相場ニ對シ十分ノ八ヲ限リト爲スヘシ

負債主若シ期限ニ於テ返金セサルトキハ其抵當品ヲ賣拂ヒ元利差引キ贏餘アルトキハ之ヲ本人ニ還付シ不足ハ之ヲ追徵スヘシ但期限ニ於テ書換延期ヲ請フトキハ一回限リ許スコトアルヘシ尤銀行總會ニ於テ格段ナル許可ヲ與ヘタルモノハ此限リニ在ラス

第二十九條　日本銀行ハ公債證書竝ニ政府發行手形ヲ買入レ又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ重役集會ノ決議ヲ以テ監事集會ノ承諾ヲ受ケ大藏卿ノ許可ヲ經ルニ非サレハ施行スルヲ得ス但其許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ實施ヲ成サヽルトキハ其許可ハ無效タルヘシ

第三十條　日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但條例第十四條ニ依リ政府ヨリ別段ノ規則ヲ頒分セラレタルノ後ニアラサレハ之ヲ實施スルヲ得ス

第三十一條　日本銀行ハ送金手形振出手形及振換切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第三十二條　日本銀行ハ政府ノ都合ニ依リ國庫金ノ取扱ニ從事スルヲ得ヘシ

第三十三條　貸金ノ返濟手形ノ仕拂等不安全ト思惟スルカ又ハ現ニ滯貸或ハ不渡トナリタル

時ハ負債者所有ノ家屋土地其他ノ財產ヲ銀行ニ引取ルコトヲ得ヘシ但此家屋土地其他ノ財產トモ爾後一箇年以內ニ賣拂ヒヲ爲ス可シ然レトモ大藏卿ノ許可ヲ受ルモノハ此限リニ在ラス

第四章　實際報告及利益金分配ノ事

第三十四條　重役集會ニテ毎年六月三十日、十二月三十一日ニ於テ營業上實際ノ報告ヲ整理シ二十日以內ニ之ヲ監事集會ニ付シ監事集會ハ此報告ヲ受ケタル日ヨリ更ニ二十日以內ニ於テ之カ調査ヲ爲スヘシ尤監事集會ノ多數ヲ以テ可決スルトキハ直チニ確定シタルモノトス若シ其多數ヲ得サルトキハ株主總會ノ決議ニ付スヘシ

第三十五條　創業費營業費其他ノ諸費用ハ毎半季決算ノ總益金ヨリ引除キ其殘額ヲ以テ純益金ト爲ス可シ但創業費ハ遞減法ヲ以テ支消スルモノトス

第三十六條　純益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配スヘシ

第一　人民所有ノ株金現拂込高ニ對シ年八分（即半季四分）ノ割合ヲ以テ配當スヘシ

第二　政府所有ノ株金現拂込高ニ對シ年六分（即半季三分）ノ割合ヲ以テ配當スヘシ

第三　右配當金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ積立金ト爲スヘシ

第四　右三項ノ金額ヲ引去リ其殘額十分ノ一ヲ賞與トシテ理事監事ヘ配當スヘシ但理事一名ト監事一名トノ割合ハ理事ハ七分監事ハ三分ノ比例ヲ以テ遞折分配スル者トス

右四項ヲ差引キ其殘額ハ總株ヘ配當スヘシ尤其割合ハ時々大藏卿ノ許可ヲ受ク可シ

第三十七條　上半季ノ割賦金ハ其年八月三十日迄ニ下半季ノ割賦金ハ翌年二月二十八日迄ニ

各株主ヘ分配スルモノトス

第三十八條　此割賦金第三十六條ノ割合ニ及ハサルトキハ積立金ノ內ヨリ補フモノトス然レトモ次ノ半季ニ於テ此ノ割合ヲ超ユル時ハ前半季ニ補ヒシ積立金ノ缺額ヲ補塡スヘシ

第三十九條　上下兩半季ノ實際報告竝損益勘定ハ大藏卿ヘ申牒シ且ツ新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ下半季ノ實際報告竝損益勘定ニハ其年度營業上ノ重役報告竝ニ監督報告ニ付シ翌年二月ノ定式株主總會ヨリ凡五日前ニ各株主ヘ配付スヘシ

第四十條　銀行重役ハ本支店及出張所約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ取調ヘ毎月一回ヨリ少ナカラス之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第五章　行務綜理ノ事

第一節　職員ノ組織

第四十一條　日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ事務ヲ綜理スル者トス而シテ總裁副總裁理事ノ集會ヲ名ケテ重役集會ト云フ

此銀行ノ事務監督ノ爲メ監事三人乃至五人ヲ置キ其集會ヲ名ケテ監事集會ト云フ

第四十二條　總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トシ共ニ任期五年トス但滿期後幾回ニテモ任命スルヲ可シ

又割引手形審査ノ爲メ割引委員ヲ置ク可シ

第四十三條　總裁副總裁ハ東京市內ニ住居スヘシ

得ヘシ尤任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第四十四條　總裁副總裁ノ俸給及交際費ハ政府ニ於テ定メ銀行ヨリ支辨スルモノトス

第四十五條　理事ハ任期四年トシ株主總會ニ於テ被選者二倍ノ候補ヲ選擧シ大藏卿其內ヨリ命任スルモノトス但創立第一回ハ五年ノ任期ヲ以テ大藏卿ヨリ特命スヘシ若シ任期內ニ於テ缺員アルトキハ大藏卿ヨリ補缺員ヲ命シテ其殘期丈ケヲ勤メシムヘシ

第四十六條　理事ハ滿期後幾回ニテモ選任セラルヽヲ得可シ

理事ハ必ス東京府內ニ住居スヘシ

第四十七條　每年一月一日ニ於テ理事一名ヲ更代セシムヘシ但更代ノ順序ハ明治二十年八月ノ株主總會ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ其翌年ヨリ此順序ヲ逐フテ每年更代スルモノトス

死去或ハ不時ノ退職者アリテ其補缺ニ選任セラレタル者ハ前任者ノ殘期丈ヲ勤ムルモノトス

第四十八條　總裁副總裁及理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社ノ役員タルヲ許サス

第四十九條　監事集會ハ會員中ヨリ會長一名ヲ選擧スヘシ

第五十條　監事ハ任期三年トシ株主總會ニ於テ選擧スルモノトス但シ滿期後幾回ニテモ選任スルヲ得ヘシ

監事ハ每年二月ノ株主總會ヲ畢リテ一名宛更代スヘシ但シ交代ノ順序ハ創立第二年二月ノ株主總會ニ於テ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ其翌年ヨリ此順序ヲ逐フテ每年更代スルモノトス

死去又ハ不時ノ退職者アリテ其補缺ニ選擧セラレタル者ハ前任者ノ殘期丈ヲ勤ムルモノトス

第五十一條　理事ハ五十株以上監事ハ二十株以上ヲ上任以前ニ所有スルニ非サレハ此選ニ當

ルヲ得ス

此株券ハ理事、監事、事務取扱ノ保證金トシテ銀行ニ預ケ置ク可シ本人退職スト雖モ其年度ノ實際報告ヲ監事集會ノ可決シタル後ニ非サレハ其株券ヲ受戻スコトヲ得ス

第五十二條　總裁、副總裁、理事、監事ハ銀行ノ營業上他人ト約束スル事件ニ就テハ一個人ノ義務ヲ負擔スルコトヲ得ス

第五十三條　第三十六條第四項ニ定メタル割合ヲ以テ半季利益金ヲ配當スルニ理事ハ一名ニ付五千圓監事ハ一名ニ付貳千圓ニ超過スルトキハ株主總會ニ於テ其配當金ヲ此額迄ニ減少スルヲ得可シ

第二節　總裁、副總裁

第五十四條　總裁ハ重役集會、銀行總會及株主總會ノ議長タル可シ

總裁ハ此等ノ會議ニ於テ決議セシ事件ヲ施行スルモノトス

總裁ハ重役集會ニ於テ諸勘定書ヲ整理セシメ之ヲ株主總會ニ付ス可シ

總裁ハ銀行全般ノ事業ニ注目シ條例定款及內規等ノ諸則ヲ恪守セシム可シ

銀行營業ニ關スル訴訟ハ總裁ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

總裁ハ重役集會ノ決議ヲ以テ約定書和解書其他一般ノ書類ニ署名捺印スヘシ

日常細事ニ關スル書類ヲ除クノ外營業上ノ證文其他ノ書類ニハ必ス文書局長ノ副印ヲ要スル者トス

第五十五條　總裁ハ重役集會ニ於テ決議セシ事件ヲ不當ナリト認ムル時ハ速ニ銀行總會ヲ開キ其意見ヲ諮詢スルヲ得ヘシ

各會議ニ於テ決議シタル事件ト雖モ條例定款ニ牴觸スルコトハ勿論政府ノ不利ト認ムル時ハ總裁直ニ之レヲ停止シ政府ヘ申告スヘシ若シ三十日以內ニ政府ヨリ別ニ指令ナキ時ハ原決議ノ通リ施行スヘキ者トス

第五十六條　總裁事故アル時ハ副總裁代理スヘシ

第五十七條　總裁ハ日常ノ細事ヲ處辨スル爲メ其事件ヲ定メ理事ヲシテ代理セシムルヲ得ヘシ

第三節　重役集會

第五十八條　重役集會ハ銀行諸般ノ事務ヲ決議スルモトス但他ノ集會ニ於テ決議スヘキノ成規アルモノハ此ノ限リニアラス

此集會ハ手形割引ノ歩合政府發行ノ手形ヲ割引スル金額公債證書等ニ對シ貸與スル金額及公債證書買入ニ充ル金額等ヲ定ム可シ但シ此等ノ事件ハ監事集會ノ承諾ヲ經テ施行スルモノトス

此集會ハ各局役員一般ノ進退黜陟ヲ議シ其給料身元金等ノ額ヲ定ム可シ

支店出張所ノ役員中ニ於テ證書類ニ銀行ノ名義ヲ以テ署名捺印セシムルモノハ重役集會ニ於テ之ヲ選ミ委任狀ヲ與フルモノトス

重役集會ハ約定竝ニ和解等ノ條件ヲ決議スルコトヲ得ト雖モ監事ノ承諾セサル事件ハ實行スルコトヲ許サス

此集會ニ於テハ株主總會ニ差出スヘキ一年間營業ノ報告ヲ整理スヘシ

第五十九條　重役集會ハ半數以上出席ナキトキハ決議スルヲ得ス

此集會ノ議事ハ多數ヲ以テ決定スルモノトス若可否相半スル時ハ議長之ヲ決ス可シ

第六十條　重役集會ニ於テハ議事錄ヲ作リ其決議ノ趣旨竝事務ノ要領ヲ記載シ出席員及文書局長之ニ署名捺印スヘシ

第四節　監事集會

第六十一條　監事ハ銀行諸般ノ事務ヲ監視シ且諸帳簿類ヲ檢查スル者トス

監事ハ實際報告損益勘定及經費豫算等ヲ調查シ正當ナリト認ムルトキハ之ヲ承認スヘシ但此報告豫算等ハ重役集會ニ於テ調整同付スル者トス

重役集會ニ於テ手形割引ノ歩合ヲ變更シ又ハ政府發行ノ手形ヲ割引スル金額若シクハ公債證書其他政府ノ保證ニ係ル諸證券ニ對シ貸與スル金額ヲ增減シ又ハ公債證書買入ノ件ヲ決議シタル時ハ監事集會ノ承認ヲ受クヘキモノトス然レトモ事情至急ヲ要スル時ハ手形割引ノ歩合ニ限リ重役集會ノ決議ノミヲ以テ增減スルヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ必ス五日以內ニ監事集會ノ承認ヲ受ク可シ

第六十二條　監事集會ハ少クトモ毎月一回宛開會スヘシ若シ二人以上缺席スル時ハ決議ヲ取ルコトヲ得ス

議事ハ多數ヲ以テ決ス可シ若シ可否ノ數相半スル時ハ銀行總會ニ於テ決ス可シ

若シ二人以上ノ缺席アリテ決議ヲ取ルコト能ハサルトキハ至急ヲ要スル事件ニ限リ銀行總

會ニ於テ決議スルヲ得可シ

第六十三條　第三十六條第四項ニ定メタル監事ノ配當金ハ半額ヲ人員ニ均分シ半額ハ出席數ニ應シテ配當スルモノトス

第五節　銀行總會

第六十四條　總裁副總裁理事監事ノ集會ヲ名ケテ銀行總會ト云フ

第六十五條　銀行總會ハ少クトモ毎月一回ツヽ開會シ營業上ノ得失ヲ商議スルモノトス

此總會ハ定款內規ニ依リ其職務ニ屬スル諸件ヲ決議スルモノトス

此總會ハ利益金ノ分配及賞與ノ金額ヲ決議スヘシ

此總會ハ保護預リノ約束及其手續等ヲ決議スヘシ

此總會ハ重役集會ノ起案シタル銀行內規竝支店出張所等ノ規則ヲ決議ス可シ

此總會ハ支店出張所廢置ノ件ヲ決議スヘシ

以上四項ノ事件ハ總テ大藏卿ノ許可ヲ經ルニアラサレハ施行スルヲ得ス

第六十六條　第六十二條第三項ノ場合ヲ除クノ外重役監事共ニ過半數ノ出席アルニアラサレハ決議ヲ取ルヲ得ス

議事ハ多數ヲ以テ決スルモノトス但可否ノ數相半スル時ハ議長之ヲ決ス可シ

第六節　割引委員

第六十七條　割引委員ハ多クトモ三名以上タル可シ其委員ハ銀行總會ニ於テ選定シ出席日數ニ應シテ手當金ヲ付與スヘシ

此委員ハ監事中ヨリ兼任スルヲ得ヘシ

此委員ハ毎年總員ノ半數ヲ更代スルモノトス但之ヲ再選スルヲ得可シ

第六十八條　割引委員ハ理事一名ヲ以テ之カ長トナス可シ但委員出席ノ時日ハ內規ヲ以テ定ムルモノトス

此委員ハ諸手形ノ檢查ヲ遂ケ之カ割引ヲ許スヘシト認定スル時ハ其趣ヲ銀行重役ニ申出ヘシ

第六章　監理官

第六十九條　監理官ハ大藏卿ノ命ヲ受ケテ銀行一般ノ事務ヲ監理シ殊ニ銀行券發行內外手形割引等ノ事務ヲ監視スルモノトス

第七十條　監理官ハ何時タリトモ銀行事務一切ノ狀況ヲ質問シ且帳簿若シクハ金庫等ノ檢查ヲナス權ヲ有ス

監理官ヨリ銀行事務ノ一覽表ヲ要スルトキハ銀行重役ニ於テ之ヲ調製シ檢印ヲ捺シテ差出ス可シ

第七十一條　監理官ハ重役集會監事集會銀行總會割引委員席株主總會等ニ臨席シ意見ヲ陳述スルヲ得ヘシ但可否ノ數ニ加ハルヲ得ス

第七章　株主總會

第七十二條　株主總會ハ株主總體ノ權理ヲ表スルモノトス

條例規則ニ依リ株主總會ニ於テ決議シタル事件ハ缺席者或ハ異議者ト雖モ必ス服從スヘキ

者トス

第七十三條　株主總會ノ會員タル者ハ會期六十日前ニ於テ十株以上ヲ所有スル者ニ限ルヘシ

會員缺席スルトキハ他ノ會員タルヘキ者ニ代理ヲ附託スルヲ得ヘシ

會社組合又ハ銀行等ニシテ此銀行ノ株主タル者ハ其社員一名ヲ以テ代理セシムルヲ得ヘシ

株主中婦女竝瘋癲白痴及丁年未滿ノ男子ハ其後見人若シクハ他ノ會員タルヘキモノヲ以テ代理セシムヘシ

前三項ニ定メタル代理人タル者ハ必ス委任狀其他ノ書籍ヲ持參スルモノトス

第七十四條　會員ハ當日發會前ニ出テ出席名簿ニ署名捺印スヘシ

第七十五條　株主ハ所有株數十個ニシテ投票一個ノ權理ヲ有シ十一株以上ハ五十株毎ニ一個ヲ增加スルモノトス又幾人ヨリ代理委任ヲ受クルモ其代理ニ屬スル權理ハ十個以上ヲ有スルヲ得ス但政府及會社銀行等ノ代理タル者ハ此限リニ在ラス

第七十六條　定式株主總會ハ每年二月八月第三ノ土曜日ニ於テ開場スヘシ

此定式總會ニ於テ第三十四條ニ揭ケタル前半季實際報告ノ可否ヲ決議スヘシ

二月ノ株主總會ニ於テハ銀行重役ヨリ前年度ノ十二月三十一日迄ノ營業報告ヲ差出スヘシ

八月ノ株主總會ニ於テハ其年末ニ滿期退職スヘキ理事及監事ノ後任ヲ選擧スヘシ

二月八月兩度ノ株主總會ニ於テハ職員中死去或ハ退職者ノ補缺選擧ヲナス可シ

第七十七條　大藏卿若シクハ重役集會ニ於テ必要ナリト思考スルトキハ何時ニテモ臨時株主總會ヲ開クヲ得ヘシ

監事集會ヨリ請求スルカ又ハ株主總會員タルモノ五十名以上ヨリ請求アル時ハ何時ニテモ臨時株主總會ヲ開クヲ得ヘシ

第七十八條　株主總會ヲ開クトキハ定式臨時ヲ問ハス三十日前ニ招集狀ヲ各會員ヘ送致シ且新聞紙ヲ以テ其旨ヲ廣告スヘシ

若シ銀行總會ニ於テ緊要ナル事件ト認メ至急ニ株主總會ヲ開カント欲スル時ハ此招集期限ヲ十五日迄ニ短縮スルヲ得ヘシ

第七十九條　右招集狀ニハ其討議ニ付スヘキ事件ヲ明示スヘシ

第八十條　總裁副總裁理事監事ヲ除キ當日出席會員中所有株券ノ最モ多數ナル者二名ヲ選ミ以テ總會ノ幹事トナスヘシ但當選ノ者之レヲ辭スル時ハ順次次數ノ者ヲ以テ之レニ充ツヘシ

幹事ハ總裁副總裁理事ト共ニ當日會場ノ議事錄ニ署名捺印スヘシ

第八十一條　株主總會ニ於テハ招集狀ニ記載セシ事件ヲ討議スヘシ但其議案ハ重役集會又ハ監事集會ヨリ回付スルモノトス

若シ會員十名以上ノ連署ヲ以テ會期十日前ニ重役集會ニ他ノ議案ヲ差出シタル時ハ之ヲ當日ノ議題ト爲スヲ得ヘシ

株主總會ノ議事ハ議題外ノ事件竝ニ人ノ毀譽褒貶ニ渉ルヲ許サス

招集狀ニ記載セサル事件ト雖モ重役集會ヨリ臨時回付シタル議案ニシテ會場ニ於テ緊要ナリト認ムルモノハ當日ノ討議ニ付スルヲ得

第八十二條　議事ハ多數ヲ以テ決スヘシ若シ可否相半スルトキハ議長之ヲ決スヘシ

第八十三條　第四十五條ニ記載スル理事ノ候補ヲ選擧スルニ投票過半數ヲ得ルモノナキトキハ其最多數ナルモノヨリ右候補ニ二倍スル人員ヲ定メ之ニ就テ再ヒ投票ヲ爲スヘシ若シ投票同數ナルトキハ年長ヲ以テ定ムヘシ

監事選擧ニ於テ投票過半數ヲ得ルモノナキトキハ亦前項ノ例ニ準ス

第八十四條　任期中理事監事ヲ罷ムルトキハ株主總會出席員四分ノ三以上ニシテ總株半數以上ヲ所有スルモノヽ同意アルニ非レハ之ヲ決定スルヲ得ス但シ理事ヲ罷ムル時ハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第八章　總則

第八十五條　此定款ヲ改正スル時ハ特別ニ株主總會ヲ開キ之ヲ決議スルモノトス但其改正スヘキ條件ハ之ヲ會員招集狀ニ記載スヘシ

右株主總會ハ出席員所有ノ株數三萬個ニ滿ツルニ非サレハ其事件ヲ決議スルヲ得ス

此總會ノ議事ハ出席員投票個數三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ決議スルヲ得ス

此總會ニ於テ決議シタル事件ハ政府ノ許可ヲ經ルニ非レハ施行スルヲ得ス

第八十六條　政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ牴觸スル事件ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第八十七條　政府ノ都合ニ依リ要用ナリトスルトキハ何時ニテモ此定款ヲ改正增削スルノ權アルヘシ

明治十九年六月政府ハ日本銀行定款第三十六條第四項中ヲ改正シ從來純益金ハ人民所有株金現拂込高及政府所有株金現拂込高ニ對スル配當金ヲ引去リタルモノヨリ十分ノ一以上ノ積立金ヲ爲シ更ニ其殘額ノ十分ノ一ヲ賞與トシテ理事監事へ配當スルモノト定メ賞與金配當ノ割合ハ理事ハ七分監事三分ノ比例ヲ以テ分配スヘキモノト爲シタリシカ右賞與金控除ノ制規ヲ改正シ役員賞與金ノ外ニ交際費ヲ加ヘ其割合ハ內規ヲ以テ定ムルコトヽセリ右定款改正ニ關シ大藏大臣ヨリ日本銀行ニ達セルモノ左ノ如シ

其銀行定款第三十六條第四項左ノ通改正可致此旨相達候事

第四　右同殘額ノ十分ノ一迄ヲ役員賞與金竝交際費トシテ引去ルヘシ但其割合ハ內規ヲ以テ定ムルモノトス

明治十九年六月十八日

大藏大臣　伯爵　松方正義

日本銀行

日本銀行純益金ハ從來定款第三十六條ニ據リ人民持株ニハ年八分政府持株ニハ年六分ノ割合ヲ以テ配當シ來リシモ當初此ノ如キ差異ヲ付シタルハ全ク該行創立ノ際兌換券發行ノ特權未タ實施ニ至ラス事情止ムヲ得サルモノアリシニ由ルト雖モ其後兌換券發行ノ實施アリ其流通額益〻巨額ニ達シ同行營業ノ狀況昔日ノ比ニアラサルヲ以テ純益配當ニ付テモ政府人民ノ間ニ區別ヲ設クルノ必要ナキニ至レルヲ以テ總株金現拂込高ニ對シテ均シク年六分ノ割合ヲ以テ配當スルコトヽ改ムルノ必要アリ又株主總會ニ於ケル議決方法ヲ改正スルノ必要ヲ認メ政府ハ明治二十年四月二日日本銀行定款中左ノ如ク改正スヘキ旨ヲ達セリ

其銀行定款第三十六條及ヒ第八十五條第二項ヲ左ノ通改正シ同第五十三條第六十三條中四項ノ二字ヲ同項ト改ムヘシ此旨布達ス

第三十六條　純益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配スヘシ

第一　總株金現拂込高ニ對シ年六分ノ割合ヲ以テ配當スヘシ

第二　右配當金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ積立金ト爲スヘシ

第三　右同殘額ノ十分一迄ヲ役員賞與金竝交際費トシテ引去ルヘシ但其割合ハ內規ヲ以テ定ムルモノトス

右三項ヲ差引キ其殘額ハ總株ヘ配當スヘシ尤其割合ハ時々大藏大臣ノ許可ヲ受ク可シ

第八十五條第二項

右株主總會ハ出席員所有ノ株數六萬個ニ滿ツルニ非サレハ其事件ヲ議決スルヲ得ス

明治二十年四月二日

大藏大臣　伯爵　松方正義

日本銀行理事ハ其任期ヲ四年トシ株主總會ニ於テ候補者ヲ選擧シ大藏卿其內ヨリ任命スルヲ原則トスルモ創立第一回ノ際ハ五年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命セルヲ以テ右理事ハ明治二十年ヲ以テ任期滿了ニ付同年八月ノ株主總會ニ於テ之ヲ改選シ爾後毎年一名更代ノ順序ハ明治二十一年八月ノ總會ニ於テ抽籤ヲ以テ定ムヘキモノナルモ定款第四十七條ニハ更代順序ヲ定ムヘキ總會ヲ明治二十年八月ト規定シタルヲ以テ之カ改正ノ必要ヲ認メ明治二十年七月二十八日大藏大臣ヨリ左ノ如ク達セリ

其銀行定款第四十七條中二十年ハ二十一年ト改ム

明治二十年七月二十八日

大藏大臣 伯爵 松方正義

明治二十一年七月勅令第五十九號ヲ以テ兌換銀行券條例ヲ改正セラレタルヲ以テ同條例第二條ノ地金銀竝證券ノ解釋兌換銀行券發行ノ手續等ニ關シ日本銀行定款中改正ヲ加フルノ必要アリ又明治二十年同行資本增加等ニ因リ自カラ其改正ヲ要スルモノアルヲ以テ明治二十一年十二月二十一日大藏大臣ヨリ定款改正ノ旨ヲ左ノ如ク達セリ

日本銀行

其行定款第八十七條ニ據リ同定款第五十條第二項第五十一條第一項第七十五條但書第八十二條ヲ改正シ新ニ第八十八條第八十九條第九十條第九十一條ヲ追加ス

第五十條 第二項

滿期ノ監事ハ每年二月株主總會ヲ畢リテ更代スヘシ

第五十一條 第一項

理事ハ百株以上監事ハ四十株以上ヲ所有スルニアラサレハ此選ニ當ルヲ得ス

第七十五條但書

但帝室政府及ヒ會社銀行等ノ代理タル者ハ此限ニアラス

第八十二條 議事ハ投票權利ノ多數ヲ以テ決ス可シ若シ可否相半スル時ハ議長之レヲ決ス可シ

第八十八條 兌換銀行券條例第二條第一項ニ據リ發行準備ニ充ツル地金銀ハ舊金銀貨ヲ除クノ外ハ造幣相當以上ノ品位ヲ有スルモノニ限リ同第二項保證ニ充ツル證券ハ各種政府借入金證書政府ノ保證ニ係ル證券ニ限リ商業手形ハ正式ノ爲替手形約束手形ヲ限ルヘシ

第八十九條 兌換銀行券條例第二條第一項地金銀ノ準備價格同第二項公債證書大藏省證券其他ノ保證價格ハ重役集會ニ於テ決議シ大藏大臣ノ許可ヲ受ク可シ

第九十條 兌換銀行券條例第二條第三項ニ據リ兌換銀行券ノ增發ヲ爲サントスルトキハ其時ノ商況ヲ具申シテ大藏大臣ノ許可ヲ請フ可シ

第九十一條 兌換銀行券發行高交換高及準備ノ增減ニ關スル出納日表竝每週平均高表ヲ製シ出納日表ハ翌日午前十時マテ每週平均高表ハ次週水曜日マテニ大藏大臣ヘ進達シ而シテ每週平均高表ハ同日刊行ノ官報ヘ揭載スヘシ

明治二十一年十二月二十一日

大藏大臣 伯爵 松方正義

明治三十一年二月日本銀行ハ臨時株主總會ノ決議ニ由リ定款第十五條ニ第二項ヲ追加シ株券ノ種類五種ヲ定メ株主ノ選擇スル種類ヲ交付シ又手數料ヲ徵シテ種類變更ヲ許スコトヽシ同月二十一日右定款改正認可ノ許ヲ大藏大臣ニ出願シ同日其認可ヲ得タリ定款追加ノ條項左ノ如シ

第十五條 第二項

株券ハ一株一通、五株一通、十株一通、百株一通、千株一通ノ五種トナシ株主ノ選擇スル種類ヲ交付ス但株主ハ規定ノ手數料ヲ支拂ヒテ株券ノ種類變更ヲ請求スルコトヲ得

右ノ外資本ノ增加ニ由ル定款ノ改廢ハ便宜第六節資本金ノ部ニ讓ル

第五節 組織

第一款 內規ノ制定

是ヨリ先キ明治十五年九月中創立委員ハ御用掛ト審議スル所アリ漸ク內規ヲ編成シ之ヲ大藏卿ニ上申シテ其許可ヲ請ヘリ卽チ大藏卿ハ詳細取調ノ上之ヲ訂正セシメ同月七日ヲ以テ其施行ノ許可ヲ與ヘタリ

明治十五年十月六日許可相成タル日本銀行定款第六十五條ニ據リテ決議シタル假內規左ノ如シ

日本銀行假內規

第一章 株式記入賣買讓與等ノ事

第一條 當銀行ノ株式ハ定款第九條ニ規定スル所ニ從ヒ第一回入金(卽チ一株ニ付金四拾圓)ノ時第一號雛形ニ依リ假株券ヲ各株主ヘ交付シ第二回以下入(第二回ヨリ第四回迄ハ一株ニ付金貳拾圓宛第五回以往ハ一株ニ付金貳拾圓ヨリ少カラス金四拾圓ヨリ多カラス)金ノ時ハ其都度各株主ヨリ所持ノ假株券ヲ差出サシメ之ニ其金額ヲ記入シ總裁及ヒ其主任ノ局名署名捺印シタル上各其株主ニ還付スヘシ

第二條 資本總額入金濟ノ上ハ第二號雛形ニ依リ本株券ヲ製シ當銀行ノ印章ヲ捺シ總裁及ヒ文書局長株式局長之ニ署名捺印シ且ツ株式帳ト株券トノ間ニ割印ヲ捺シタル上之ヲ各株主ニ渡シ假株券ト引換フル者トス

第三條 株主若シ其株券ヲ賣買讓與セントスル時ハ賣方或ハ讓渡人ヨリ書面ヲ以テ其旨ヲ當

銀行ヘ申出テ當銀行ハ大藏卿ヘ稟議ヲ經テ之ヲ當人ニ通報スヘシ此通報ヲ受ケタル上第三號雛形ニ依リ賣買又ハ讓與ノ證書ヲ作リ雙方連印ヲ爲シ且ツ株券ノ裏面ニ署名捺印シタル上共ニ之ヲ當銀行ニテハ之ヲ株式帳ニ記入シ總裁及ヒ文書局長株式局長之ニ署名捺印スヘシ而シテ其株券ハ右三名ニテ之カ裏面ニ捺印シ併テ右證書ト株券トノ間ニ割印ヲ捺シタル上之ヲ買受人又ハ讓受人ニ交付スルモノトス但此株券書換ニ付テハ當銀行ニ於テ定ムル所ノ手數料ヲ本人ヨリ拂ハシムヘシ

第四條 株主中若シ死去スル者アリテ相續人其株券ヲ讓受ルトキハ相當ノ證書ニ株券ヲ添ヘテ銀行ニ差出シ當銀行ハ前條ト同樣ノ手續ヲ以テ之ヲ取扱フヘシ

第五條 定款第五十一條ニ記載スル者ヲ除クノ外一切株券ノ賣買ヲ防クヘキノ文言ヲ株券又ハ株式帳ニ記入スルヲ許サス

第六條 水火災盜難ノ爲メ株券ヲ紛失シタルトキハ二人以上ノ確實ナル證人ヲ立テ事實ヲ明記シタル書面ヲ以テ當銀行ヘ届出更ニ新株券ヲ請求スヘシ當銀行ニ於テハ其事實ヲ認メ其趣ヲ新聞紙ヲ以テ廣告シ六箇月ヲ經テ尙發見セサルトキハ新株券ヲ作リ之ヲ本人ニ交付スヘシ但シ此株券書換ニ付テハ當銀行ニ於テ定ムル所ノ手數料竝ニ廣告料ハ本人ヨリ拂ハシムル者トス

第七條 各半季割賦金拂出以前十五日ノ間ハ一切株券ノ賣買讓與ヲ停止シ新聞紙ヲ以テ豫メ其旨ヲ廣告スヘシ

第八條 當銀行ニテ半季割賦金ヲ拂出ストキハ各株主ハ當銀行ヨリ第四號雛形ノ割賦金受領

證用紙ヲ受取リ之ニ其金額ヲ記入シ署名捺印ノ上之レト引換ニテ割賦金ヲ請取ルモノトス

第二章 營業ノ事

第一節 割引ノ事

第九條 當銀行ト割引勘定ヲ開カント欲スル者ハ第五號雛形ニ據リ總裁宛ノ書面ヲ以テ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 總裁ハ前條書面ヲ重役集會ニ付シテ之カ許否ヲ評議決定セシムヘシ尤モ其決定シタル趣旨ハ當日該集會ノ議事錄ニ登記シ其旨ヲ本人ヘ通知スヘシ

第十一條 割引勘定ヲ開キタル者ニハ當銀行ヨリ豫テ割引表ノ用紙ヲ渡シ置クヘシ尤モ此用紙ハ第六號雛形ニ依リ凡ノ割引依賴人ノ遵奉スヘキ規則ヲ記載シタルモノトス

第十二條 割引依賴人ハ右割引表ニ其手形ノ枚數金額日數及ヒ振出人引受人ノ姓名其他ノ要件ヲ詳記シ署名捺印ノ上其手形ヲ添ヘテ午前第十時三十分マテニ當銀行ヘ持參スヘシ但シ此時間ヲ後レタル者ハ翌日十二時ニ至ラサレハ之ヲ認定セサル者トス

第十三條 割引局ニハ手形現有高帳ヲ設ケテ各依賴ニ付テ其現ニ割引シタル手形有高ヲ仕拂期日ノ順序ニ從フテ之ニ登記スヘシ

第十四條 割引事務取扱ノ手續ハ重役集會ニ於テ別ニ規定スル所ノ事務章程ニ據ルヘシ又重役集會ニテ特別ノ規則ヲ定テ大藏卿ノ許可ヲ得タル上政府發行手形及ヒ公債證書利札ノ割引ヲ爲スコトヲ得ヘシ

第二節 預金勘定ノ事

第十五條 當銀行ト預ケ金勘定ヲ開カント欲スル者ハ第七號雛形ニ依リ總裁宛ノ書面ヲ以テ其旨ヲ申出ツヘシ

第十六條 總裁ハ前條ノ書面ヲ重役集會ニ付シテ之カ許否ヲ評議決定セシムヘシ尤モ其決定シタル趣旨ヲ當日該集會ノ議事錄ニ登記シ其旨ヲ本人ヘ通知スヘシ

第十七條 預ケ金勘定ヲ開キタル者ハ當銀行支店又ハ約定店アル地方ニ於テ他ノ預金勘定ヲ有スル者ト互ニ振換預ケヲ爲ス事ヲ得ヘシ然ルト時ハ其預リ店ヨリ渡シタル振換預證書ヲ當銀行ニ持參スレハ銀行ニテハ之ヲ本預リ證書ニ書換ヘ其金高ヲ本人ノ勘定ニ附込ム者トス

第十八條 當座預ノ預主ヘハ當銀行ヨリ豫テ當座預リ通帳及ヒ小切手帳ヲ渡シ置キ預主若シ預ケ込ヲ爲ストキハ其通帳ヲ持參セシメ當銀行ニテ其預ケ込高ヲ之ニ記入スヘシ其引出高モ亦當銀行ニ於テ時々元帳ヨリ之ニ記入スルモノトス又預ケ主ノ望ニ依リ甲ノ勘定ヨリ乙ノ勘定ヘ振換スル爲メ振換切手ノ用紙ヲモ交付スルコトアルヘシ

第十九條 當銀行ハ毎月一回ヨリ少カラス預金勘定ノ現況ヲ取調ヘ各其預主ヘ通知シ預主ハ之ヲ手元勘定ト照合シ互ニ相異ナキトキハ當銀行ヨリ豫テ渡置ク所ノ用紙ニ其旨ヲ記載シテ當銀行ヘ報知スヘシ

第二十條 預金勘定ハ毎年兩度(十六年二月)ニ決算ヲ爲シ更ニ約定ヲ改ムルニ由リ預主ハ其決算ノ爲メニ當座預通帳ヲ當銀行ヘ差出スヘシ當銀行ハ之ヲ預金元帳ニ照合シテ不都合ナケレハ更ニ本人ヘ返付スル者トス

第二十一條 定期預通知預別段預等ノ約束及ヒ預金受拂ノ手續等ハ重役集會ノ決議ヲ以テ規

定スル者トス

第二十二條　當座預定期預通知預又ハ別段預ケタルヲ問ハス預主若シ本款又ハ別段ノ約束ヲ蹈マサルカ若クハ預金現高ニ超過シタル小切手ヲ振出ス等ノ事アルトキハ重役集會ニ於テ評議ノ上其預主ニ對シ預金取引ヲ謝絶スル事アルヘシ但公債證書ヲ抵當トシテ當座貸越ノ約定アル者ニ對シ小切手ノ仕拂ヲ爲スハ此限ニ在ラス

第三節　手形金取立ノ事

第二十三條　當銀行ハ豫メ取引約定アル銀行會社等ノ爲ニ東京府内其他約定店アル地方ニ於テ爲替手形約束手形等ノ取立ヲ爲シ其取立先ノ遠近竝ニ金額ニ應シテ多少ノ手數料ヲ受クヘシ

第二十四條　手形ノ取立方ヲ依頼セント欲スル者ハ府内ハ遲クトモ其手形ノ仕拂期日ノ前日又各地方ハ郵便日數ヲ除キ二日前ニ其手形ノ裏面ニ請取ヲ記シ署名捺印ノ上第八號表ニハ左ノ諸件ヲ記載スルモノトス

一　手形各通ノ金高
一　仕拂期日
一　引受人又ハ仕拂人ノ住所姓名
一　手形總金高

第二十五條　當銀行ニテ右手形金取立ノ依頼ヲ受ケタルトキハ其依頼ニ應スヘシト雖モ依頼人ハ當銀行ヨリ其金額取立濟ノ通知ヲ受ケタル上ニ非サレハ其金高ヲ引出スヲ得サル者ト

ス

第二十六條　手形若シ不渡トナルトモ當銀行ニテハ一切訴訟上ノ手續ヲ擔任セサルヲ以テ依頼人其通知ヲ受ケタル時ハ速ニ其手形ヲ引取ルヘシ

第四節　保護預ノ事

第二十七條　當銀行ハ金銀貨貴金屬竝ニ諸證券類ノ保護預ヲ爲シ其手數料ノ割合ハ銀行總會ニ於テ定時決議スル者トス但シ六箇月分ノ割合ハ多クトモ預金價格ニ對シテ〇〇〇ヲ超過セサル者トス

第二十八條　保護預ヲ爲サントスル者ハ其都度當銀行ヨリ渡ス所ノ第九號雛形申込書用紙ニ其預品ノ種類個數及價格等ヲ詳記シ署名捺印ノ上之ヲ當銀行ヘ差出スヘシ但シ預品ノ價格ハ必ス〇〇圓以上ノ者ニ限ルヘシ

第二十九條　保護預ノ手數料ハ預入ノ時之ヲ納メ預續ノ者ハ各半季ノ初ニ於テ預主ヨリ其半季分ヲ前納セシムル者トス

第三十條　保護預ノ預主ヘハ其預證書ヲ付與スト雖モ之ヲ他ヘ賣渡シ又ハ讓渡スルヲ得ス

第三十一條　預主若シ其預品ヲ檢査シ又ハ引出サントス欲スルトキハ其前日ニ總裁宛ノ書面ヲ以テ申出ツヘシ

第三十二條　當銀行ヨリ預主ニ對スル責任ハ初メ預品ヲ受取ルトキ又ハ爾後本人ノ檢査ヲ爲タルトキノ現況ヲ以テ之ヲ還付スヘキコトニ限ルヘシ但震災其他避クヘカラサル事變ニ遇フトキハ此限ニアラス

第三十三條　預品若シ損傷ヲ蒙リ當銀行其責ニ任スヘキ場合ニ於テハ初メ預主ノ申込書ニ記載シタル價格丈ヲ辨償スルモノトス

第三十四條　公債證書ヲ保護預ケトナシタル者ヘハ本人ノ望ニ由リ當銀行ニテ公債利子ノ受取方ヲ擔任シテ之ヲ本人ノ預金勘定ニ繰込ミ置キ爾後何時ニテモ本人ノ請求次第之ヲ仕拂フヘキノ約束ヲ定ムルコトアルヘシ

第五節　貸付ノ事

第三十五條　公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル證券ヲ抵當トシテ借用金ヲ望ム者ハ第十號雛形ニ依リ總裁宛ノ書面ヲ以テ申出ツヘシ尤此貸付ヲ許スハ資產確實ナリト認ムル者ニ限ル者トス

第三十六條　此貸付ノ金額ハ如何ナル場合ニ於テモ一銀行又ハ一會社ニ付拾萬圓以上ヲ超過スヘカラス但止ムヲ得サル場合アツテ拾萬圓以上ヲ貸渡サントスルトキハ重役集會ノ決議ヲ以テ大藏卿ノ認可ヲ受ケ實施スル者トス尤モ貸付ノ期限ハ十日ヨリ少カラス六箇月ヨリ多カラサル者トス

第三十七條　信用證書ノ用紙ハ第十一號雛形ニ據リ其都度當銀行ヨリ本人ヘ附與スヘシ而シテ抵當品預證書第十二號雛形ニハ主務役員ノ檢印ヲ爲シタル上總裁之ニ署名捺印スル者トス

第三十八條　信用證書ニ貼用スル印紙稅ハ借主ヨリ支辨セシムル者トス

第三十九條　借用金ハ必ス其期限ニ返濟スヘシト雖モ借主ノ都合ニヨリ期限內ニ於テ借用金

ノ全額又ハ幾分ヲ拂込ミ其金額ニ應スル抵當品ヲ引出スコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ貸付ノ日ヨリ拂込ノ日マテ日割ヲ以テ利子ヲ計算スルモノトス

第四十條　借主若シ借用金ノ全額ヲ返濟スルトキハ初メ銀行ヨリ渡シタル抵當品預證書ノ裏面ニ其抵當品ヲ受取タル旨ヲ記シ署名捺印ノ上當銀行ヘ還付スヘシ尤モ此證書ハ速ニ計算局長ニ送リテ檢印ヲナサシムル者トス而シテ當銀行ハ直ニ借用證書ニ取消ヲ爲シ且ツ其抵當品ヲ本人ヘ還付スヘシ

第四十一條　借主若シ借用金ノ內拂ヲ爲シテ抵當品ノ幾分ヲ引出ストキハ當銀行ニ保存スル所ノ借用證書ノ裏面ニ其抵當品ヲ受領シタル旨ヲ記入シ之ニ署名捺印スヘシ而シテ其初メ借主ヘ渡シ置タル抵當品預證書ニハ當銀行ニテ拂込金高及ヒ其引出セシ抵當品ノ種類員額ヲ記入シテ割引局長之ニ署名捺印スヘシ尤モ此證書ハ二通共ニ速カニ計算局長ニ送リテ檢印ヲ請フモノトス

第四十二條　借主ハ其抵當ニ差入タル公債證書ノ利子拂渡ノ期日ニ至ラハ受取證書ヲ持參シテ之カ利札ヲ受取ルヲ得ヘシ但シ借主トノ約束ニヨリ右公債證書ノ利子ヲ當銀行ニテ受取リ當座預ケ又ハ別段預リ勘定ニ繰込ムコトアルヘシ

第四十三條　定款第二十一條第三項ニ記載スル金銀抵當貸ニ關スルコトハ銀行總會ニ於テ特別ノ規則手續ヲ議定スヘシ

第三章　實際報告竝ニ經費豫算決算ノ事

第四十四條　毎年六月三十日十二月三十一日ニ於テ總裁ハ計算局長ニ命シテ半季實際報告ヲ

調整セシメ之ニ參考書類ヲ添ヘ重役集會ニ付シテ之ヲ決議スヘシ

第四十五條　重役集會ニ於テ此報告ヲ決議シタル時ハ直ニ之ヲ監事集會ニ付スヘシ

第四十六條　監事集會ニ於テ此報告ヲ承認シタルトキハ直ニ銀行總會ヲ開キ定款第三十六條ニ照準シテ利益金配當ノ割合ヲ議定シ大藏卿ノ認可ヲ請フヘシ

毎年度營業上ノ顚末ハ監事集會ニ於テ實際報告ヲ承認シタル上ニ非サレハ之ヲ世上ニ公布スヘカラス

第四十七條　毎年六月二十日十二月二十日マテニ總裁ハ文書局長ニ命シテ次キノ半季經費豫算表ヲ調整セシメ之ニ諸般ノ參考書類ト左ノ諸件ヲ記シタル表トヲ添ヘテ重役集會ニ付シテ評議決定セシムヘシ

一　當半季經費定額

一　當半季諸般ノ實費額

一　次半季ニ增減スヘキ金額

一　右增減ノ理由

第四十八條　重役集會ニ於テ右半季豫算表ヲ決議シタルトキハ上半季ノ豫算ハ十二月三十一日下半季ノ豫算ハ六月三十日迄ニ之ヲ監事集會ニ付シ監事集會ニテハ七日間ニ之ヲ調査シ相當ナリト認ムルトキハ之ヲ承認スヘシ若シ不都合アリト認ムルトキハ直ニ銀行總會ヲ開テ之ヲ決議スルモノトス

第四十九條　若シ豫算金額ノ外ニ不時ノ費用ヲ要スルコトアルトキハ重役集會ニ於テ之カ事

由員額等ヲ審明シテ監事集會ノ承認ヲ受クヘシ

第五十條　每半季末日ニ於テ總裁ハ文書局長ニ命シテ前半季ニ係ル經費決算報告ヲ調整セシメテ重役集會ニ付スヘシ而シテ其豫算表ヨリ過不足ヲ生セシ者アラハ其ノ事由ヲ審明シ監事集會ノ承認ヲ要スヘシ

第四章　行務綜理ノ事

第一節　重役集會

第五十一條　總裁副總裁及ヒ理事ハ貸付金及ヒ手形割引等ノ許否ヲ決スル爲メ每日適當ナル時間ニ重役會議ヲ開クヘシ其他ノ事件ハ每月曜木曜日ニ通常會ヲ開キ之ヲ審議擧行スルモノトス但シ事情至急ヲ要スルトキハ總裁ノ命ニヨリ何時ニテモ臨時會ヲ開ク事ヲ得ヘシ

第五十二條　每通常會ニ於テハ開席ノトキ先ツ書記ヲシテ前會ニ議決シタル議事錄ヲ朗讀セシメ之ヲ正當ナリト認ムルトキハ出席員盡ク之ニ認印ヲ爲スヘシ

第五十三條　右議事錄ノ承認ヲ畢リタル後諸方ノ通信竝ニ諸般ノ報告ヲ受ケ且ツ當日ノ議案ヲ議スヘシ

第五十四條　出席員過半數ニテ至急ニ議決センコトヲ望ムニ非サレハ當日差出シタル議案ヲ直ニ議決スルコトヲ得ス必ス之ヲ次會ニ讓リテ丁寧審議ヲ盡サンコトヲ要ス然レトモ發案者趣旨ヲ當席ニテ演述センコトヲ請求スルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ

第五十五條　凡ソ內規改正ニ係ル議案ハ必ス二次ノ重役集會ニ於テ審議ヲ遂ケタル上銀行總會ニ付シ然ル後大藏卿ノ認可ヲ請フモノトス

第五十六條　重役集會ニ於テハ議長（總裁）議件ノ順序ヲ定メ且ツ會員ノ發言ヲ許スモノトス
出席員ハ必ス可否ノ數ニ加ハラサルヲ得ス若シ可否相半スルトキハ議長之ヲ決スヘシ
第五十七條　重役集會ノ議事ニ於テ之ヲ可トスル者ト可トセサル者トアルトキハ共ニ其票數ヲ議事錄ニ記載スヘシ
第五十八條　定款第五十八條第六項ニ記載スル年度營業報告竝ニ銀行總會ニ付スヘキ營業月報ハ總テ重役集會ニ於テ審議調製スルモノトス

第二節　總裁副總裁

第五十九條　凡ソ當銀行ノ證文其他ノ書類ニハ總裁ノ檢印ヲ受クル前ニ必ス文書局長ノ捺印ヲ要スルモノトス但シ其日常細事ニ關スル書類ハ先ツ主任ノ局長之ニ捺印スヘシ
第六十條　定款第五十七條ニ記載スル代理委任狀ハ同案二通ヲ作リ一通ハ文書局ニ藏メ一通ハ本人ヘ交付シ而シテ次回ノ重役集會ニ於テ之ヲ議事錄ニ揭載スヘシ
此委任狀ハ各局長ニ廻達シテ各〻之ニ認印ヲ爲サシムヘシ
第六十一條　總裁ハ銀行一般ノ役員ヲ管轄シ若シ必要ナリト思惟スルトキハ假リニ之カ停職ヲ命スルヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ次回ノ重役集會ニ付シテ之ヲ審議セシムヘシ
第六十二條　副總裁ハ其職總裁ニ亞ク總裁若シ事故アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第三節　理事

第六十三條　理事ハ重役集會ニ出席シテ諸般ノ決議ニ參與スルノ外一局若クハ數局ノ長トシテ其局員ヲ指揮シ局內一般ノ事務ヲ調査スルヲ掌トル

第六十四條　理事ハ每日一名ツヽ割引委員長トシテ割引手形ノ調査ニ從事スヘシ

第四節　監事集會

第六十五條　監事集會ハ少クトモ每月一回ツヽ開會スルモノトス但シ事務上之ヲ要用ナリトスルトキハ總裁ノ命ニ由リ何時ニテモ臨時會ヲ開クコトヲ得ヘシ
第六十六條　監事集會ニ簿冊ヲ設ケテ其議事ノ要領ヲ登記スヘシ又每回會議ヲ畢リタル後當日ノ議事要件書ヲ作リ出席員之ニ認印ヲ爲シテ銀行重役ヘ差出スヘシ
第六十七條　監事ニ配當スル賞與金ハ每半季ニ之ヲ決算シ定款第六十三條ニ準シテ之ヲ各員ニ配當スヘシ
第六十八條　定款第六十一條第三項手形割引ノ歩合ニ就キ重役集會ニテ議決シタル事件ヲ監事集會ニ於テ承認セサルトキハ速ニ銀行總會ヲ開キ之ヲ審議決定スヘシ
第六十九條　監事ハ當銀行諸般ノ業務ヲ監視シ且ツ要用ナリト思惟スルトキハ何時ナリトモ諸帳簿ヲ檢查スルモノトス

第五節　銀行總會

第七十條　銀行總會ハ每月最終ノ土曜日ニ開會スヘシ若シ事務上之ヲ要用ナリト思考スルトキハ總裁ノ命ニ由リ右ノ期日ヲ前後シ又ハ臨時會ヲ開クコトヲ得ヘシ
第七十一條　此ノ總會ニ於テハ開會ノ當日ニ議事錄ヲ作リ其決議ノ要領ヲ記載シ出席員之ニ認印ヲ爲スヘシ但シ當日ニ議事錄ヲ作ルヲ得サル時ハ重役集會ニテ假リニ之ヲ調整シ次回ノ總會ニ付シテ出席員ヲシテ之ニ認印ヲ爲サシムヘシ

第七十二條　毎會開席ノ時先ツ銀行重役ヨリ回付シタル營業月報ヲ受ケ次キニ定款内規ニ依リ重役集會ヨリ廻付シタル事件ヲ議ス可シ

第七十三條　議題ノ順序ハ議長(總裁之ヲ定ムヘシ但シ議題外ノ事件ト雖モ會員過半數ニテ緊要ナリト認ムル者ハ之ヲ當日ノ議題トナスコトヲ得ヘシ

若シ銀行總會ノ會員タル者三名以上ニテ開會ヨリ二日以前ニ總會ヘ他ノ議案ヲ差出シタルトキハ總裁ハ直チニ之ヲ各會員ヘ通報シ當日ノ總會ニ於テ之ヲ議セシムヘシ

第六節　割引委員

第七十四條　割引委員ハ銀行總會ニ於テ東京府下ノ商人中ヨリ適當ナリト思惟スル者三名以上ヲ選定スヘシ

第七十五條　割引委員ハ毎日午前十時ヨリ正午十二時迄銀行ニ出席シテ諸手形ノ檢查ヲ遂ケ之カ割引ヲ許ス可シト認定スル者ハ之ヲ重役集會ニ申立ツヘシ但シ其職務ハ割引手形ノ許否ニ就テ意見ヲ陳述スルニ止ル者トス

第七十六條　凡ソ割引委員タル者ハ其職務上ニ關スル事件ヲ他ニ漏告スルヲ禁ス

第五章　株主總會ノ事

第七十七條　株主總會ニ於テハ總裁副總裁理事監事及ヒ會場幹事二名ヲ以テ會場ノ事務ヲ管理スル者トス之ヲ名ツケテ總會掛リト云フ

第七十八條　議長(總裁之ニ當ル)ハ會議ノ開閉ヲ告ケ議場ヲ整頓シ議事ノ議題外ニ馳セ又ハ人ノ毀譽褒貶ニ渉ル者ヲ制止スヘシ

凡ソ會員發言セントスルトキハ先ツ議長ノ許可ヲ受ク可シ

第七十九條　株主總會ニ於テ投票ヲ用キルトキハ書記ヲシテ之ヲ收受セシメ幹事之ヲ點檢シタル上議長之ヲ報道スヘシ

第八十條　株主總會ニ於テ議決シタル事件ハ總會掛ニ於テ之カ議事錄ヲ製シ之ニ認印ヲ爲ス可シ

第六章　營業時間竝休暇ノ事

第八十一條　當銀行ノ營業時間ハ毎日午前九時ヨリ午後三時迄土曜日ハ正午十二時マテトス但日ノ長短ニ由リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第八十二條　休業ハ毎日曜日及ヒ定例ノ祝日、祭日ニ限ル者トス

第八十三條　諸役員ハ毎日午前第八時三十分迄ニ出頭シ平日ハ午後第四時土曜日ハ午後第一時ニ退出スルモノトス但シ事務ノ都合ニ由リ右時間外ト雖モ職務ヲ執ルコトアルヘシ

第八十四條　凡ソ役員ハ其局長ノ許可ナクシテ前條ノ時間中猥リニ退出スヘカラス若シ之ヲ犯ス者アルトキハ重役集會ノ評議ヲ以テ本人月給ノ幾分ヲ控除スヘシ前項ノ規則ハ各局長ニ於テ殊ニ注意シテ之ヲ局内ニ實施セシムヘキ者トス

第八十五條　總裁ハ毎月一回又ハ要用ナリト思考スル都度役員姓名表ヲ各局課ニ持廻ラシメ諸役員ヲシテ各〻之ニ捺印セシメ以テ其出頭ノ實否ヲ驗ス可シ若シ許可ヲ受ケスシテ缺席スルコト一年三回ニ及フ者アルトキハ之ヲ第百一條ノ行狀書ニ掲クヘシ

第八十六條　凡ソ役員ノ休暇ハ一年間十五日ヲ以テ限リトス若シ此日數ヲ過クルトキハ其超

過シタル日數ニ應シテ給料ヲ控除スルモノトス但疾病忌引等ニ由リテ出席スルヲ得サル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條　各局長ヨリ休暇(一日タリトモ)ヲ請願スルトキハ重役集會ニ於テ之カ許否ヲ議シ其代役ヲ選命スルモノトス其他ノ役員休暇ヲ請願スルトキハ局長之ヲ受ケ其許否ニ付テ意見ヲ陳ヘ且其休暇中事務ヲ補助スルノ方法ヲ立テヽ之ヲ總裁ニ稟請スヘシ

第八十八條　文書局ニ簿冊ヲ設ケ凡ソ役員ノ休暇缺席竝ニ其日數等ヲ詳細ニ記錄スヘシ

第七章　役員給料旅費竝ニ手當金ノ事

第八十九條　理事、監事其他各役員ノ給料左ノ如シ

一	理事　月俸金百圓	
	但賞與金ノ割合ハ定款ニ因ル	
一	監事　月俸金七拾五圓	
	但賞與金ノ割合ハ定款ニ因ル	
一	局長　月俸百圓	
一	局長補　月給ヲ三等ニ分ツ	
	一等金六拾圓	二等金五拾五圓　三等金五拾圓
一	課長　月俸ヲ三等ニ分ツ	
	一等金五拾圓	二等金四拾五圓　三等金四拾圓

右局長補及ヒ課長ノ賞與金ノ割合ハ定款第三十六條第四項ニ定メタル賞與金ノ內ヨリ凡十

分ノ三ヨリ多カラサル金額ヲ引去リ通常及ヒ臨時ノ賞與ニ充ツヘシ但シ其割合等ハ重役集會ニ於テ定ムル者トス

一	書記　(等級ヲ五等ニ分チ毎等月給二等ニ分ツ)	
	一等書記　金四拾圓	金參拾五圓
	二等書記　金參拾圓	金貳拾七圓
	三等書記　金貳拾五圓	金貳拾圓
	四等書記　金拾八圓	金拾五圓
	五等書記　金拾貳圓	金拾圓

右ノ外見習小使門番等ノ月給ハ金拾圓以下適宜ニ給與スルモノトス

第九十條　當銀行役員ノ旅費汽車賃滯在日當左ノ如シ

旅費汽車賃竝ニ滯在日當表

役名	重役	支配席	書記席	見習傭
旅費	一里金五拾錢	一里金四拾錢	一里金參拾錢	一里金拾五錢
汽車賃	上等賃	中等賃ノ三割增	中等賃ノ二割增	下等賃ノ五割增
滯在日當	一日金貳圓	一日金壹圓	一日金七拾五錢	一日金五拾錢
在勤手當		一箇月金拾圓	一箇月金七圓五拾錢	一箇月金五圓

但シ海路ヲ旅行スルモノト雖モ陸路ヲ行クノ割合ヲ以テ旅費ヲ給シ汽車ニテ旅行スル者ハ汽車賃ノ外別ニ旅費ヲ給スルコトナシ又在勤手當ハ本人在勤ノ場所居住ノ地ナルトキハ之ヲ給スルコトナシ

第九十一條　給料ハ毎月二十五日ニ之ヲ給與ス受取人ハ自身又ハ名代人ヲ以テ俸給渡帳ニ調印スル者トス

第九十二條　十五日以前ニ就職セシ者ノ給料ハ其月十六日ヨリ起算シ十六日以後ニ就職セシ者ニハ翌月分ヨリ給與スルモノトス若シ退職又ハ死去シタル時ハ其十五日以前ニ在ルモノハ十五日迄十六日以後ニアルモノハ月末迄ノ給料ヲ給與スヘシ但シ日給ハ此限ニアラス

第九十三條　金庫局長金庫係其他金錢取扱ニ關スル役員ニハ給料ノ外ニ補充トシテ特別ノ手當金ヲ附與スヘシ

第九十四條　凡ソ役員行用ニヨリ旅行スルトキハ重役集會ニ於テ定メタル旅費定則ニ準シ旅費竝ニ滯在日當ヲ給與スルモノトス

第八章　役員席次誓詞責任及ヒ罰例ノ事

第九十五條　當銀行役員ノ席次ヲ定ムル左ノ如シ

重役
（一）正副總裁　（二）理事　（三）監事　（四）局長

支配席
（一）局長補　（二）課長

准支配席
課長心得

書記席
自一等書記至五等書記

准書記席　書記見習

備席
（一）小頭　（二）小使

支配席ハ金參百圓准支配席ハ金百圓若シクハ實價之ニ相當スル地券公債證書預金證書又ハ當銀行株券ヲ身元保證トシテ當銀行ニ預ケ置キ支配席ハ第十三號雛形書記席ハ第十四號雛形ノ誓詞ヲ爲シ且一般ニ第十五條雛形ノ身元引請證書ヲ差出シムヘシ但備席以下ハ誓詞ヲ要セサルモノトス

第九十六條　局長補以下ノ役員ハ重役集會ノ許可ヲ受クルニ非サレハ當銀行外ニ於テ他ノ職務ヲ奉スルヲ得ス

第九十七條　各局課ヨリ仕出ス所ノ一切ノ書類ニハ其責任ノ役員檢印ヲ捺シ若シ其書類ニ關シ失錯若シクハ疎漏アルトキハ當銀行ニ對シ其責ニ任スルモノトス

第九十八條　當銀行ニ於テ其所爲ノ輕重ニ由リ適行スル所ノ罰例左ノ如シ

一　譴責
一　罰俸
一　停職
一　降等
一　免職

第九十九條　凡ソ役員右處分ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ第百一條ニ記載スル行狀書ニ掲クヘシ但シ一年三回ニ及フモノハ其職ヲ免スルコトアルヘシ尤以前格別ノ功勞アリテ以後諸人ノ

模範トナルヘキ者ハ之ヲ宥恕スルコトアルヘシ

第百條　凡ソ役員故ラニ事實ニ相違シタル報告ヲ爲シ又ハ人ヲ欺罔セント爲シタルトキハ其輕重ニ因テ其職ヲ停メ又ハ其職ヲ免スヘシ當銀行ノ事務就中人ノ信憑ヲ傷ツクヘキ事件ヲ漏告シタル者亦同シ

第百一條　各局ハ毎年其局員ノ能不能勤惰竝ニ品行等ヲ取調ヘ行狀書ヲ作リ重役集會ニ差出スヘシ

第九章　局課分畫ノ事

第百二條　當銀行ノ事務ハ左ノ五局ヲ以テ分擔ス

第一　文書局
第二　金庫局
第三　計算局
第四　割引局
第五　株式局

此諸局ハ事務ノ都合ニ由リ重役集會ノ決議ヲ以テ之ヲ廢置離合スルコトヲ得ヘシ

第百三條　一局ヲ分ツテ數課ト爲シ課務繁劇ナル者ハ又分ツテ數係トナス局長ハ局員ヲ指揮シ局務ヲ總轄ス課長係長ハ各其課若クハ係ノ事務ヲ分轄ス、

第一節　文書局

第百四條　文書局ハ分ツテ三課トナス

第一　庶務課
第二　支店課
第三　用度課

第百五條　局長

文書局長ハ重役集會ノ開席前ニ當日ノ議題ニ係ル諸般ノ書類ヲ蒐集シテ議事ノ參考ニ供ズヘシ

第百六條　文書局長ハ重役集會銀行總會及ヒ株主總會ニ於テ議事ノ要領ヲ筆記シ之カ議事錄ヲ調整スヘシ尤モ此議事錄ノ本書ハ會員ノ捺印ヲ經タル上之ヲ文書局ニ保存シ若シ裁判所其他ニ於テ之カ謄本或ハ拔書ヲ要スルトキハ局長ノ檢印ヲ爲シテ之ヲ保證スルモノトス

第百七條　諸官省竝ニ行政廳ヘ差出ス重ナル文書ニハ總裁ノ署印ヲ請フ前ニ文書局長ノ捺印ヲ要スルモノトス

第百八條　文書局長ハ銀行重役ニテ定メタル取締規則ヲ行內ニ施行セシムルモノトス若シ違犯者アルトキハ直ニ總裁ニ申告シテ之カ處分ヲ請フ可シ

第百九條　庶務課ノ事務ハ左ノ如シ

一　重役ノ指揮ニ從ヒ各局課ニ專屬セサル往復書信ヲ起案スル事
一　諸方ヨリ到來シタル書類手形等ヲ點檢シテ各之ヲ主任ノ局課ヘ傳達スル事
一　各局課ヨリ仕出ス所ノ通信書類ヲ發付スル事

一 書信發著簿ヲ設ケテ書類ノ出入ヲ明ラカニスル事
一 往復書類又ハ各會議議事錄ヲ謄寫スル事
一 印刷物類ヲ擔任スル事
一 前第八十八條ニ記載スル簿冊ヲ設クル事
一 書類ヲ整頓保存スル事
一 當銀行ヨリ他ニ係ル訴訟事件ヲ取扱フ事
一 其他各局課ヘ專屬セサル事ヲ取扱フ事

第百十條 諸方ヨリ到來スル書信類ハ庶務課長之ヲ開封シ直ニ之ヲ件銘簿ニ登記シタル上各主任ノ局課ヘ送達セシムヘシ但祕密信ニ係ルモノハ其儘總裁又ハ文書局長ヘ差出スヘシ

第百十一條 庶務課ニ於テハ日用事務ニ係ル諸般ノ書類ヲ檢シ若シ其主任ノ局長又ハ役員ノ檢印ナキ者ハ之ニ總裁ノ捺印ヲ受ク可カラス

第百十二條 重役集會監事集會銀行總會又ハ株主總會ニ於テ諸局課ニ關スル事件ヲ決議シタルトキハ庶務掛ニテ其議事錄ノ寫二通ヲ作リ主務ノ局長ニ送達シ局長ハ其一通ヲ控ヘ他ノ一通ニ檢印シテ本課ヘ還付スヘシ

第百十三條 往復書翰電報通知書每半期實際報告竝ニ株主總會、重役集會、銀行總會、監事集會ノ議事錄等ハ各別ニ簿冊ヲ設ケテ之ニ登記スヘシ

第百十四條 支店課

支店課ハ本店ヨリ支店出張所及ヒ約定店ヘ係ル通信報告其他諸般ノ事務ヲ取扱フモノトス

第百十五條 本支店又ハ約定店ニ於テ振替預リ及ヒ送金爲替ヲ爲シタル時ハ支店課ヨリ其旨ヲ振込先キヘ通知スヘシ

第百十六條 用度課

用度課ノ事務ハ左ノ如シ

一 每半季經費豫算表ヲ作ルコト
一 每半季ノ末日ニ於テ經費決算報告ヲ作ルコト
一 當銀行定額內ニ係ル費用ヲ支辨スルコト
一 役員ノ給料ヲ支辨スルコト
一 諸局日用ノ物品ヲ供給スルコト
一 家屋竝ニ家具等ヲ新調又ハ修繕スルコト

第二節 金庫局

第百十七條 金庫局ヲ分ツテ四課トス

第一 出納課
第二 預金課
第三 爲替課
第四 取立課

第百十八條 局長及ヒ出納課

金庫局長ハ金庫局ヲ總轄シ金貨地金銀紙幣請取手形等凡テ當銀行ノ所有金ヲ監護スル事ヲ掌ル

第百十九條　金庫局長ハ毎月一回ツヽ主管ノ諸金庫ヲ檢査シ之カ報告書ヲ作リテ總裁ニ差出スヘシ

第百二十條　金庫局長其他ノ出納方ハ重役集會ニテ議定スル所ニ從ツテ各相當ノ身元保證金ヲ銀行ニ納ムヘシ尤モ此等ノ役員ヘハ前第九十一條ニ記載スル月給ノ外ニ相當ノ手當金ヲ附與スルモノトス

第百二十一條　出納課長ハ其職務上自身ニ爲シタル過失誤謬ハ勿論其屬員ノ爲シタル者ト雖一切其責ニ任スルモノトス但此場合ニ於テハ重役集會ニ於テ事情ニ從ヒ之カ輕重ヲ議定スヘシ若シ其過失誤謬ヲ知リテ故ラニ之ヲ隱匿シタル者ハ其責ヲ輕減スヘキノ情ナキ者トス」

第百二十二條　出納方疾病事故アリテ出席セサルトキハ其代役ヲ命セラレタル者ハ當銀行ニ對シテ職務上ノ責任ヲ負フコト出納方ト同一タルヘシ而シテ其代役ヘハ其代勤日數ニ應シテ出納方ノ請取ルヘキ手當金ヲ附與ス

第百二十三條　出納課

出納課ヲ更ラニ分ツテ仕拂收納ノ二係トナス其事務ハ左ノ如シ

一　送金爲替ノ入金ヲ受取リ又ハ之カ支拂ヲ爲ス事

一　預金勘定ノ預込ヲ受ケ又ハ之カ引出金ヲ拂出ス事

一　得意先ヨリ振込ミタル當座小切手其他當銀行ニテ仕拂フヘキ諸手形ヲ仕拂フ事

一　地金銀其他公債證書抵當ノ貸金ヲ拂出シ又ハ之カ返金ヲ受取ル事

一　地金銀賣買ヲ取扱フ事

一　支店又ハ約定店等ヘ營業貸金ヲ送達スル事

一　支店約定店ヨリ送達シタル資金ヲ查收スル事

一　右ノ外一般金銀ノ仕拂收納ニ關スル事務ヲ取扱フ事

第百二十四條　出納課ニテ貸付割引其他一般ノ入金仕拂又ハ送金ヲ爲ストキハ本內規第五十九條第六十條ニ記載スル相當ノ調印アルヤ否ヤヲ檢查スヘシ若シ之レ無キトキハ一切之カ仕拂又ハ送金ヲ爲スヘカラス

又他ヨリ當銀行ヘ振込ミタル手形小切手其他證書等ノ仕拂ヲ爲ストキハ豫テ其關係主務役員ノ檢印ヲ認メタル上ニ非サレハ一切之カ支拂ヲ爲ス可カラス

第百二十五條　出納課長ハ其日ニ收入支拂ヲ爲シタル所ノ現金受拂帳ヲ終結シ翌日開店ノ時前日中ノ營業ヲ明細表ニ製シ之ニ證據書類ヲ添ヘテ現金受拂帳ト共ニ計算局長ニ差出スヘシ」

計算局長ハ右明細表及ヒ受拂帳ヲ檢查シ不都合ナケレハ受拂帳ニ檢印ヲ爲シ出納課ヘ還付スヘシ

第百二十六條　金庫局長ハ日用金庫ノ金銀銅貨及ヒ紙幣等ヲ監護シ特別ノ簿冊ヲ設ケテ之カ出納ヲ日々ニ記入スルモノトス

第百二十七條　凡ソ金銀出納ノ爲メ金庫ヲ開閉スヘキトキハ重役集會ニテ之ヲ決定シ總裁(又ハ副總裁理事一名及ヒ金庫局長ノ面前ニ於テ之カ出納ヲ爲サシメ理事ハ其調書ヲ作リ總裁

（又ハ副總裁及ヒ金庫局長ト共ニ之ニ認印ヲ爲シ本書ハ文書局ニ藏メ其謄本一通ヲ金庫局長ニ渡ス可シ

第百二十八條　預金課

預金課ハ當座定期其他各種ノ預金ニ係ル事務ヲ取扱フモノトス

第百二十九條　得意先ヨリ預金ヲ爲サントスル時之カ入金票ヲ附與シ預金ノ種類員數其他ノ要件ヲ詳記捺印シ出納課ヲシテ金員ヲ査收セシメタル後ニ非サレハ本證書若クハ通帳及ヒ小切手帳ヲ交付セサル者トス

第百三十條　諸預金ノ拂戻ヲ請フ者アルトキハ必ス預金元帳ヲ點檢シ其差引殘高アルニ非ラサレハ決シテ之ニ認印ヲ爲ス可カラス但シ當座貸越ノ約定アル者ハ此限ニアラス

第百三十一條　爲替課

爲替課ハ受取仕拂トモ總テ送金爲替ニ係ル事務ヲ取扱フモノトス

第百三十二條　爲替課長ハ其日ニ仕出シタル送金手形ノ表ヲ作リ之ニ檢印ヲ爲シ金庫局長ヲ經由シテ文書局支店課ヘ廻付スヘシ

第百三十三條　送金手形ノ仕拂ヲ乞フ者アルトキハ必ス該記入帳ニ就キ振出元店ヨリ通知ノ有無ヲ檢シ其通知ナキ者ハ決シテ之ニ認印ヲ爲ス可カラス

第百三十四條　取立課ノ事務ハ左ノ如シ

一　割引局又ハ得意先ヨリ金額取立ノ爲メニ送致シタル手形ヲ査收スル事

一　取立人ヲ諸方ヘ派遣シテ手形金ヲ取立テシムルコト

一　得意先ヨリ送リタル代金取立手形ノ他府縣ニ係ルモノハ之ヲ文書局ニ送致スル事

一　手形ノ渡リ不渡リヲ檢査シ且ツ取立人ノ手控帳ト照合スルコト

一　毎日取立タル金額ヲ出納課ヘ送致スルコト

一　本店割引ノ手形若シ不渡リトナリタルトキハ其手形ノ讓渡人ヘ之カ償還ヲ請求スルコト

一　支店約定店ニ係ル不渡手形ハ文書局ヘ返付シ得意先ノ手形ハ本人ヘ返付スルコト

一　不渡手形ヲ詳細ニ簿册ニ登記スルコト

一　公債證書利子ノ受取方ヲ爲スコト

第百三十五條　割引局ヨリ金額取立ノ爲メニ手形ヲ送付シタル時ハ取立課長之ヲ査收シ金庫局長ニ差出シテ手形ノ裏面ニ請取リヲ爲サシムヘシ

第百三十六條　金庫局長其請取リヲ記シ畢リタルトキハ其手形ヲ取立人ニ渡シテ之カ金額ヲ取立テシムヘシ但シ右取立人ヨリ之カ請取證ヲ取リ置クモノトス

第百三十七條　取立人ハ毎夕其日ニ取立タル金額及ヒ不渡トナリタル手形ヲ當課ヘ持參スヘシ

第百三十八條　取立課長ハ毎夕其日ニ取扱ヒタル帳簿ヲ締メ其取立テタル金額ハ假リニ當課ノ金庫ニ納メ翌朝明細書類ヲ添ヘ之ヲ出納課ヘ廻送スルモノトス

第百三十九條　本內規第百十八條ニ記載スル調査ノ外ニ毎年二回ヨリ少カラス總裁副總裁及ヒ金庫局長ノ立會ニテ總金庫ノ檢査ヲ爲シ之カ調書ヲ作リ其謄本一通ヲ金庫局長ニ附與スヘシ

第三節 割引局

第百四十條 割引局ハ分ツテ三課トス

第一 割引課

第二 券書課

第三 貸付課

第百四十一條 割引課ノ事務ハ左ノ如シ

一 本店ニ持參シタル割引手形ヲ受取リ之カ金額利子印紙等ヲ檢査スル事

一 割引依賴人ノ手形現有高帳ヲ設ケ之ニ就テ其割引表ニ付箋ヲ爲ス事

一 割引手形ノ內ニ曾テ不渡トナリ又ハ拒却セラレタル名印アルトキハ之ヲ付箋ニ記スル事

一 割引手形ニ割引表ヲ添ヘテ割引委員ヘ差出スコト

一 割引手形ノ利子ヲ差引キ正味仕拂高ヲ出金票又ハ振替票ニ記シテ出納課又ハ預金課ニ送ル事

一 拒却手形ヲ依賴人ヘ還付シ且ツ之ヲ帳簿上ニ詳記スル事

一 割引總高及ヒ仕拂高竝ニ利子手數料等ノ總高ヲ記シタル表ヲ作ル事

一 每半季ニ割引統計表ヲ作ル事

一 不渡リ手形ノ統計表ヲ作ル事

第百四十二條 凡ソ割引手形ハ其割引表ニ總裁又ハ理事ノ檢印ヲ爲シタル者ニ非サレハ之カ

割引ヲ爲スヘカラス若シ誤ツテ右檢印ナキ者ヲ割引シタルトキハ割引局長其責ニ任スルモノトス

第百四十三條 割引課ニテ手形ノ割引ヲ許シ之カ照査ヲ遂ケタル上ハ之ヲ同課ニ格護シテ翌朝右手形ノ總表ヲ添ヘテ券書課ヘ廻送スヘシ

第百四十四條 券書課ノ事務ハ左ノ如シ

一 府內手形ハ每區ニ種類ヲ分チ府外手形ハ支店又ハ約定店ニ由リテ種類ヲ分ツ事

一 割引手形ノ期日帳ヲ作ル事

一 每日割引課ヨリ受取リタル手形ヲ每區若シクハ支店約定店ニ由リテ種類ヲ分チ且ツ各手形ノ期限ヲ區別シテ日表ヲ作ル事

一 各手形ヲ期限分ニシテ之ヲ庫中ニ格護スル事

一 諸手形枚數及ヒ金額ヲ照査スル事

一 每日手形ノ出入ヲ帳簿ニ登記シ且ツ之カ日表ヲ作ル事

一 金額取立ノ爲メニ手形ヲ金庫局ヘ廻付スル事

第百四十五條 券書課長ハ每日割引課ヨリ受取リタル手形ヲ集メ其期限ニ由リ順序ヲ立テ且ツ各區又ハ支店約定店ニ由リ種類ヲ分チ各之ヲ簿冊ニ記入シタル上之ヲ庫中ニ格護セシムヘシ尤右各種ノ手形ハ各〻簿冊ヲ分チ庫中ノ部分ヲ別ニシ決シテ之ヲ混亂スヘカラス

第百四十六條 貸付課ノ事務ハ左ノ如シ

一 公債證書政府ノ手形又ハ政府ノ保證ニ係ル證券ニ對シ貸付ヲ爲ス事

一 貸付金證書ヲ受取リ之カ金額利子印紙等ヲ檢査スル事
一 貸付金證書ノ期日帳ヲ作ル事
一 各貸付金證書ヲ期限分ニシテ之ヲ庫中ニ格護スル事

第百四十七條 割引局長ハ毎日手形出入表ヲ作ラシメ總裁及ヒ計算局ヘ差出スヘシ

第百四十八條 割引局長ハ金額取立ノ爲メ各手形ノ期日ニ注意シ重役集會ニテ定メタル日限ニ於テ府內手形ハ文書局ヘ廻付スヘシ尤モ府內手形ハ金庫局長又ハ約定店ノ役員(即チ定款第五十八條第四項ニ記載スルモノ)常銀行ノ之カ裏面ニ受取リヲ爲シ府外手形ハ支店又ハ約定店ノ役員名義ヲ以テ之カ受取リヲ記スルモノトス

第百四十九條 每年二回ヨリ少カラス重役集會ニテ理事一名ヲ指命シテ割引局長ノ立會ヲ以テ手形倉庫ノ總檢查ヲ爲サシムヘシ而シテ此檢查ヲ爲シタル理事ハ之カ調書ヲ作リテ重役集會ニ報告スヘシ

第四節 計算局

第百五十條 計算局ニテ使用スル帳簿ノ員數及ヒ體式等ハ重役集會ニテ審議決定スルモノトス如何ナル場合ニ於テモ更ニ該集會ノ決議ヲ經ルニ非サレハ之ヲ增減變改スルコトヲ得ス

第百五十一條 計算局長ハ每週本支店及ヒ約定店ノ勘定ヲ示シタル營業表ヲ作リ總裁ニ差出シ總裁ハ之ヲ重役集會ニ示スヘシ

第百五十二條 計算局長ハ定款第四十條ニ依リ本支店及ヒ約定店等ノ營業上百般ノ景況報告ヲ作リ每月一回ヨリ少カラス之ヲ總裁ニ差出シ總裁ハ之ヲ大藏卿ヘ報告スルモノトス

第百五十三條 每年六月三十日十二月三十一日ニ於テ諸勘定ヲ終結シ半季實際報告ヲ作リ十五日以內ニ總裁ニ差出スヘシ總裁ハ之ヲ重役集會ニ付シテ之ヲ審議決定セシムルモノトス

第五節 株式局

第百五十四條 株式局ハ分ツテ二課トス

第一 株式課
第二 公債課

第百五十五條 株式課ノ事務ハ左ノ如シ

一 株式ノ記入竝ニ賣買讓與ノ手續ヲ爲ス事
一 半季割賦金受領證ヲ各株主ニ渡ス事
一 右受領書仕拂濟ノ上之ヲ照查スル事
一 株主總會ニ出席スヘキ株主帖ヲ作ル事

第百五十六條 公債課ノ事務ハ左ノ如シ

一 金銀貨地金銀又ハ公債證書等ノ保護預リヲ爲ス事
一 公債證書又ハ政府手形等ノ買入ヲ爲ス事
一 當銀行所有ノ公債證書及保護預リ又ハ抵當ニ取リタル物品證券等ヲ保存スル事
一 公債證書ノ利子ヲ受取ル爲メ利札ヲ金庫局ヘ回付スル事

第百五十七條 每年二回ヨリ少カラス重役集會ニテ理事一名ヲ指命シテ株式局長ノ立會ヲ以テ保護預竝ニ抵當公債證書及ヒ其他ノ物品ノ檢查ヲ爲サシムヘシ而シテ此檢查ヲ爲シタル

理事ハ之カ調書ヲ作リテ重役集會ニ報告スヘシ

爾來假內規ノ施行方ニ付キ著手スル所アリシカ右假內規第八十九條、第九十五條及第九十六條ノ條項中實施方ニ差支ノ廉アルヲ認メ總會ノ議決ヲ經テ同月十三日副總裁富田鐵之助ヨリ大藏卿ニ對シ左ノ如ク增補改正センコトヲ上申シ聞屆ケラレタリ

日本銀行假內規中

第八十九條中局長ト書記ノ間左ノ如シ

一　支店長（大阪支店長ハ理事ヨリ兼勤シ月給ノ五割ヲ增給ス其他ニ支店ヲ設置スルトキハ其支店長ノ月給ハ銀行總會ニ於テ適宜ニ定ムル者トス）

一　支配役　月給ヲ五等ニ分ツ

一等金六拾圓　二等金五拾五圓　三等金五拾圓　四等金四拾五圓　五等金四拾圓

右支配役賞與金ノ割合ハ定款第三十六條第四項ニ定メタル賞與金ノ內ヨリ凡ソ十分ノ三ヨリ多カラサル金額ヲ引去リ通常及ヒ臨時ノ賞與ニ充ツヘシ

但其割合等ハ重役集會ニ於テ定ムルモノトス

一　局長補　支配役ヨリ勤務スルモノトス

一　課長　支配役ヨリ勤務スルモノトス

一　課長心得　書記ヨリ勤務スルモノトス

第九十五條中左ノ通

重役席ヘ正副支店長ヲ加フ

支配席ヘ支配役ヲ加フ

第九十六條　局長補ヲ支配役ト改ム

假內規ハ施行後或ハ追加セラレ或ハ改正セラレタルノニ就テ其概要ヲ示サントス

明治十六年四月日本銀行ニ國庫金事務取扱方ヲ命セラレテ國庫局ヲ設ケ各局ノ首位ニ置ク十一月銀行紙幣支消部ヲ新置シ又文書局庶務課中ニ往復課ヲ設ケ同年十二月假內規第百三條ヲ改正シ局ヲ分テ數課トシ課務煩劇ナル者ハ又分テ數係トシ局長ハ局員ヲ指揮シ局務ヲ總轄ス局長補ハ局長ニ亞テ平常ハ局內ノ事務ヲ辨理シ局長臨時不在ノ時ハ其代理ヲ爲ス又課長係長ハ各課係ノ事務ヲ分轄スル旨ヲ規定セリ

明治十九年三月二十日各局課事務分任ヲ改正シ銀券課ヲ廢シテ銀券發行部ヲ置キ事務假規定順序ヲ定メ次ニ示ス第二圖ノ如ク處務ノ整理ヲ計畫シ簿記計算ノ組織モ亦第三圖ノ如ク分畫シ行務ヲ簡捷ナラシメタリ

第一圖

日本銀行事務分業表

（在來ノ局課）

庶務課
文書局　支店課
用度課

國庫部　國庫局　第一課　第二課　第三課　第四課　第五課

支消部　支消部

- 總理部
  - 計算局
    - 製造課
    - 兌換銀行券發行部同上
      - 發行課
      - 準備課
    - 精算課
  - 金庫局
    - 出納課
  - 營業部
    - 金庫局
      - 預金課
      - 爲替課
      - 取立課
    - 割引局
      - 割引課
      - 貸付課
      - 書券課
    - 株式局
      - 株式課
      - 公債課

（右ハ局課事務ノ分業ヲ示スモノナレハ局課位置ノ上下ハ固ヨリ其當ヲ得サルモノナリ）

第二圖

日本銀行事務分業表

- 國庫部
  - 國稅金取扱事務
  - 公債事務
  - 成貨拂渡事務
  - 正貨交換事務
  - 銀貨買入事務
  - 紙幣交換事務
  - 預金局預金事務
  - 銀行紙幣銷却事務
  - 國庫金取扱代理店事務

- 總理部
  - 一般文書取扱事務
  - 一般計算事務
    - 一般金銀出納事務
    - 一般經費支拂事務
  - 兌換銀行券發行部
    - 兌換券製造事務
    - 同發行事務
  - 營業部
    - 株金事務
    - 預金事務
    - 爲替事務
    - 手形割引及取立事務
    - 貸付金事務
    - 公債證書賣買事務
    - 地金銀賣買事務
  - 國庫金勘定部
    - 增補日記帳
    - 各種元帳
    - 各種記入帳
    - 各種內譯勘定帳
    - 各種有高帳
    - 收納帳
    - 仕拂帳
    - 國庫局實際報告表

第三圖

日本銀行計算事務分業表（左ニ記スル各部ハ更ニ部ヲ置クニアラス事務ノ分界ニ依テ名稱ヲ設クルノミ）

- 總勘定部
  - 總勘定元帳
  - 日記帳
  - 金庫出納帳
  - 經費勘定帳
  - 實際報告表
- 兌換銀行券發行勘定部
  - 各種元帳
  - 各種記入帳
  - 各種內譯勘定帳
  - 各種有高帳
  - 收納帳
  - 仕拂帳
  - 兌換銀行券發行部報告表
- 營業勘定部
  - 增補日記帳
  - 各種元帳
  - 各種記入帳
  - 各種內譯勘定帳
  - 各種有高帳
  - 收納帳
  - 仕拂帳
  - 各種計算表

明治十九年六月定款第三十六條役員賞與ニ關スル件ヲ改正セルヲ以テ同月十八日大藏大臣ハ日本銀行交際費役員俸給賞與金割合ヲ改定シテ之ヲ達セリ次テ明治二十年四月國庫局ヲ文書局ノ次位ニ列セシメ明治二十一年三月文書局中ニ臨時用度課ヲ置キ本店新築ニ關スル事務ヲ取扱ハシム同年八月從來ノ銀行券部ヲ廢シ更ニ銀券局ヲ設ケ兌換銀行券ニ關スル事務ヲ司掌セシム越ヘテ明治二十三年一月二十日本行ノ組織ヲ改革シ從來ノ七局一部二十一課三係ヲ廢シテ更ニ

金庫、銀券、國庫、營業、文書、株式、計算ノ七局ヲ置キ同時ニ支配役以下ノ職名ヲ廢シテ代ユルニ筆頭書記、書記手代ノ職員ヲ以テシ尚ホ合セテ行員ノ俸給組織及權限ヲ定メタリ卽チ左ノ如シ

- 總裁
  - 理事
    - 秘書役 一 總裁ニ直隷シ秘書類ノ取扱ヲ掌ル
    - 金庫監査役 一 行內職員ノコトヲ掌ル
    - 取調役 一 總裁ノ命ニ依リ金庫ノ鎖鑰ヲ保管シ及開閉ニ臨檢スルコトヲ掌ル
  - 監事 一 總裁ニ直隷シ其特命ニ依テ諸般ノ取調及檄文ノ飜譯及統計ノ事ヲ掌ル
- 金庫局
  - 支出及地金銀公債證書等保管ヲ掌ル
  - 全般ノ現金收入・支出及地金銀公債證書等保管ノ事
  - 舊出納課 一 一般ノ現金出納ノ事
  - 舊製造課 一 銀券製造及發行ノ事
  - 舊發行課 一 銀券發行ニ對スル準備及損券引換ノ事
  - 舊準備課 一 政府紙幣消還事務ノ事
  - 舊交換課內 一 銀行紙幣銷却方ニ關スル事務ノ事
  - 舊銀行紙幣支消ノ部 一
- 銀券局
  - 銀券ニ關スル全般ノ事務ヲ掌ル
- 國庫局
  - 中央金庫全般ノ事務ヲ掌ル
  - 第一課
    - 舊調整課 一 日記原簿ヲ掌ル
    - 一 中央及各地本金庫ノ事務ヲ統轄整理スル事
  - 第二課
    - 舊地方課 一 中央及各地本金庫決算報告ノ事
    - 一 中央金庫直扱ノ收支金ヲ取扱フ事
    - 一 中央金庫ニ關スル證票及記帳整理スル事

- 第一課 舊割引課
  - 舊割引事務ノ事
- 第二課 舊貸付課
  - 貸付事務ノ事
- 營業局 營業ニ關スル全般ノ事務ヲ掌ル
  - 舊爲替課
    - 內外各地爲替ノ事
  - 舊預金課
    - 定期當座等諸預金ノ事
  - 舊交換課內 舊取立課
    - 地金銀公債證書賣買ノ事
    - 預金局預金取扱及造幣成貨拂渡ノ事
- 第三課 舊債務課
  - 諸手形取立ノ事
  - 諸公債消還及發行ノ事
  - 元利金支拂事務ノ事
  - 諸公債記名及書換事務ノ事
- 文書局 各局ニ專屬セサル事務ヲ掌ル
  - 舊庶務課
    - 一般文書ノ取扱及發遣受付ノ事
  - 舊支店課
    - 諸約定書等取扱ノ事
    - 訴訟事件ヲ始メ臨時ノ事ニシテ各課ニ專屬セサル事
- 附屬用度課 舊用度課 臨時用度課
  - 一般經費ノ仕拂ノ事
  - 諸建築營繕ノ事
  - 金銀其他諸物品現送取扱ノ事
- 株式局 本行株式ニ關スル事務及諸保管事務ヲ掌ル
  - 舊株式課
    - 株式賣買讓與及配當金事務ノ事
  - 舊公債課
    - 本行所有公債賣買ノ取扱ヲ爲ス事
  - 舊券書課
    - 諸保護預リノ取扱ヲ爲ス事
- 計算局 全般計算ノ整理及統計ノ事務ヲ掌ル
  - 舊精算課
    - 日記及總勘定元帳ヲ整理スル事
  - 舊統計課
    - 各局課ノ計算諸帳簿ヲ監査スル事
    - 製表報告調定ノ事

- 支店長
  - 筆頭書記
    - 金庫係
      - 舊出納係
        - 一 支店全般現金出納ノ事
    - 國庫係
      - 舊收支係
        - 一 大阪本支金庫ノ事務取扱ノ事
    - 營業係
      - 舊割引係
        - 一 割引貸付ノ事
      - 舊貸付係
        - 一 預金竝爲替事務ノ事
      - 舊券書係
        - 一 造幣成貨拂渡ノ事
      - 舊預金係
        - 一 諸手形取立ノ事
      - 舊交換係
    - 公債係
      - 舊公債係
        - 一 諸保護預リノ事
      - 舊債務係
        - 一 諸公債元利拂及記名書換ノ事
    - 文書係
      - 舊庶務係
        - 一 支店全般ノ文書取扱ノ事
      - 舊他店係
        - 一 支店諸經費支拂及營繕ノ事
      - 舊用度係
        - 一 銀券交換元ノ取扱ヲナス事
      - 舊銀券係
    - 計算係
      - 舊計算係
        - 一 支店全般ノ計算ヲ掌ル事

組織

總裁 副總裁 理事 監事 局長 理事ヲ以テ之レニ充ツ

從前ノ各課ヲ廢シテ前記六係ヲ置ク

支店長　筆頭書記　係長　書記ヲ以テ之レニ充ツ
書記　手代見習

一　本店ニ金庫、銀券、國庫、營業、文書、株式、計算ノ七局ヲ置キ支店ニ金庫、營業、國庫、公債、文書、計算ノ六係ヲ置ク

一　前項ノ外本店ニ祕書役及金庫監査役取調役ヲ置ク

權限

一　總裁副總裁理事監事ノ權限ハ定款ノ定ムル所ニ據ル

一　局長ハ總裁ノ命ヲ奉シ局務ヲ綜理ス

一　局長ハ局務上總裁ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

一　支店長ハ總裁ノ命ヲ奉シ其支店ノ全般ノ事務ヲ總理ス

一　支店長ハ支店事務上總裁ニ對シ一切ノ責任ヲ有ス

一　筆頭書記ハ局長ノ指圖ヲ受ケテ親シク事務ヲ擔當シ其書記手代等ヲ指揮督勵シテ事務ヲ敏捷ニ整理セシムルヲ要ス

一　支店筆頭書記ハ必ス文書係長ヲ兼務シ支店長事故アルトキハ其代理ヲナス

一　係長ノ權限ハ筆頭書記ニ準ス

一　書記以下ハ筆頭書記又ハ係長ニ分屬シ諸般ノ事務ニ從事ス

一　祕書役及金庫監査役取調役ハ總裁ニ直隷シテ其職務ニ從事ス但各局課ノ事務ニ關シテ直接ニ其局課ニ向テ意見ヲ陳フヘカラス

一　事務上行外ニ對スル往復文書ハ總テ總裁ノ名ヲ以テシ局課名又ハ局長筆頭書記ノ名ヲ用ユルヲ許サス

一　支店事務上行外ニ對スル往復文書ハ凡テ支店長ノ名ヲ以テシ筆頭書記又ハ係名若シクハ係長ノ名ヲ用ユルヲ許サス

明治二十六年九月、日本銀行ハ組織ヲ改定シ計算局ヲ廢シテ文書局ニ屬シ從來ノ筆頭書記ヲ廢シテ支配役副支配役ヲ置キ又理事ヲシテ局長支店長ヲ兼ネシムルノ制ヲ廢シ之ヲ支配役ニ命スルコトヽセリ其大要左表ノ如シ

本店

金庫局
銀券局　發行局ト改稱（三十年十月一日）
國庫局
營業局（第一課、第二課）
文書局（第一課、第二課）
祕書役、取調役、金庫監査役ヲ置ク

支店

適宜課ヲ置ク

出張所（二十六年十二月十五日）
金庫係
國庫係
營業係
文書係
職名
總裁
副總裁
理事
監事
支配役
副支配役
書記
手代
外ニ傭及見習

各局ニ局長ヲ置キ支配役ヲ以テ之ニ充ツ各支店ニ支店長ヲ置キ支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ各出張所ニ出張所長ヲ置キ副支配役又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ局中ノ各課ニ課長ヲ置キ副支配役又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ支店ノ分課ニ課長ヲ置キ書記ヲ以テ之

ニ充ツ

秘書役、取調役、金庫監査役ヲ置キ支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

明治二十九年四月、日本銀行新築工事竣功シタルヲ以テ同月十日、日本橋區本兩替町十番地ヘ移轉セリ明治三十年四月新ニ計算局ヲ置キ株式局ノ次ニ列シ從來文書局第二課中ニ屬セル計算ニ關スル事務ヲ掌ラシメ十月銀券局ヲ發行局ト改稱セリ次テ明治三十一年二月新ニ檢査局ヲ置キ本支店出張所及派出所竝ニ代理店ニ於ケル事務ノ檢査ヲ取扱ハシムルコトヽシ從來文書局第二課ニ於テ取扱ヒタル統計及調査ノ事務ヲ檢査局ニ移セリ

明治三十二年一月從來日本銀行假內規ヲ廢シ日本銀行內規ヲ定メ職制組織業務執行等ニ關スル詳細ノ規定ヲ爲セリ其全文左ノ如シ

日本銀行內規

第一章　株式

第一條　株券ハ記名式トナシ金額、番號及ヒ發行ノ日附ヲ記載シ總裁、文書局長及ヒ株式局長署名捺印シ行印ヲ押捺シ且之ト其原符トニ割印ヲ押捺ス可キモノトス

第二條　新ニ株主トナリタル者ヨリハ一定ノ樣式ニ依リ印鑑ヲ差出サシム可キモノトス但必要ト認ムル場合ニハ印鑑ニ其筋ノ證明ヲ附セシム可キモノトス

第三條　株券ノ賣買又ハ讓與ニ因リ記名書替ヲ請求スル買受人又ハ讓受人ヨリハ第十九條ニ定メタル株券書替料ヲ徵收ス可キモノトス但家督相續、遺產相續又ハ氏名若クハ商號ノ變更ニ因リ記名書替ヲ請求スル場合ニハ本文ヲ適用ス可ラス

第四條　家督相續、遺產相續又ハ遺言ニ因リ株券ヲ讓受ケタル者カ其記名書替ヲ請求スルトキハ民法ノ規定ニ基キ必要ナル證明書ニ株券ヲ添ヘテ差出サシムルモノトス（明治三十五年八月二十二日改正）

第五條　株主ノ爲メニ親權ヲ行フ者アルトキ若クハ後見人ヨリ證明書及ヒ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ届出シ後見人カ株券ヲ賣買又ハ讓與ノ爲メ其書替ヲ請求スルトキハ親權者又ハ後見人ノ開始アリタルトキハ親權者又ハ後ヘキ書面ヲ以テスルニ非サレハ其手續ヲ爲サシムルモノトス又親權ヲ行フ母ニ付キテハ本項ヲ準用ス

親權、後見ノ終了シタルトキハ本人ヨリ親權者又ハ後見人ト連署ヲ以テ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ届出シムルモノトス

後見人更迭アリタルトキハ證明書ヲ添ヘ新後見人ノ連署ヲ以テ届出シムルモノトス但新後見人ニ對シテハ其印鑑ヲ差出サシムルモノトス

第六條　株主カ氏名又ハ商號ヲ改メタルニ因リ株券ノ記名書替ヲ請求スルトキハ其筋ノ證明書ニ印鑑及ヒ株券ヲ添ヘテ差出サシムルモノトス

本條ノ規定ハ保佐人又ハ其他ノ法定代理人ニモ亦適用スルコトヲ得ヘキモノトス（同上）

第七條　株券ヲ喪失シタルニ依リ代株券ヲ請求スル者アルトキハ保證人二名以上ノ連署セル書面ヲ以テ其旨ヲ申出テシメ本行ハ其事實ヲ認メタル上請求人ノ費用ヲ以テ之ヲ官報及ヒ新聞紙ニ廣告シ二箇月ヲ經タル後尚ホ發見セサルトキハ領收證書ト引換ニ代株券ヲ交付スルモノトス

代株券ニ記載スヘキ番號及ヒ金額ハ舊株券ニ依リ、署名スヘキ總裁、文書局長及ヒ株式局長竝ニ記載スヘキ日附ハ其發行ノ當日ニ依ルヘキモノトス

第一項ノ期間內ニ株券ヲ發見シタルトキハ請求人ヲシテ其旨ヲ直ニ本行ニ届出テシメ且第一項ノ例ニ依リテ喪失取消ノ廣告ヲ爲スヘキモノトス

第八條　株券喪失ノ届出ニ對シ故障ノ申立ヲ爲ス者アルトキ若クハ賣買又ハ讓與ニ付キ紛議アルトキハ管轄裁判所ノ判決確定後ニ非サレハ代株券ヲ交付シ又ハ記名書替ヲ爲スヘキモノトス

第九條　毀損汚染等ノ爲メ又ハ株券裏面ニ餘白ナキ爲メニ代株券ノ請求ヲ受ケタルトキハ其株券ニ請求書ヲ添ヘテ差出サシメ第七條第二項ニ據リテ代株券ヲ交付スヘキモノトス但毀損汚染等ノ爲メニ代株券ヲ請求スル者ヨリハ第十九條ニ定メタル株券交換料ヲ徵收スヘキモノトス

第十條　株券ノ種類變更ヲ請求スル者アルトキハ其請求書ニ株券ヲ添ヘテ差出サシメ代株券ヲ交付スヘキモノトス但此場合ニハ舊株券ノ番號ハ廢止シ代株券ニハ其種類ノ結尾ニ追次スル番號ヲ附シ株券交換料ハ第十九條ニ據リテ徵收スヘキモノトス

第十一條　前二條ニ據リ交換シタル株券ニハ廢棄ノ印章ヲ押捺シテ其都度之ヲ文書局ニ送付シ十箇年間保存シタル後檢查局長文書局長及ヒ株式局長立會ノ上之ヲ燒棄スヘキモノトス

第十二條　本行ノ株式ヲ華族世襲財產ト爲スヘキ旨ヲ宮內大臣ヨリ達セラレタルトキハ株主ノ費用ヲ以テ官報及ヒ新聞紙ニ廣告シ一定ノ期間內ニ故障ノ申立ナキトキハ之ヲ宮內大臣

ニ上申シ其命令ニ依リ株主名簿ニ其旨ヲ記載シ置ク可キモノトス

第十三條　株券用紙ハ總裁ノ封印ヲ施シタル上文書局長之ヲ保管シ代株券發行ノトキ株式局長ノ請求ニ應シ之ヲ交付ス可キモノトス

第十四條　毎年二月及ヒ八月ハ其一日ヨリ定式株主總會ノ當日マテ株券ノ記名書替ヲ停止シ其旨ヲ豫メ官報及ヒ新聞紙ニ廣告ス可キモノトス

第十五條　毎半季間ニ取扱ヒタル株券ノ記名書替ヲ上半季分ハ其年七月中ニ下半季分ハ翌年一月中ニ調査シ大藏大臣ニ報告ス可キモノトス

第十六條　毎半季末日現在ノ株主表ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ進達ス可キモノトス

第十七條　割賦金ハ毎半季定式株主總會後ノ第一月曜日ヨリ之ヲ支拂フ可キモノトス

第十八條　各支店及ヒ出張所ニ於テモ株券ノ交換又ハ記名書替ノ取次ヲ爲シ及ヒ割賦金ノ支拂ヲ爲ス可キモノトス

第十九條　株券ノ記名書替料及ヒ交換料ハ左ノ如ク定ム

書替料ハ株券一枚ニ付キ金五錢トス

交換料ハ新ニ交付スル株券一枚ニ付金貳拾錢トス

第二章　業務

第一節　割引

第二十條　手形割引ノ取引ヲ開始セントスル者ハ紹介人ヲ設ケ依頼書ニ印鑑ヲ添ヘテ差出サシメ且印鑑ニハ其筋ノ證明ヲ附セシムルモノトス但依頼者ノ身元判明ナルトキハ紹介人及

ヒ印鑑證明ヲ省クコトヲ得ルモノトス

前項ノ依頼者ニ對シ取引ヲ開始セントスルトキハ本店ニ於テハ營業局長ノ意見ヲ付シ支店又ハ出張所ニ於テハ當該支店長又ハ出張所長ノ意見ヲ付シテ重役集會ニ提出シ其評決ヲ受ク可キモノトス（明治三十五年八月十二日第二項追加）

第二十一條　前條ノ取引開始ヲ承諾シタルトキハ割引依頼表用紙ヲ依頼者ニ交付シ置キ取引ノ都度該表ニ手形ノ要點ヲ摘記シ且署名捺印シテ差出サシム可キモノトス

第二十二條　割引依頼表ニ添ヘテ差出シタル手形ハ翌日割引ノ諾否ヲ決定シテ取引ヲ爲ス可キモノトス

第二十三條　保證品ヲ預リタルトキハ之ニ對シ預證又ハ通帳ヲ交付スルモノトス

前項ノ保證品カ記名式ノ有價證券ナルトキハ賣買及ヒ記名書替ヲ代辨セシメ得ヘキ委任狀ヲ徵收ス可キモノトス但有價證券ノ記名者カ割引依頼者ニ非サル場合ニハ更ニ記名者ノ賣買承諾書ヲ徵收ス可キモノトス

第二十四條　手形ノ割引期間カ五日未滿ナルトキハ取引ス可ラサルモノトス但成貨拂渡證書ノ割引ハ此限ニ非ス

第二十五條　依頼者カ保證品ヲ交換セントスルトキハ請求書ヲ差出サシメ其價格ヲ調査シテ承諾スルコトヲ得ルモノトス

第二十六條　爲替手形仕拂人カ手形引受ノ旨ヲ記載シテ署名捺印ヲ爲シ且引受ノ日附ヲ記載シタルニ非サレハ取引ス可ラサルモノトス但振出人及ヒ仕拂人ノ身元確實ニシテ且引受ヲ

爲ス可キ見込アル手形ハ此限ニ非ス

第二十七條　日附裏書人ノ署名捺印及ヒ被裏書人ノ氏名又ハ商號ヲ具備シタル裏書アル手形ニ非サレハ取引ス可ラサルモノトス

第二十八條　手形ノ賣戻ハ割引依頼者ニ非サレハ承諾ス可ラサルモノトス

保證品附手形ノ賣戻ハ割引期間ノ半ヲ經過シタル後ニ非サレハ承諾ス可ラサルモノトス

第二十九條　手形賣戻ノ裏書ニハ「手形上ノ責任ヲ負ハス」ノ文字ヲ附記ス可キモノトス（明治三十三年十一月十日改正）

第三十條　取立ノ爲メ他店ニ送附スル手形ノ裏書ニハ其目的ヲ附記ス可キモノトス

第三十一條　振出人自ラ仕拂場所ヲ當所ニ定メタル他所振出約束手形ハ當所手形ニ準ス可キモノトス

第三十二條　手形賣戻ノ場合ニハ割引期間未經過ノ日數ニ對シ割引當時ノ日歩ヨリ幾分ヲ減シテ割引料ヲ拂戻ス可キモノトス

第三十三條　成貨拂渡證書ハ商業手形ト見做シテ割引スルモノトス

第三十四條　外國手形ノ割引ハ別ニ定ムル手續ニ據リテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第二節　定期貸

第三十五條　定期貸ノ取引ヲ開始セントスル者ハ第二十條ニ據リテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第三十六條　前條ノ取引開始ヲ承諾シタルトキハ保證人ヲ指定シタル定期貸依頼書ヲ差出サシム可キモノトス但依頼者カ會社又ハ銀行ナルトキハ保證人ヲ省クコトヲ得ルモノトス

第三十七條　定期貸ノ期間ハ十日以上三箇月以内トス但尚ホ三箇月以内ノ範圍ニ於テ延期證書ヲ徴收シ一回ヲ限リテ延期ヲ承諾スルコトヲ得ルモノトス

第三十八條　借用證書ノ用紙ハ之ヲ交付シ借用者ヲシテ記名捺印シ金額相當ノ印紙ヲ貼用セシム可キモノトス

第三十九條　抵當品ノ取扱手續ハ第二十三條及ヒ第二十五條ニ準據ス可キモノトス

第四十條　契約期間内ニ於ケル全額返金ノ請求ハ期間ノ半ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ承諾ス可ラサルモノトス

第四十一條　期間内ニ於ケル一部返金ノ請求ハ期間ノ半ヲ經過シタル後ニシテ且一回ヲ限リテ之ヲ承諾シ返金ニ對シテ領收證ヲ交付スルコトヲ得ルモノトス但此場合ニ借用者ヨリ請求アルトキハ返金額ニ對スル抵當品ヲ返付スルコトヲ得可キモノトス

第四十二條　期間内ノ全額又ハ一部ノ返金ニ對スル利息ハ契約ノ歩合ニ據リテ返金當日マテノ日數ニ應シ之ヲ徴收ス可キモノトス

第四十三條　期間經過後ノ返金ニ對スル延滯利息ハ其日數ニ應シ契約ノ歩合ニ幾分ヲ增加シテ之ヲ徴收ス可キモノトス

第三節　預金

第四十四條　當座預金勘定ノ取引ヲ開始セントスル者ハ第二十條ニ據リテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第四十五條　前條ノ取引開始ヲ承諾シタルトキハ通帳及ヒ小切手帳ヲ依頼者ニ交付シ預金引出ノトキハ小切手ヲ使用セシムル可キモノトス但小切手帳用紙ハ文書局長之ヲ封印保管シ營業局長ノ請求ニ應シ之ヲ交付スヘキモノトス（明治三十五年八月二十二日但書改正）

第四十六條　前條ノ依頼者ニ對シ極度額ヲ定メ當座貸ヲ承諾セシトスルトキハ本店ニ於テハ營業局長ノ意見ヲ付シ支店又ハ出張所ニ於テハ當該支店長又ハ出張所長ノ意見ヲ付シテ重役集會ニ提出シ其評決ヲ受ク可キモノトス但當座貸約定ヲ訂結シタルトキハ極度額ニ對スル根抵當品ヲ差入レシムル可キモノトス

第四十七條　根抵當品ノ取扱手續ハ第二十三條及ヒ第二十五條ニ準據ス可キモノトス

第四十八條　當座貸ノ利息ハ毎日ノ殘高ニ對シテ之ヲ徵收ス可キモノトス

第四十九條　利息ハ毎年五月及ヒ十一月ノ兩度ニ決算シ其月ヲ以テ終ル半季間ノ當座勘定出入高ト利息金額トヲ預ケ主ニ通知シ其承諾書ヲ徵收ス可キモノトス

第五十條　定期預金ノ依頼ヲ爲ス者ハ第二十條第一項ニ據リテ之ヲ取扱ヒ其預金ニ對シテ預金證書ヲ交付ス可キモノトス（明治三十五年八月二十二日第二十條第一項ト改正）

定期預金ノ利息ノ割合ハ重役集會ニ於テ決議シ監事集會ノ承認ヲ經テ之ヲ定ム可キモノトス

第五十一條　定期預金ノ期間內引出ハ之ヲ承諾ス可キモノトス但期間ノ半ヲ經過シタル場合ニ限リ契約利息ノ一部ヲ附スルコトヲ得可キモノトス

期間經過後ノ日數ニ對シテハ利息ヲ附ス可ラサルモノトス

第五十二條　振出手形發行ノ依頼ヲ爲ス者ハ第二十條第一項ニ據リテ之ヲ取扱ヒ其拂込金額ニ對シテ手形ヲ交付ス可キモノトス但振出手形ニハ利息ヲ附ス可ラス又手形一枚ノ最低金額ヲ定ムルコトヲ得可キモノトス（明治三十五年八月二十二日第二十條第一項ト改正）

第四節　爲替

第五十三條　爲替約定ノ取引ヲ開始セントスル者ハ第二十條ニ據リテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第五十四條　本店ニ對スル爲替約定ノ依頼ニハ營業局長ノ意見ヲ付シ支店又ハ出張所ニ對スル爲替約定ノ依頼ニハ當該支店長又ハ出張所長ノ意見ヲ付シテ重役集會ニ提出シ其評決ヲ受ク可キモノトス

第五十五條　爲替約定ヲ訂結スルトキハ其取引地當事者及ヒ極度額ヲ大藏大臣ニ具狀シテ其認可ヲ受ク可キモノトス

第五十六條　爲替約定ヲ訂結シタルトキハ極度額ニ對シ根抵當品ヲ差入レシメ手形ノ見本ヲ取換シタル後取引ヲ開始ス可キモノトス

第五十七條　根抵當品ノ取扱手續ハ第二十三條及ヒ第二十五條ニ準據ス可キモノトス

第五十八條　電信又ハ普通ノ爲替ヲ依頼スル者ヨリハ爲替料ヲ徵收スルコトヲ得可キモノトス

第五十九條　電信爲替ニハ豫テ雙方間ニ定メタル電信暗號ヲ用ヒ其取扱ハ嚴ニ祕密ヲ守ル可キモノトス

支拂地ニテハ受取人ノ呈示スル電信送達紙ノ裏面ニ受取ヲ記載セシメタル上之ヲ支拂フ可キモノトス但必要ト認ムル場合ニハ保證人ヲ設ケシムルコトヲ得可キモノトス

第六十條　爲替手形紛失ノ屆出アリタルトキハ直ニ之ヲ仕向先ニ通知シテ其支拂ヲ停止セシム可キモノトス

第六十一條　爲替尻入金ノ爲メ過剩ヲ生シタル金額又ハ爲替尻皆無ノ場合ニ入金シタル金額ニ對シテハ利息ヲ附ス可ラサルモノトス

第六十二條　爲替約定アル他店ニ於テ本行拂ノ手形及ヒ切手類ヲ仕拂ヒタルトキハ其金額ニ對シテ仕拂當日ヨリ利息ヲ附ス可キモノトス

第六十三條　爲替勘定ノ利息ハ入金ヲ先ニシ支拂ヲ後ニシタル毎日ノ殘高ニ對シテ計算ス可キモノトス但第六十一條ノ適用ヲ妨ケス

第六十四條　爲替尻附換ノ依賴ニ應シタル場合ニハ附換當日ヨリ利息ヲ起算ス可キモノトス但場合ニヨリ相當ノ附換料ヲ徵收スルコトヲ得可キモノトス

第六十五條　爲換尻利息ノ決算ハ第四十九條ニ準據ス可キモノトス

第五節　手形取立

第六十六條　平素取引スル得意先ノ依賴アルトキハ本支店出張所又ハ爲替約定店ノ所在地拂ノ手形及ヒ切手類ノ取立ヲ取扱フモノトス但爲替約定店所在地拂ノ取立ニ限リ相當ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得可キモノトス

第六十七條　手形ノ取立ヲ依賴セントスル者ハ手形ニ其目的ヲ附記シタル裏書ヲ爲シ當所拂ハ滿期日ノ二日前マテニ他所拂ハ郵便日數ヲ除キ同シク二日前マテニ依賴書ト共ニ之ヲ差出サシム可キモノトス

第六十八條　前條ノ依賴ヲ受ケタルトキハ預證書ヲ交付シ置キ其金額取立濟ノ上之ト引換ニ非サレハ支拂ヲ爲ス可ラサルモノトス

第六十九條　手形カ不渡トナリタルトキハ支拂拒絕證書ヲ作成セシメ且償還請求ノ通知ヲ爲シタル上支拂拒絕證書ト共ニ之ヲ依賴者ニ還付ス可キモノトス但此場合ニハ相當ノ手數料ヲ徵收ス可キモノトス

第六節　金銀地金及ヒ公債證書ノ賣買

第七十條　金地金ノ賣買價格ハ重役集會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム可キモノトス

金地金賣渡人ヨリハ保證書ヲ徵收ス可キモノトス但場合ニヨリ相當ノ品位證明ヲ附セシムルコトヲ得可キモノトス

第七十一條　金地金賣渡人ノ請求ニ由リテ代價ノ假拂ヲ爲ストキハ重役集會ノ決議ヲ經テ其契約ヲ訂結ス可キモノトス

第七十二條　銀地金ヲ賣買スル場合ニハ重役集會ノ決議ヲ要ス可キモノトス

第七十三條　公債證書ヲ買入ルヽトキハ其賣渡人ヨリ賣渡證書ヲ差出サシム可キモノトス但場合ニヨリ相當ノ保證人ヲ設ケシムルコトヲ得可キモノトス

第七節 保護預

第七十四條 公衆ノ爲メ相當ノ手數料ヲ徵收シテ有價證券諸證書類金銀貨及ヒ貴金屬ノ保護預ヲ爲スモノトス

保護預ハ封緘及ヒ披封ノ二種トス但金銀貨及ヒ貴金屬ハ披封預ト爲スコトヲ承諾ス可ラサルモノトス

第七十五條 保護預ノ依賴ヲ承諾スルトキハ依賴書ニ預ケ主ノ印鑑ヲ添ヘテ差出サシメ審査ノ上預證書ヲ交付ス可キモノトス但場合ニヨリ紹介人ヲ設ケシムルコトヲ得可キモノトス

第七十六條 封緘預ヲ爲ストキハ係員其容品ヲ查閱シタル上封緘ヲ爲サシム可キモノトス但本行ノ不利ト認ムル物アルトキハ之ヲ謝絕ス可キモノトス

保護函ハ本行ヨリ貸與スルモノニ限ル可キモノトス

第七十七條 預ケ主カ保護函ヨリ預ケ品ヲ出納スルトキハ係員之ニ立會フ可キモノトス

第七十八條 保護函ノ鍵ヲ喪失シタル預ケ主カ開函ヲ請求スルトキハ保證人二名以上ノ連署セル請求書ニ預證書ヲ添ヘテ差出サシメ本行ハ其事實ヲ認メタル上預ケ主ヲ立會ハシメテ保護函ヲ破毀ス可キモノトス但破毀シタル函ノ原價ハ預ケ主ヲシテ辨償セシム可キモノトス

第七十九條 預證書ヲ喪失シタル預ケ主カ代證書ノ交付又ハ預ケ品ノ返戻ヲ請求スルトキハ保證人二名以上ノ連署セル請求書ヲ差出サシメ本行ハ其事實ヲ認メタル上請求人ノ費用ヲ以テ之ヲ官報及ヒ新聞紙ニ廣告シ二箇月ヲ經タル後尙ホ發見セサルトキハ領收證書引換ニ

代證書又ハ現品ヲ交付スルモノトス

第八十條 相續又ハ遺言ニ因リ預證書ヲ讓受ケタル者カ其記名書換又ハ預ケ品ノ返戻ヲ請求スル場合ニハ第四條ニ準據セシム可キモノトス

預ケ主ノ親權者後見人保佐人又ハ其他ノ法定代理人ニハ第五條ヲ準用ス可キモノトス（明治三十五年八月二十二日「親權者」ノ三字ヲ加フ）

第八十一條 保護預ノ手數料ハ其期間ニ對スル全額ヲ前納セシムルモノトス但預入及ヒ拂戻ノ月ハ總テ一箇月分ヲ徵收ス可キモノトス

期間カ一箇年以上ニ渉ル場合ニハ六箇月分宛手數料ヲ前納セシムルコトヲ得可キモノトス

期間內ニ解約スルモ既收ノ手數料ハ還付ス可ラサルモノトス

第八節 兌換銀行券

第八十二條 兌換銀行券ノ書式及ヒ圖形ハ發行局長之ヲ起案シ重役集會ニ於テ決議シ監事集會ノ承認ヲ經テ大藏大臣ノ指定ヲ請フ可キモノトス

兌換銀行券ニハ總裁、文書局長及ヒ發行局長之ニ捺印ス可キモノトス

第八十三條 兌換銀行券ヲ製造セントスルトキハ重役集會ニ於テ其種類及ヒ枚數ヲ決議シ大藏大臣ノ認可ヲ得テ印刷局ニ之ヲ依賴スルモノトス

第八十四條 製造セル兌換銀行券ヲ印刷局ヨリ受取リタルトキハ其都度種類枚數及ヒ記番號ヲ大藏大臣ニ報告シ各種類毎ニ記番號ヲ追ヒ之ヲ整理保管ス可キモノトス

第八十五條 兌換銀行券發行ニ對スル準備及ヒ保證ノ價格ハ重役集會ニ於テ決議シ監事集會

ノ承認ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス

第八十六條　兌換銀行券ヲ發行シ又ハ還收スルトキハ其金額竝ニ準備及ヒ保證ノ種類ヲ重役集會ニ提出シテ其承認ヲ請フ可キモノトス

第八十七條　支店ニ於テ正貨ヲ兌換銀行券ニ引換ヘ又ハ兌換銀行券ヲ正貨ニ引換ヘタルトキハ卽日電報ヲ以テ之ヲ報告ス可ク本店ニ於テハ之ヲ其日ノ計算ニ組入ル可キモノトス

第八十八條　兌換銀行券引換元及ヒ未發行兌換銀行券ハ本店及ヒ各支店ニ於テ特ニ金櫃ヲ設ケ之ヲ保管ス可キモノトス但支店ヨリハ每日其出入高及ヒ在高ヲ本店ニ報告ス可キモノトス

第八十九條　兌換銀行券ノ制限外發行ヲ爲サントスルトキハ重役集會ニ於テ其極度額ヲ決議シ監事集會ノ承認ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス

制限外發行ヲ爲シタルトキハ每週一回其增減ヲ大藏大臣ニ報告ス可キモノトス

第九十條　汚染毀損等ノ兌換銀行券ヲ引換ユル爲メニ代理店ヲ設クルトキハ重役集會ノ決議ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス

第九十一條　廢棄兌換銀行券ハ其種類枚數及ヒ金額ヲ調査シ重役集會ノ承認ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル上之ヲ燒棄ス可キモノトス

廢棄兌換銀行券ノ燒棄ハ檢查局長及ヒ文書局長立會ノ上之ヲ執行シ大藏大臣ニ上申ス可キモノトス

第九節　紙幣ノ交換及ヒ銷却

第九十二條　紙幣交換事務ハ大藏大臣ノ命任書ニ基キ本支店出張所及ヒ代理店ニ於テ之ヲ取扱フ可キモノトス

前項ニ據リテ交換ス可キ紙幣ノ種類ハ左ノ如シ

一　政府紙幣

二　國立銀行紙幣

第九十三條　國立銀行紙幣銷却事務ハ法律命令ニ基キ本店ニ於テ之ヲ取扱フ可キモノトス

第九十四條　國立銀行ノ鎖店ノ場合ニ於テハ重役集會ノ承認シタル該國立銀行紙幣銷却勘定ノ決算ヲ大藏大臣ニ上申シ且同行跡引受人ニ報告ス可キモノトス

第九十五條　國立銀行營業繼續ノ爲メ紙幣銷却殘高ニ相當スル金額ノ無利子貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ重役集會ノ決議ヲ經テ其契約ヲ訂結シ該國立銀行紙幣銷却勘定ノ決算ヲ大藏大臣ニ上申シ且同銀行ニ報告ス可キモノトス

第十節　國庫事務

第九十六條　國庫ノ現金及ヒ有價證券ノ出納及ヒ保管ニ關スル事務ハ法律命令ニ基キテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第九十七條　本支金庫ノ事務ヲ支店出張所又ハ派出所ニ於テ取扱フ場合ニハ支店長出張所長又ハ派出所主任者ヲ金庫出納役代理人トナシ代理店ヲ設ケテ其事務ヲ取扱ハシムル場合ニハ其管理者ヲ金庫出納役代理人トナス可キモノトス但代理店ヲ設クルニハ重役集會ニ於テ決議シ監事集會ノ承認ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス

第九十八條　官廳派出現金出納ノ事務取扱代理ヲ他人ニ委任スルニハ重役集會ノ決議ヲ經可キモノトス

第九十九條　金庫ノ位置ヲ移轉スル場合ニハ重役集會ノ決議ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス但新舊ノ位置カ互ニ接近セル場合ニ限リ大藏大臣ノ認可ヲ要セスシテ官報ニ之ヲ廣告スルコトヲ得ルモノトス

第百條　金庫出納役代理人ヲ變更スルトキハ重役集會ノ決議ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス

第百一條　國庫ノ現金及ヒ有價證券ヲ保管スル金櫃及ヒ其出納ニ關スル帳簿ハ銀行本業部ニ屬スルモノト判然區劃シテ之ヲ藏置ス可キモノトス

第十一節　公債事務

第百二條　公債事務ハ法律命令ニ基キテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第百三條　公債事務規程ハ營業局長之ヲ起草シ重役集會ノ決議ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス

第百四條　公債事務取扱ノ爲メニ代理店ヲ設クルトキハ重役集會ニ於テ決議シ監事集會ノ承認ヲ經テ大藏大臣ノ認可ヲ受ク可キモノトス

第十二節　成貨拂渡

第百五條　成貨拂渡事務ハ大藏大臣ノ命令ニ據リテ之ヲ取扱フ可キモノトス

第百六條　每月成貨ノ受拂決算表及ヒ仕拂濟報告表ヲ調製シ仕拂濟貨幣拂渡證書ヲ添付シテ造幣局ニ送付ス可キモノトス

第三章　經費ノ豫算及ヒ決算

第百七條　每半季ノ經費豫算ハ一定ノ科目ニ依リ本支店及ヒ出張所各別ニ每年六月十日及ヒ十二月十日迄ニ之ヲ調製シ諸般ノ參考書ヲ添ヘテ重役集會ニ提出シ其決議ヲ經テ監事集會ノ承認ヲ受ク可キモノトス

第百八條　經費豫算金額ノ超過又ハ豫算外ノ支出ハ重役集會ノ決議ヲ經テ監事集會ノ承認ヲ受クルモノトス但第二百十條ノ適用ヲ妨ケス

第百九條　每年二月及ヒ八月ノ兩度ニ於テ前半季ノ經費決算報告ヲ調製シ之ヲ重役集會ニ提出シ且監事集會ノ承認ヲ受ク可キモノトス

第四章　決算及ヒ諸報告

第百十條　每年六月末日及ヒ十二月末日營業ノ終結ニテ其半季間ニ於ケル諸勘定ノ決算ヲ爲ス可キモノトス

前項ノ決算ヲ終了シタル後ニ各支店及ヒ出張所ハ卽時ニ損益勘定ヲ本店ニ電報ス可キモノトス

第百十一條　各支店及ヒ出張所ニ於テハ半季決算後十日以內ニ其季間ノ營業報告及ヒ附屬諸計表ヲ調製シテ之ヲ本店ニ送付ス可キモノトス

本店ニ於テハ半季決算後其季間ノ半季報告ヲ調製シ重役集會ノ承認ヲ經テ監事集會ニ提出ス可キモノトス

第百十二條　半季報告ニハ計算書、貸借對照表、損益勘定表、兌換銀行券發行高表及ヒ株主姓名表ヲ掲ク可キモノトス但下半季ノ報告ニハ其年度營業上ノ情況ヲ詳記シタル營業報告ヲ添付ス可キモノトス（明治三十五年八月二十二日貸借對照表ノ下「財産目錄」ノ四字ヲ削除）

第百十三條　監事集會ニ於テ半季報告ヲ承認シタルトキハ利益金分配案ヲ大藏大臣ニ提出シテ其認可ヲ受ク可キモノトス

第百十四條　半季報告ハ定式株主總會後直チニ之ヲ大藏大臣ニ進達ス可キモノトス

第百十五條　貸借對照表ハ定式株主總會ノ後官報及ヒ新聞紙ニ廣告ス可キモノトス（明治三十年二月十七日改正）

第百十六條　本支店及ヒ出張所ニ於テ毎日營業ヲ終結シタルトキハ實際報告表ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ進達ス可キモノトス但支店及ヒ出張所ノ報告ハ本店ヲ經由ス可キモノトス

第百十七條　本支店及ヒ出張所ニ於テハ毎月實際報告表及ヒ損益勘定内譯表ヲ調製シテ之ヲ大藏大臣ニ進達ス可キモノトス但支店及ヒ出張所ノ報告ハ本店ヲ經由ス可キモノトス

第百十八條　毎週土曜日ノ營業報告ハ次週水曜日ノ官報ニ廣告シ同時ニ之ヲ大藏大臣ニ進達ス可キモノトス但各支店及ヒ出張所ハ毎週土曜日營業ノ終結ニ於テ各勘定ノ殘高ヲ本店ニ電報ス可キモノトス

第五章　重役

第一節　總裁及ヒ副總裁

第百十九條　總裁ハ重役集會、銀行總會及ヒ株主總會ノ決議シタル事件ヲ施行シ一切ノ事務ニ付キテ本行ヲ代表ス可キモノトス

第百二十條　總裁ハ各金庫ヲ直管スルモノトス但其鎖鑰ハ主務局長支店長及ヒ出張所長ヲシテ分管セシムルモノトス

第百二十一條　總裁ハ一切ノ文書ニ署名捺印スルモノトス

重要ナル文書ニハ文書局長及ヒ主務局長ヲシテ副署セシムルモノトス

日常ノ業務ニ關スル文書ニハ豫メ重役集會ノ決議ヲ經テ前二項ヲ適用セサルコトヲ得可キモノトス

第百二十二條　副總裁ハ總裁ヲ補佐シ總裁事故アルトキハ之ヲ代理スルモノトス

總裁及ヒ副總裁共ニ事故アルトキハ理事ノ一名ヲシテ總裁ヲ代理セシムルモノトス但此場合ニ於テハ大藏大臣ニ屆出ツ可キモノトス

第二節　理事

第百二十三條　理事ハ毎日出勤シテ重役集會ニ列ス可キモノトス

第百二十四條　理事ハ時々各局ニ就キ其執務ノ實況ヲ視察シ又毎年少クトモ一回各支店及ヒ出張所ヲ巡視ス可キモノトス

第百二十五條　理事ノ俸給ハ重役集會ニ於テ之ヲ決議シ監事集會ノ承認ヲ受ク可キモノトス

第三節　重役集會

第百二十六條　重役集會ハ毎日一定ノ時刻ニ開會ス可キモノトス但必要ニヨリ定刻外ト雖モ開會スルコトヲ得可キモノトス

第百二十七條　重役集會ハ重要ナル文書及ヒ計表ヲ檢閱シ且重要ナル行務ヲ決議ス可キモノトス

第百二十八條　重役集會ハ必要ニヨリ各局長、支店長又ハ出張所長ヲシテ其主管事務ニ關シテ意見ヲ述ヘシムルコトアルモノトス

第百二十九條　重役集會ニハ議事錄ヲ備ヘテ決議ノ要領ヲ記載シ出席會員之ニ認印ス可キモノトス

第四節　監事

第百三十條　監事ハ每週少ナクトモ一回出勤ス可キモノトス

監事ノ俸給ハ重役集會ニ於テ之ヲ決議シ監事集會ノ承認ヲ受ク可キモノトス

第百三十一條　監事ハ每半季ニ少ナクトモ一回諸帳簿有價證券及ヒ現金ヲ檢査シ株主ニ對シテ其成績ヲ證明ス可キモノトス

第五節　監事集會

第百三十二條　監事集會ハ每水曜日ニ開會シ行務ノ要領及ヒ營業上ノ實況ヲ示セル文書及ヒ計表ヲ檢閱シ又總裁ノ提出スル議案ヲ討議ス可キモノトス但必要ニヨリ定日外ト雖モ開會スルコトヲ得可キモノトス

第百三十三條　監事集會ニハ議事錄ヲ備ヘテ決議ノ要領ヲ記載シ出席會員之ニ認印ス可キモノトス

第六節　銀行總會

第百三十四條　銀行總會ハ每月最終ノ水曜日ニ開會スルモノトス但必要ニヨリ定日外ト雖モ開會スルコトヲ得可キモノトス

第百三十五條　議案ハ總裁之ヲ提出スルモノトス但總裁ノ提出セサル議案ト雖モ會員過半數ノ意見ニ依リ之ヲ議題トナスコトヲ得可キモノトス

第百三十六條　銀行總會ニハ議事錄ヲ備ヘテ決議ノ要領ヲ記載シ出席會員之ニ認印ス可キモノトス

第六章　職制

第一節　行員、技術員及ヒ雇員

第百三十七條　本行ニ行員、技術員及ヒ雇員ヲ置クモノトス

局長、支店長、祕書役、檢查役、調查役、課長、出張所長、書記及ヒ書記補ヲ行員ト稱ス

技師及ヒ技手ヲ技術員ト稱ス

見習、守衞、女工及ヒ小使ヲ雇員ト稱ス但見習ノ取扱ハ行員ニ準スルモノトス

第百三十八條　前條ニ列記スル使用人ノ外ニ必要アルトキハ臨時雇員ヲ置クコトヲ得可キモノトス

第百三十九條　行務ノ都合、疾病又ハ其他ノ事故ニ依リ行員ニ休職ヲ命スルコトアル可キモノトス

第百四十條　使用人ヨリハ履歷書、誓詞及ヒ身元引受證書ヲ差出サシム可キモノトス

行員及ヒ之ニ準スル雇員ヨリハ尙ホ身元保證金ヲ納レシム可キモノトス

第二節 給料、旅費及ヒ手當

第百四十一條　局長、支店長、祕書役、檢査役、調査役、課長、出張所長ニハ年俸ヲ書記、書記補、技師、技手及ヒ守衛ニハ月俸ヲ見習女工及ヒ小使ニハ日給ヲ支給スルモノトス但女工又ハ小使ノ取締ニハ特ニ月俸ヲ支給スルコトヲ得可キモノトス

臨時雇員ニハ月俸又ハ日給ヲ支給スルモノトス

第百四十二條　職務ノ性質及ヒ在勤地ノ狀況ニ因リ給料ノ外ニ特ニ手當ヲ支給スルコトヲ得可キモノトス

第百四十三條　行務ノ爲メ旅行スル者ニハ旅費ヲ支給ス可キモノトス

第三節 執務時間、休暇及ヒ宿直

第百四十四條　營業ハ午前九時ニ開始シ午後三時ニ閉鎖ス可キモノトス但土曜日ハ正午ニ閉鎖ス可キモノトス

營業開始ノ時刻ヨリ其閉鎖後一時間ヲ過クル迄ヲ執務時間トナスモノトス但行務上必要ナル場合ニハ本文ノ時間外ト雖モ使用人ヲシテ執務セシムルコトヲ得可キモノトス

第百四十五條　休業日ハ大祭日、祝日及ヒ日曜日トス但大藏大臣ノ許可ヲ受ケテ臨時ニ休業スルトキハ之ヲ官報及ヒ新聞紙ニ廣告ス可キモノトス

行務上必要ナル場合ニハ休業日ト雖モ使用人ヲシテ執務セシムルコトヲ得可キモノトス

第百四十六條　使用人ハ事務ノ都合ニヨリ毎半季間七日ヲ限リ休暇ヲ受クルコトヲ得可キモノトス（明治三十四年四月一日改正）

第百四十七條　執務時間外店內取締ノ爲メニ宿直員ヲ置キ其事務ヲ處辨セシム可キモノトス

第百四十八條　技術員及ヒ之ニ準スル臨時雇員ノ執務時間、休業日及ヒ休暇ニハ本節ノ規定ヲ適用ス可ラサルモノトス

第四節 使用人ノ責任

第百四十九條　使用人ハ本行ノ機密又ハ取引先ノ密事ヲ漏洩シ其他本行ノ名譽又ハ利益ヲ毀損スルカ如キ言行アル可ラサルモノトス

第百五十條　使用人ハ總裁ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本行外ニ於テ他ノ職務ヲ兼ヌルコトヲ得サルモノトス

第百五十一條　使用人ハ其職務上ノ過失ニ對スル責任ヲ負フ可キモノトス

第五節 賞罰

第百五十二條　使用人ノ勤惰及ヒ功過ニ應シテ賞罰ヲ行フ可キモノトス

第百五十三條　行員ノ勤務年數ト行狀トニ應シテ其退職又ハ死亡シタルトキニ恩給金ヲ給與スルモノトス但他ノ使用人ニハ本文ノ場合ニ於テ手當金ヲ給與スルコトヲ得ルモノトス

第百五十四條　罰例ハ譴責、罰俸、降等及ヒ免職ノ四種トス

第百五十五條　本行ニ損失ヲ蒙ラシメタル使用人ハ前條ニ據リテ之ヲ處分シタル上尙ホ情狀ニ依リ辨償ノ責任ヲ負ハシムルコトアル可キモノトス

第七章 局課組織及ヒ事務分掌

第一節 總則

第百五十六條　本店ニ左ノ局ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルモノトス

一　檢査局
二　營業局
三　出納局
四　發行局
五　國庫局
六　文書局
七　株式局
八　計算局

局ノ外ニ別ニ祕書室ヲ置クモノトス

第百五十七條　本店ト各支店又ハ出張所トノ間ニ往復スル公文ハ各主務局又ハ祕書室ヲ經由ス可キモノトス

第百五十八條　局ニ課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルコトヲ得可キモノトス

第百五十九條　局ニ局長ヲ置キ其事務ノ整理ニ關シ一切ノ責ニ任セシム可キモノトス

第百六十條　局ニ課ヲ設クルトキハ課長ヲ置キ其事務ノ整理ニ任セシムルコトヲ得可キモノトス

第百六十一條　局長事故アルトキハ其局ニ勤務スル次席者ヲシテ之ヲ代理セシムルモノトス

但場合ニヨリ特ニ代理者ヲ命スルコトアル可キモノトス

第百六十二條　祕書室ニ祕書役ヲ置キ總裁ニ直隷シテ其職務ニ從事セシム可キモノトス但祕書役事故アルトキハ其室ニ勤務スル次席者若クハ特ニ命シタル者ヲシテ之ヲ代理セシムルモノトス

第百六十三條　局、支店又ハ祕書室ニ調査役ヲ置キ局長支店長又ハ祕書役ヲ補佐シ其事務ニ參與セシムルコトヲ得可キモノトス

第百六十四條　局長及ヒ祕書役ハ其事務ノ整理ニ必要ナル諸般ノ規則ヲ制定シ重役集會ノ承認ヲ經テ之ヲ施行ス可キモノトス

第百六十五條　書記、書記補及ヒ見習ハ局又ハ祕書室ニ屬シテ其事務ニ從ハシム可キモノトス

第二節　檢査局

第百六十六條　檢査局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　本店、支店、出張所及ヒ派出所ノ事務ノ監査
二　代理店事務ノ監査
三　新築又ハ修繕ノ工事ノ監査
四　諸規定ノ審査
五　本店各金庫外扉鎖鑰ノ保管
六　本行業務ノ統計
七　內外經濟上ノ統計及ヒ調査
八　營業報告ノ編纂

第百六十七條　檢查局ニ檢查役三名乃至五名ヲ置クモノトス

第百六十八條　檢查役ハ檢查局長ノ指揮ニ從ヒ其分擔事務ヲ整理スルノ責ニ任ス可キモノトス

第百六十九條　檢查局長ハ重要ノ事務ニ關シテハ檢查役會議ヲ開キ其決議ノ事項ヲ總裁ニ具申ス可キモノトス

第三節　營業局

第百七十條　營業局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　手形割引
二　定期貸
三　定期預金及ヒ當座預金勘定
四　振出手形ノ發行
五　爲替取組
六　爲替約定先トノ諸取引
七　支店出張所及ヒ派出所トノ間ニ於ケル貸借勘定
八　公債證書及ヒ大藏省證券ノ賣買
九　金銀地金、舊貨幣及ヒ外國貨幣ノ賣買
十　成貨受拂ノ事務
十一　公債ノ募集及ヒ償還

十二　公債元利金ノ受拂
十三　公債事務代理店ノ選定及ヒ監督
十四　記名公債證書ノ登錄
十五　公債證書ノ變換及ヒ交換
十六　國庫預金部ノ利子ニ關スル事務
十七　公債取扱手數料ニ關スル事務

第百七十一條　（明治三十五年八月二十二日削除）

第百七十二條　手形及ヒ定期貸金證書ハ營業局ニ保管シ割引手形ハ期日ノ五日前ニ取立手形ハ同シク二日前ニ出納局ニ送付ス可キモノトス

第四節　出納局

第百七十三條　出納局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　現金ノ出納及ヒ保管
二　手形ノ交換及ヒ取立
三　流通不便貨幣ノ交換
四　金銀地金ノ鑑定及ヒ保管
五　贋造又ハ變造通貨ノ處分

第百七十四條　手形カ不渡トナリタルトキハ其旨ヲ營業局ニ通知シ之ヲ文書局ニ引繼ク可キモノトス

第百七十五條　中央金庫事務ニ關スル臨時仕拂ニ充ツル爲メ豫テ重役集會ノ決議ヲ經テ宿直員ニ若干ノ現金ヲ交付シ之ヲ保管セシム可キモノトス

第百七十六條　出納局長ハ毎日營業ノ終結ニ於テ現金在高表ヲ調製シ之ヲ總裁ニ提出ス可キモノトス

第五節　發行局

第百七十七條　發行局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　兌換銀行券ノ製造及ヒ保管ニ關スル事務

二　兌換銀行券ノ發行及ヒ還收

三　兌換銀行券ノ交換

四　兌換銀行券ノ銷却

五　紙幣交換

六　損傷紙幣及ヒ損傷兌換銀行券ノ引換竝ニ之ニ關スル代理店ノ選定及ヒ監督

七　國立銀行紙幣ノ銷却

第百七十八條　發行局長ハ毎日營業ノ終結ニ於テ兌換銀行券一覽表ヲ調製シ之ヲ總裁ニ提出ス可キモノトス

第百七十九條　每半季ノ末ニ於テ國立銀行紙幣銷却事務報告書ヲ調製シ重役集會ノ承認ヲ經テ之ヲ大藏大臣ニ進達シ且各國立銀行ニ配布ス可キモノトス

第六節　國庫局

第百八十條　國庫局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　國庫金ノ出納事務

二　金庫事務代理店ノ選定及ヒ監督

三　國庫金ノ配布

四　國庫預金部ニ屬スル現金及ヒ有價證券ニ關スル事務

五　國庫金取扱手數料ニ關スル事務

第百八十一條　會計年度ノ末ニ於テ國庫金出納事務報告書ヲ調製シ重役集會ノ承認ヲ經テ之ヲ株主ニ配布ス可キモノトス

第七節　文書局

第百八十二條　文書局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　文書ノ受理及ヒ發送

二　契約ニ關スル事務

三　登記及ヒ訴訟ニ關スル事務

四　使用人ノ異動及ヒ勤惰ニ關スル事務

五　理事、監事及ヒ行員ノ身元保證ニ關スル事務

六　株主總會ニ關スル事務

七　宿直ニ關スル事務

八　文書ノ編纂及ヒ保管

九　圖書及ヒ標本貨幣ノ購入及ヒ保管
十　經費ニ關スル事務
十一　營繕ニ關スル事務
十二　需要品及ヒ物品會計ニ關スル事務
十三　本支店及ヒ出張所ノ經費ノ豫算及ヒ決算
十四　不動產ニ關スル事務
十五　通貨及ヒ金銀地金ノ遞送ニ關スル事務
十六　他局ニ專屬セサル事務

第百八十三條　出納局ヨリ不渡手形ノ引繼ヲ受ケタルトキハ支拂拒絕證書ヲ作成セシメ且償還請求ノ通知ヲ爲シ其手形ハ之ヲ保管シ置ク可キモノトス

第百八十四條　不用什器ノ賣却ヲ爲ストキハ重役集會ノ許可ヲ受ク可キモノトス

第百八十五條　文書局長ハ臨時ニ要スル經費ヲ支拂フ爲メニ重役集會ノ許可ヲ得テ若干ノ現金ノ前渡ヲ受クルコトヲ得ヘキモノトス

第百八十六條　文書局長ハ本店ノ經費精算月表ヲ翌月五日マテニ調製シ且各支店長及ヒ出張所長ノ送付シタル月表ト總括シテ毎月經費一覽表ヲ調製シ之ヲ重役集會ニ提出ス可キモノトス

第八節　株式局

第百八十七條　株式局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　本行株式ニ關スル事務
二　割賦金ノ拂渡ニ關スル事務
三　保護預
四　所有公債證書ノ保管
五　抵當品及ヒ保證品ノ保管
六　國庫預金部ニ屬スル有價證書ノ保管

第百八十八條　毎月一回各種保管品現在高表ヲ調製シ各局長ノ認印ヲ得テ之ヲ重役集會ニ提出ス可キモノトス

第九節　計算局

第百八十九條　計算局ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス

一　傳票ト證據書類トノ對照及ヒ精算
二　計表ノ檢閱及ヒ精算
三　帳簿ノ監査
四　帳簿及ヒ計表ノ記入方法ノ監督
五　帳簿及ヒ計表ノ新設及ヒ改廢
六　勘定科目ノ新設及ヒ改廢
七　日記帳總勘定元帳及ヒ補助日記帳ノ記入及ヒ整理
八　國庫ノ現金出納日記簿現金出納原簿及ヒ有價證券總括簿ノ記入及ヒ整理

九　半季決算ニ關スル事務
十　實際報告ノ調製
第百九十條　各局及ヒ祕書室ニ於テ記入ヲ終リタル帳簿ハ之ヲ受理シ檢閱及ヒ整理シタル上之レヲ保管ス可キモノトス

第十節　祕書室

第百九十一條　祕書役ハ左ノ事務ヲ掌ルモノトス
一　機密文書ノ取扱及ヒ保管
二　使用人ノ進退及ヒ黜陟ニ關スル事務但第二百三條及ヒ第二百十三條ノ適用ヲ妨ケス
三　日本銀行、中央金庫、總裁、副總裁及ヒ理事ノ印章ノ保管
四　賞與金及ヒ恩給資金ニ關スル事務
五　總裁、副總裁又ハ理事ノ命ニ因ル諸般ノ事務

第八章　支店、出張所及ヒ派出所

第一節　支店

第百九十二條　支店ニ支店長ヲ置キ其事務ノ整理ニ關シ一切ノ責ニ任セシム可キモノトス
第百九十三條　支店ニ左ノ係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルモノトス
一　營業係
二　出納係
三　國庫係

四　文書係
五　計算係

第百九十四條　係ニ主任ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充テ其事務ノ整理ニ關シ一切ノ責ニ任セシム可キモノトス但場合ニヨリ特ニ支店在勤ノ調査役ヲ以テ主任ニ充ツルコトヲ得可キモノトス
第百九十五條　各係ノ事務ノ分掌及ヒ取扱ハ營業局、出納局、國庫局、文書局及ヒ計算局ニ準スルモノトス
第百九十六條　割賦金ノ拂渡ノ事務ハ營業係ニ於テ取扱フモノトス
第百九十七條　保護預ノ事務ハ出納係ニ於テ取扱フモノトス
第百九十八條　未發行免換銀行券ノ出納及ヒ保管ハ文書係ニ於テ取扱フモノトス（明治三十五年四月十日改正）
第百九十九條　抵當品、保證品及ヒ國庫預金部有價證券ハ出納係ニ於テ保管スルモノトス
毎月一回前項ノ各種保管品ノ現在高表ヲ調製シテ本店ニ送付ス可キモノトス
第二百條　統計及ヒ調査ノ事務ハ計算係ニ於テ取扱フモノトス
第二百一條　支店ノ印章及ヒ金庫外扉ノ鎖鑰ハ文書係主任ヲシテ之ヲ保管セシム可キモノトス
第二百二條　支店ノ情況ニヨリ特ニ證券係ヲ置キ公債事務、保護預事務竝ニ抵當品及ヒ國庫預金部有價證券保管事務ノ取扱ヲ爲サシムルコトアル可キモノトス但此場合ニハ第百九十七

條及ヒ第百九十九條第一項ヲ適用ス可カラス

第二百三條　五拾錢ヲ超過セサル日給ヲ受クル雇員又ハ臨時雇員ノ進退及ヒ黜陟ハ支店長之ヲ專行シ其都度總裁ニ届出ツ可キモノトス

第二百四條　第百六十一條及ヒ第百六十四條ハ支店長ニ準用ス可キモノトス

第二百五條　支店長ハ毎週一回諸貸出金殘高表ヲ調製シ之ヲ本店ニ送付ス可キモノトス

第二百六條　支店長ハ經費精算月表ヲ調製シ翌月五日マテニ本店ニ發送ス可キモノトス

第二百七條　支店長行務ヲ以テ出張スルトキハ其都度總裁ノ許可ヲ受ク可キモノトス又私事ノ爲メ支店所在地ヲ離レテ三日若クハ三日以上引續キ缺勤セントスルトキハ豫メ總裁ノ許可ヲ受ク可キモノトス

支店長其所屬ノ使用人ニ行務ヲ以テ出張ヲ命シ又ハ歸省若クハ轉地療養ヲ許可シタルトキハ其都度理由ヲ具シテ總裁ニ届出ツ可キモノトス

第二百八條　支店長更迭スルトキハ新任者ニ事務ヲ引續キ了ルマテハ前任者ノ名義及ヒ責任ヲ以テ事務ヲ處理ス可キモノトス

第二百九條　臨時ノ必要ニヨリ豫算金額超過又ハ豫算外ノ經費ヲ要スル場合ニ於テ重役集會ノ許可セル豫定金額未滿ノ支出ハ支店長之ヲ專行スルコトヲ得可キモノトス但其都度事情ヲ具申シテ重役集會ノ承認ヲ請フ可キモノトス

第二節　出張所

第二百十條　出張所ニ出張所長ヲ置キ其事務ノ整理ニ關シ一切ノ責ニ任セシム可キモノトス

第二百十一條　出張所ニ左ノ係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルモノトス

一　營業係
二　出納係
三　國庫係
四　文書係
五　計算係

出張所ノ情況ニヨリ前項中ノ一係又ハ數係ヲ省クコトアル可キモノトス但此場合ニハ各係ノ事務ノ分掌ハ別ニ之ヲ定ム可キモノトス

第二百十二條　出張所ノ印章及ヒ金庫外扉ノ鎖鑰ハ文書係ノ首席書記ヲシテ之ヲ保管セシム可キモノトス

第二百十三條　參拾錢ヲ超過セサル日給ヲ受クル雇員又ハ臨時雇員ノ進退及ヒ黜陟ハ出張所長之ヲ專行シ其都度總裁ニ届出ツ可キモノトス但時宜ニヨリ重役集會ノ決議ヲ以テ本文ノ參拾錢ヲ五拾錢マテ增加スルコトヲ得可キモノトス

第二百十四條　第百六十一條、第百九十五條乃至第百九十七條、第百九十九條、第二百條、第二百六條乃至第二百九條ハ各出張所ニ、第二百五條ハ營業事務ヲ取扱フ各出張所ニ準用ス可キモノトス

第三節　派出所

第二百十五條　派出所ハ本支店又ハ出張所ヨリ所屬員ヲ派出シテ國庫事務及ヒ公債事務ヲ取

扱ハシムルモノトス

第二百十六條　派出所主任者ハ其事務ヲ整理シ一切ノ責ニ任セシム可キモノトス

第二百十七條　派出所主任者事故アルトキハ其所ニ勤務スル次席者ヲシテ之ヲ代理セシムルモノトス

第二百十八條　派出所ノ經費ハ所轄店ヨリ之ヲ支出スルモノトス

所轄店長ハ豫メ重役集會ノ決議ヲ經テ派出所ノ經費豫算ノ內一箇月又ハ數箇月分ニ相當スル現金ヲ前渡スルコトヲ得可キモノトス

派出所ハ經費精算月表ヲ調製シ仕拂濟領收證書ヲ添ヘテ翌月二日迄ニ所轄店ニ發送ス可キモノトス

第九章　代理店

第二百十九條　代理店ハ金庫事務、公債事務、國庫預金部利子仕拂事務竝ニ紙幣及ヒ損傷兌換銀行券交換事務等ノ全部又ハ一部ヲ取扱ハシムルモノトス

第二百二十條　代理店ノ事務取扱ニ對シ保證品ヲ納レシム可キモノトス

保證品ノ員額、種類及ヒ價格ハ重役集會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム可キモノトス

第二百二十一條　代理店ノ事務取扱ニ對シテハ一定ノ手數料ヲ交付シ一切ノ經費ハ代理店ヲシテ負擔セシム可キモノトス但本文ノ手數料ハ重役集會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム可キモノトス

第十章　雜則

第二百二十二條　日本銀行定款第三十六條ニ記載スル役員賞與金竝ニ交際費ノ割合及ヒ同定款第六十五條ニ記載スル賞與ノ金額ハ銀行總會ニ於テ決議ス可キモノトス

第二百二十三條　日本銀行定款第六十八條ニ記載スル割引委員出席ノ時日ハ總裁隨時ニ之ヲ定ム可キモノトス

第二百二十四條　臨時緊急ノ必要ニヨリ本內規ノ條項ニ準據シ能ハサル場合ニ於テハ總裁ハ銀行總會ノ決議ヲ經テ例外ノ處分ヲ爲スコトヲ得可キモノトス

第二百二十五條　現行ノ諸規則又ハ命令ニシテ本內規ノ條項ニ牴觸スルモノハ本內規施行ノ當日ヨリ其效ヲ失フ可キモノトス

第二款　支店設置

日本銀行ハ國內樞要ノ地ヲ選ミ支店ヲ設クルノ必要アリシヲ以テ明治十五年十月二十日先ツ大阪ヘ支店ヲ開設セン事ヲ大藏省ニ上請シ同月二十三日其許可ヲ得タリ願書ハ左ノ如シ

大阪府下ヘ日本銀行支店設置ノ儀願書

大阪ハ百貨輻輳商業繁盛ノ地ニシテ東京ト東西相對シ財路ノ關係至大ナルカ故ニ其氣脈ヲシテ彼此密接セシムルハ本行ノ務ムヘキ樞要ノ點ニ付該府下ヘ日本銀行支店ヲ設置スルハ寔ニ急務ト思惟仕候就テハ本行資本金總額金壹千萬圓ノ內假リニ金參百萬圓ヲ分割シ之ヲ資本金總額トシテ該府下ヘ支店ヲ設立仕度尤開業後其實況ニ因リ尙資本金額增減可仕ハ勿論ニ候得共其內當分現金五拾萬圓ヲ分チ右ヲ以テ營業仕度候其創設方ハ本行役員ヲ派出シ著手爲致可

申支店權限等ハ條例ヲ遵奉シ定款ヲ確守シテ取調追テ上申可仕ニ付右支店設置ノ儀速ニ御許可被下度右ハ定款第二條第三條第六十五條ニ依リ銀行總會ニ於テ議決仕候間此段具狀請願仕候也

明治十五年十月二十日

日本銀行總裁代理
副總裁 富田鐵之助

大藏卿 松方正義殿

大阪支店設置ノ件認可セラレタルヲ以テ十一月二十五日ヲ以テ理事外山修造ヲ其支店長トナシ之ヲ大阪ニ出張セシメ以テ支店創設ノ事務ヲ處辨セシメ十二月十八日ヲ以テ開業ヲ告ケタリ支店元金ハ本店ヨリ參百萬圓ヲ分割スルヲ豫定シ先ツ拂込資本金ノ中ヨリ百五拾萬圓ヲ割テ其營業ニ從事セリ

是ヨリ先キ十一月二十五日大阪支店條規ヲ編製シ十二月七日ヲ以テ其許可ヲ得タリ越ヘテ十七年六月一日同支店ヲ府下東區今橋町五丁目十一番地ヨリ府下東區大川町六十番地ニ移セリ

斯ノ如クニシテ日本銀行大阪支店ハ著々其歩ヲ進メタリ而シテ顧ミテ本店ヲ見レハ國庫金事務兌換券發行事務「コルレスポンデンス」事務等著シク增加シ各地ノ情況ヲ斟酌シ其緩急ニ對シ注意ヲ加フヘキノ必要一層緊要トナリ普ク國內樞要ノ地ニ支店ヲ設置スルニアラスンハ行務ノ活動ヲ見ル能ハサラントセリ是ニ於テ明治十九年六月十六日日本銀行ハ大藏卿ニ上請スル所アリ漸次國內樞要ノ各地方ニ支店ヲ設置センコトヲ請ヒ其許可ヲ得タリ

當銀行事務ノ儀追々擴張國庫金取扱事務兌換券發行事務「コルレスポンデンス」事務等著シク增加致シ其關係全國ニ及ホシ候ニ付各地ノ情況ヲ斟酌シ其緩急ニ於テ一層注意ヲ加ヘ候儀緊要ト被存候然ルニ當銀行支店ノ儀ハ未タ大阪府下ニ一箇所設置有之ノミニテ其他ハ各地國立私立ノ銀行ト「コルレスポンデンス」取組金融相計リ居候處地方ノ商況金融ノ消長等確視仕候ニハ右ノミニテハ當本店ヘノ通信向等兎角隔靴ノ嘆ヲ免レス懸念不尠候間追々樞要ノ地ニ支店ヲ設ケ國庫金事務ヲ始メ諸取扱向ヲシテ圓滑ナラシメ併セテ兌換券流通ノ道ヲ便ニシ且金融ノ疏通ヲ謀リ金利ノ權衡ヲ得セシメ候樣仕度尤支店設置ノ上ハ近傍ノ國庫金取扱代理店ヲ包含シテ區域ヲ定メ區域內各店代理事務ヲ監督可致且營業事務ニ至ツテハ勉メテ實著ヲ旨トシ收益ハ諸入費ヲ償フニ足ルヲ以テ第一著トナシ猥リニ業務ノ程度ヲ超ヘテ弊害ヲ來スノ恐レナキ樣十分檢束ヲ施シ別紙ノ制規ニヨリ設置ノ都合ニ取計申度尤右御許可ノ上ハ設置ノ場所竝支店內規等ハ別ニ細則取調御屆可仕積リニ御座候右ハ定款第六十五條ニ據リ銀行總會ニ於テ決議仕候間同第二條ニ據リ此段請願仕候也

明治十九年六月十六日

日本銀行總裁 吉原重俊

大藏大臣 伯爵 松方正義殿

支店成規

第一條 本行支店ヲ三等ニ分チ一等支店ハ理事二等支店ハ支配役三等支店ハ支配役若クハ副支配役ヲ以テ長トス

第二條 一等支店資本金ハ豫メ之ヲ定メ置キ二等三等支店ハ營業ノ景況ニヨリ資本ヲ增減スヘキモノトス

第三條　支店營業ノ本務ハ左ノ如シ

	一等支店	二等支店	三等支店
政府手形ノ割引及賣買	上	同	特ニ本店ノ指令スル事務ニ從事ス
商業手形割引及賣買			禁
有抵當定期貸			有利ハ禁 無利息預金
有抵當當座勘定貸	禁		
有利定期預金	有利ハ禁 無利息預金		
有利無利當座預金			
無利息振出手形			
無利息別段預金			
本支店及他店送金手形	本支店送金手形他店ハ禁	同	同
代金取立手形	彙テ取引有之モノニ限ル	同	同
公債證書及地金賣買	禁	禁	禁
貨幣交換	禁	禁	禁
兌換銀行券引換	禁	禁	禁
國庫金取扱及政府命令事務	命令アルモノノミ	命令アルモノノミ	命令アルモノノミ
保護預 （被封緘）	禁	禁	禁

但本店ヨリ命令スルトキハ此他ノ事務ヲ取扱フコトアルモノトス

第四條　支店資本金ハ前第三條ニ揭クル事業外ニ運轉スルヲ得ス尤其運轉金ハ取引先銀行會社又ハ一個人ニ對スル制限ハ時々總裁指揮スルモノトス

第五條　支店諸預リ金ハ資本ノ補助トシテ總預リ高半額迄運轉スルヲ得可シ尤一等支店ハ前第三條各種取引ニ充テ二等三等兩支店ハ送金手形仕拂ノ爲メ一時辨用スルノ外他ニ使用スヘカラサルモノトス

但二等三等兩支店ニ於テモ定期預金ハ其期限內有期取引ノ爲メニ使用スルヲ得

第六條　支店定期貸及割引手形其他取引期限ハ一等支店定期貸ハ六箇月割引手形ハ百日以內二等三等兩支店ハ定期貸割引手形共百日以內ノモノニ限ルヘシ

第七條　支店取引上抵當品ノ種類價格及利息手數料等ハ總テ本店ニ於テ定メタル制限內ニ取引ヲ爲スモノトス

但抵當品種類ハ諸公債證書及政府發行手形竝地金銀其他大藏大臣ノ認可ヲ經テ定メタル物品ニ限ル

第八條　支店日常經費ハ豫算書ヲ作リ半季毎ニ本店ノ認可ヲ受ク可シ而シテ右豫算外經費一等支店ハ百圓二等三等支店ハ五拾圓以上ノ仕拂ヲ要スル事故アルトキハ其都度本店ノ認可ヲ得ヘキモノトス但非常ノ際ハ此限ニアラス

第九條　支店役員ノ進退黜陟轉任及傭員ノ任免竝役員ヲ他府縣ヘ旅行ヲ命スルトキハ其理由ヲ具狀シ本店ノ指揮ヲ受ク可シ

第十條　支店役員ハ本店ニ於テ定メタル成規ニ從ヒ取引上證書手形ニ調印スルノ外(尤諸契約書ニ副印スルハ此外タルヘシ)諸契約ヲ爲シ又ハ契約書ニ調印スルノ權ナキモノトス

第十一條　支店長及以下役員ハ行員ノ資格ヲ以テ諸集會員又ハ議員トナルヲ許サス

第十二條　每半季本店ヨリ役員ヲ派遣シテ支店事務ノ實況ヲ檢査スルモノトス但本店ニ於テ要用ノ場合アルトキハ半季定例檢查ノ外臨時ニ檢查スルコトアルヘシ

第十三條　前條支店實際設置ノ場合ニ於テハ別ニ內規ヲ設ケ御許可ヲ受ク可シ

爾來日本銀行ハ各地ニ出張所ヲ設立セシモ支店ハ未タ之ヲ設クルニ及ハサリシカ明治二十六年八月ニ至リ大阪以西ニ於ケル金融ノ便ヲ計ラランカ爲メ新ニ福岡縣門司港ニ支店ヲ設置センコトヲ上請シ同月二十三日其許可ヲ受ケ翌十月一日資本金參拾萬圓ヲ以テ赤間關ニ開業セリ蓋シ門司港タルヤ九州ノ咽喉ヲ扼シ且九州鐵道ノ開通ハ百貨ノ輻湊ヲ促シ將來商業上樞要ノ地トナルヘキハ敢テ疑ヲ容レスト雖モ當時ハ僅ニ鐵道ノ開通セシノミニテ市街ノ形狀尙ホ備ハラサルモノアリ同地ニ支店ヲ設置スルニ於テハ營業上ノ不便困難決シテ尠少ナラス依テ假ニ該支店ヲ赤間關ニ置キ明治三十一年九月門司ニ於ケル西部支店ノ新築工事竣成ヲ俟チ翌十月三十一日同所ニ移轉セリ

越ヘテ二十八年六月又北海道管下函館ニ北海道支店ヲ新設シ根室出張所ヲ根室派出所トナサンコトヲ大藏大臣ニ上請シ同月二十五日ヲ以テ其許可ヲ得同年七月十日ヨリ其業務ヲ開始セリ是ヨリ先キ函館札幌根室ノ三地方ニ於ケル金庫事務及公債事務ハ三井銀行該地支店ヲ代理店トシテ之ニ依託シ來リシカ同銀行ノ請求ニ依リ二十六年三月限リ其條約ヲ解キ同年四月一日ヨリ

是等三地方ニ置クニ日本銀行出張所ヲ以テシ其事務ヲ取扱ハシメタリ故ニ新ニ北海道支店ヲ設置スルハ營業上ヨリ云ヘハ固ヨリ不利タルヲ免レス然レトモ顧ミテ其地勢ヲ案スレハ沿海數百里水產物ヲ以テ其主要ノ物產トナシ產出各〻時アリテ金融ノ繁閑常ナク從テ金利ニ激變ヲ來スコト尠少ナラス特ニ貨物輸送ノ如キ平時ニ在リテハ敢テ甚シキ支障ヲ見スト雖モ一朝事變ニ際スレハ忽チ輸送ノ缺乏ヲ告ケ百貨滯積金融ノ逼迫其極度ニ達ス二十七八年ノ如キ其恰好ノ一例ナリトス是卽チ日本銀行カ其不利ヲ忍ヒテ函館ニ支店ヲ設ケシ所以ナリ今右ニ關スル大藏省官房第三課長添田壽一ノ調查ヲ掲クヘシ

日本銀行北海道支店ノ設立ニ關スル調查

函館ハ北海道ノ咽喉ニシテ貨物ノ集散交通ノ最要地タリ日本郵船會社航路ノ開通ト東北鐵道ノ全通ハ直接ニ當港ノ繁盛ヲ促シ本道ニ來往スルモノハ大抵此ノ地ヲ經サルモノナク又全道ノ海產物ヲ輸出スルニ當テ西海岸ニ產出スルモノハ多クハ小樽港ヨリ直ニ各地ニ輸出スルト雖モ其他ハ多ク當港ヲ經テ各地ニ輸送ス然レトモ小樽港ハ頗ル不便ノ灣ニシテ風波少シク起レハ之ヲ避クルニ由ナク冬季ハ全ク荷物ノ揚ケ下シヲナス能ハス航海殆ト絕ユ唯三四月ノ頃ヨリ夏季ニ當テハ大ニ此ノ不便ヲ避クルヲ得ルモ交通ノ便ハ到底函館ニ及フヘキニアラス

今昨年道廳ニ於テ調查シタル統計表ニ由ルニ明治二十六年ニ於テ本道ノ總輸出額ハ一七、二六八、八三二圓ニシテ其內六、一一八、五三五圓ハ當港ノ輸出ニシテ又總輸入額ハ一九、四七五、六八八圓ノ內六、八四九、九二二圓ハ當港ニ輸入スルモノニ係ルヲ以テ輸出入共ニ其總額ノ三分ノ一ハ當港商人ノ手ニ依テ集散セラルヽモノトス

今試ニ函館ニ於ケル管外輸出入原價累年ノ比較ヲ示セハ左ノ如シ

		明治二十六年	同 二十五年	同 二十四年	同 二十三年
函館	輸出	六、一一八、五三五円	四、七八五、一五七円	四、一九四、九〇八円	六、〇三五、六〇二円
	輸入	六、八四九、九九二	四、七九五、二一八	五、二五二、七四六	八、四八九、二八二

次ニ函館港海外貿易ノ輸出入原價累年ノ比較ヲ示セハ左ノ如シ

		明治二十七年	同 二十六年	同 二十五年	同 二十四年	同 二十三年
輸出		六六八、四七三円	六三九、六二七円	七八二、五八九円	六三八、七〇九円	八二三、〇三四円
輸入		五五、四二一	二四、三二二	一二、一〇一	二一七、四八一	六七六、五三四

右明治二十六年同二十七年ノ輸出入金額ノ國別ハ左ノ如シ

國別		二十七年 輸出	二十七年 輸入	二十六年 輸出	二十六年 輸入
香港		二五、九三八、六〇〇円	〇円	〇円	〇円
支那		三八八、四六八、二五〇	二六七、八九〇	四二七、七一五、一〇〇	八〇二、一八〇
露西亞		二一、八九七、四五〇	四九、九七〇、八〇〇	二、七三四、六三〇	二〇、七四五、四八〇
英吉利		七、七五一、〇〇〇	一、四〇三、八一〇	九九、〇〇〇	五九九、〇二〇
北米合衆國		一八七、四八六、二〇〇	一、五四四、六六〇	二〇四、六八三、五〇〇	六〇三、〇三〇
濠太利亞		二四、三八〇、〇〇〇	〇	〇	〇
英領亞米利加		〇	三八二、二〇〇	〇	五九、六一〇
佛蘭西		〇	五七七、〇二〇	〇	一、四九六、三五〇
其他諸國		二〇二、九四〇	一、二七四、五〇〇	〇	一六、六〇〇
外ニ船用品		一二、三四八、二〇〇	〇	四、三九四、五四〇	〇
合計		六六八、四七二、六四〇	五五、四二〇、八八〇	六三九、六二六、七七〇	二四、三二二、二七〇

當地方商業ノ重ナル取引ハ海產物及雜穀ノ輸出及米穀竝ニ雜貨ノ輸入ニシテ殊ニ海產物收獲ノ時期ニ際シテハ輸出ハ一時ニ膨脹シ每年五月頃ヨリ九月頃マテノ間ハ金融ノ繁忙殊ニ甚タシク一方ニ預金ノ減スルト同時ニ貸出非常ニ增加シ各銀行本支店固有ノ營業資本ニテハ大ニ不足ヲ感シ各支店ノ如キハ本店ヨリハ現金ノミ回送セシムルコト少カラス此ノ如ク例年夏季金融繁忙ノ時ニ及テハ現金ノ回送ヲナストト雖モ十月頃ヨリ漸次緩慢ニ赴キ一月ヨリ三四月頃迄ハ最モ閑ニシテ又現金ヲ本店ニ還送スト云フ蓋シ十月以後ニ在テハ輸出ノ勢漸ク減少シテ米穀ノ輸入漸次增加シ一月以後三四月ノ頃マテハ重ニ輸入ノミニシテ輸出セラルヽモノハ雜穀礦物及海產物ノ殘賣品位ニ過キス此ヲ以テ銀行ノ營業ハ上半季ト下半季トハ全ク其狀態ヲ異ニシ五六月以後ノ如キハ到底現在ノ銀行營業資本ノミニテハ當地方ノ需要ヲ充タスコト難キハ疑フ可ラサル事實ナリトス之レ蓋シ本道ノ如キ新開ノ地ニ在テハ海產物ノ如キ農產物ノ

如キ其ノ産出ハ年々增加シ資本モ亦從テ增殖スヘシト雖モ人口ノ增加ト事業ノ擴張トハ資本增加ノ割合ニ凌駕シ新ニ興スヘキノ業、爲スヘキノ事益〻多クシテ投資ヲ要スルコト愈〻切ナルヲ以テ勢ヒ資本ノ缺乏ヲ告ケサルヲ得ス「商業ヲ營ムモノハ小資本ヲ以テ十倍以上ノ大資本ニ運轉スルヲ以テ通常トスルカ如シ」然リ而シテ信用制度ノ如キ未タ大ニ發達セス銀行ニ於テ手形ノ割引ノ如キハ內地ノ各地方ニ於ケルヨリ寧ロ多額ニ上リ一見盛ナルカ如シト雖モ其等ノ手形ヲ見ルニ一モ轉輾流通ノ跡ナク恰モ借用證書ト一般ニシテ以テ資本ノ缺乏ヲ補フニ足ラサルナリ且又爲替上ノ關係ニ付テ少シク論スレハ本道産出ノ海產物ハ重ニ東海道及關西地方ニ輸出スルト雖モ輸入品ノ重ナル米穀類ハ重ニ三越及北陸地方ヨリ來ルヲ以テ一方ニ向テハ專ラ供給ヲ仰キ他方ニ對シテハ專ラ需要ニ應スルノ有樣ナルヲ以テ片爲替トナルノ不便ヲ免ルル能ハス多クハ東京又ハ大阪等ニ其爲替尻ヲ持込ミ計算ヲ立ツヘシト雖モ終ニ現金ノ受授ヲナサヽルヲ得サルカ如キハ銀行事業ノ不便蓋シ些少ナラサルヘシ之ヲ要スルニ前述ノ如ク當地方金融ノ激變アリテ資本ノ缺乏スルコト片爲替トナルコトノ如キハ金融上ノ大缺點ニシテ當地方銀行者ノ如キハ異口同音大ニ日本銀行支店ノ設置ヲ希望シ連リニ其必要ヲ感スルモノヽ如シ

當地方ノ金利ハ前ニ述ヘタル金融ノ大勢ニ伴ヒ高低スルモノニシテ最モ高キハ七八月頃ニシテ年一割四五分最低ナルハ二月頃ニ在リテ年一割ヲ下ラス市中ノ金利ハ此ノ割合ヨリ概ネ三四分高ク內地方ニ比シ通常高利ナリトス

以上述ヘタル如キ唯々函館一地方ノミナラス小樽地方ノ如キ尙一層甚タシキノ有樣ナルヲ以

テ北海道ノ咽喉タル函館ニ於テ日本銀行支店ノ設置セラルヽニ至ラハ前ニ揭ケタル金融上種種ノ不便ヲ免レ資本ノ缺乏ヲ補ヒ金融ノ圓滑ヲ來スヘキハ勿論北海道第二ノ商業地タル小樽地方竝ニ青森地方ニ方ツテモ其ノ恩惠ニ浴スルコトモ亦蓋シ些少ナラサルヘシ又從テ金利ノ割合適當ニ歸シ事業家ノ利益ヲ蒙ルコトモ亦少ナカラス事業益〻興リ商業亦愈〻發達スルニ至ルヘシ

當地方ニ於テ兌換券流通ノ有樣ハ頗ル圓滑ニシテ皆好テ之カ受授ヲナシ兌換券ノ交換ヲ要シタルコト殆ト之レナシトス(蓋シ外國商人ノ居留スルモノモ甚タ少ナク前ニ揭ケタルカ如ク輸入ハ唯々僅少ノ取引ニ過キサレハ外商ノ兌換券交換ヲ依賴スルモノモ殆トナキカ如シ)而シテ各銀行ニ於テ出納スル流通貨幣ノ種類ヲ見ルニ殆ト其十分ノ九ハ皆兌換銀行券ナリトス

襄キニ明治二十五年ニ於テ日本郵船會社カ航路ヲ小樽ニ延長シタルノ一事ハ大ニ函館ノ利益ヲ割キ小樽ノ繁盛ヲ促シタリト雖モ一方ヨリ見ルトキハ近年東北鐵道ノ全通ハ奥羽地方ノ產出ヲ增進シ當港ニ輸入スル所ノ貨物モ從テ多キヲ加ヘ北海道各地ニ於ケル海陸物產モ亦年々其產額ヲ增加スルノ勢ナルヲ以テ當地ノ商業ハ決シテ退步スルコトナク依然トシテ進步スルノ勢ナリ又當地有力ノ商人間ニハ熱心ニ築港及「ドック」設置ノ計畫ヲナスモノアリ又小樽函館間ノ鐵道モ亦漸次布設ノ計畫ナリト聞ク若シ此レ等ノ事業ニシテ完成スルニ至ラハ當港ノ商業ハ又著シキ進步ヲ現ハシ本道各地ノ產出增加スト同時ニ當港ニ集散スル貨物益〻多キヲ加ヘ其他石炭積入船舶修繕(「ドック」設立ノ時ニ至レハ)等ノ爲メ當港ニ出入スル內外國船舶ノ數モ大ニ增加スルニ至ルヘシ

當地方ノ商況ハ以上陳ヘタルカ如クナルヲ以テ目下ノ狀況ニ於テモ切ニ金融ノ大機關タル中央銀行支店設置ノ必要ヲ見ルノミナラス清國トノ貿易ノ如キハ戰勝ノ結果ニ依リ著シキ盛況ヲ見ルヘク內外ノ商業將來益〻進歩シテ愈〻資本ノ不足ヲ告クルニ至ルヘキヲ以テ函館ニ於テ日本銀行支店ノ設置ハ北海道竝ニ東北地方ノ金融ヲ調和シ事業ノ進歩發達ヲ來タスニ於テ最モ緊要ノ擧ナリト信ス

日本銀行總裁川田小一郎ハ次テ同月二十八日ヲ以テ事務取扱ノ爲メ假條規ヲ制定シテ之ヲ大藏大臣松方正義ニ屆出テタリ左ノ如シ

今般北海道支店設置ノ儀御許可相成候ニ付テハ右支店假條規差向キ別紙ノ通相定メ事務ノ取扱ニ從事爲致候尤支店內規等ノ儀ハ追テ編成ノ上更ニ相伺可申候此段御屆仕候也

明治二十八年六月二十八日

日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

日本銀行北海道支店假條規

第一條　日本銀行北海道支店職員左ノ如シ

支店長　支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

書記

手代

第二條　前條職員ノ外雇及見習ヲ置ク

第三條　支店長ハ支店全般ノ事務ヲ綜理シ書記以下ヲ監督シ札幌出張所ヲ管轄シ總裁ニ對シ一切ノ責ニ任シ其處辨方ニ關シテハ主任理事ノ證認ヲ經テ之ヲ爲サシム

第四條　支店ノ各係ニ專務書記ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツ課務ノ整理ニ關シ支店長ニ對シ一切ノ責ニ任セシム

第五條　書記手代及傭員ハ支店ニ專屬シテ諸般ノ事務ニ從事セシム

第六條　日本銀行北海道支店中ニ左ノ四係ヲ置ク

金庫係
國庫係
營業係
文書係

第七條　金庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　現金及地金銀ノ保管出納

第八條　國庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　金庫全般ノ事務

第九條　營業係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　營業ニ關スル諸般ノ事務
一　諸公債取扱ノ事務
一　銀券交換ノ事務

二　諸保護預リノ事務

第十條　文書係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　一般文書ノ取扱及計算ノ整理

一　支店經費一切ノ取扱

第十一條　支店長事故アルトキハ首席書記代理スヘシ

第十二條　支店事務上一般ノ文書ハ總テ支店ノ名義ヲ以テ署名捺印スルモノトス

第十三條　本規定ニ該當セサルモノハ條例及定款其他本店規定ノ諸規則ニ準據スルモノトス

第四ニ設立セシハ愛知縣名古屋市ナリ夫レ名古屋ハ商業上樞要ノ地ニシテ經濟上輕々ニ看過スルヲ許サヽルモノアリ之ヲ發達セシメ之ヲ利用スルニハ同地ニ中央銀行ノ支店ヲ設置シ以テ金融ノ疏通ヲ便スルニ若クハナシ卽チ明治三十年新ニ玆ニ其支店ヲ設立シ同時ニ津派出所ヲ廢シテ從來同所ニ於テ取扱ヒ來リタル事務ハ凡テ之ヲ同支店ニ移シタリ

「文」第五七號

今般本行名古屋支店設立ノ儀御許可相成候ニ付テハ右支店假條規差向別紙ノ通相定メ事務ノ取扱ニ從事爲致候尤支店內規等ノ儀ハ追テ取極メ更ニ相伺可申候此段御屆仕候也

明治三十年二月六日

日本銀行總裁　岩崎彌之助

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

追テ名古屋支店印竝支店長印別紙ノ通ニ有之候此段添テ御屆仕候也

日本銀行名古屋支店假條規

第一條　日本銀行名古屋支店職員左ノ如シ

支店長　支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

書記

手代

第二條　前條職員ノ外傭及見習ヲ置ク

第三條　支店長ハ支店全般ノ事務ヲ綜理シ書記以下ヲ監督シ總裁ニ對シ一切ノ責ニ任ス

第四條　支店ノ各係ニ主任ヲ置キ書記ヲ以テ之ニ充ツ課務ノ整理ニ關シ支店長ニ對シ一切ノ責ニ任セシム

第五條　書記手代及傭員ハ支店ニ專屬シテ諸般ノ事務ニ從事セシム

第六條　日本銀行名古屋支店中ニ左ノ五係ヲ置ク

金庫係

國庫係

營業係

公債係

文書係

第七條　金庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　現金及地金銀ノ保管出納

第八條　國庫係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　金庫全般ノ事務

第九條　營業係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　營業ニ關スル諸般ノ事務

一　銀券交換ノ事務

第十條　公債係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　諸公債取扱ノ事務

一　諸保護預リノ事務

第十一條　文書係ハ左ノ事務ヲ掌ル

一　一般文書ノ取扱及計算ノ整理

一　支店經費一切ノ取扱

第十二條　支店長事故アルトキハ首席書記代理スヘシ

第十三條　支店事務上一般ノ文書ハ凡テ支店長ノ名義ヲ以テ署名役印ヲ押捺スルモノトス

第十四條　本規定ニ該當セサルモノハ條例及定款其他本店既定ノ諸規則ニ準據スルモノトス」

以上述ヘタル如ク明治十五年十二月大阪ニ支店ヲ設置セシ以來明治二十六年十月西部支店ヲ設ケ翌二十八年六月北海道支店ヲ置キ明治三十年三月ニ至リ更ニ名古屋支店ヲ設置シ各支店假條規ニ據リ營業ヲ實施シ來リシカ明治三十年九月三日ニ至リ日本銀行支店條規ヲ定メ玆ニ從來ノ各店特定ノ條規ハ消滅スルニ至レリ然ルニ明治三十二年一月ヨリ日本銀行內規全部改定セラレ

支店ニ關スル條項モ亦其中ニ規定セルヲ以テ支店條規モ亦廢止ニ歸セリ

第三款　出張所設置

明治二十四年三月日本銀行ハ國庫金ノ保管及ヒ出納、諸公債ノ事務取扱竝ニ爲替業務ヲ營ム爲メ岐阜縣下岐阜市及和歌山縣下和歌山市ヘ其出張所ヲ設置センコトヲ上申シテ同月三日之カ許可ヲ得タリ

日本銀行條例第二條ニ據リ岐阜縣下岐阜市及和歌山縣下和歌山市ヘ本行出張所ヲ設置シ本年四月一日ヨリ國庫金ノ保管出納諸公債ノ事務ヲ取扱且ツ爲替ノ業務ヲ相營ミ度候間御許可被下度此段稟請仕候也

明治二十四年三月二日

日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

追テ明治二十二年勅令第百二十六號金庫規則中支店トアルハ總テ出張所ト通視致度此段爲念上申仕候也

（右指令）

明治二十四年三月二日文祕第七號稟請岐阜縣下及和歌山縣下ヘ出張所設立之件認可ス

大藏大臣　伯爵　松方正義

然ルニ岐阜出張所ハ明治二十五年三月三十一日限リ之ヲ廢止セリ

明治二十六年二月ニ至リ國庫金ノ保管及出納諸公債ノ事務取扱竝ニ爲替ノ業務ヲ營ム爲メ北海道廳管下札幌函館根室ノ三箇所ヘ出張所ヲ設置セシコトヲ上請シ同月四日其許可ヲ得タリ

日本銀行條例第二條ニ據リ北海道廳管下札幌函館根室ノ三箇所ヘ本行出張所ヲ設置シ本年四月一日ヨリ國庫金ノ保管出納諸公債ノ事務ヲ取扱且爲替ノ業務ヲ相營度候間御許可被下度此段稟請仕候也

明治二十六年二月四日

日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　渡邊國武殿

（右指令）

明治二十六年二月四日稟請出張所設置ノ件認可ス

明治二十六年二月四日

大藏大臣　渡邊國武

尋テ明治二十七年二月從來ノ和歌山出張所ヲ廢シ新ニ京都出張所ヲ設置スルコトヽシ二月二十三日之ヲ大藏省ニ上請シ同月二十六日其認可ヲ得タリ

明治二十四年三月五日御認可ヲ得テ和歌山市ヘ本行出張所ヲ設置致居候所今般都合ニ依リ本年三月三十一日限リ相廢シ更ニ日本銀行條例第二條ニ據リ京都府下京都市ヘ本行出張所ヲ設立シ本年四月一日ヨリ國庫金ノ保管出納諸公債ノ事務ヲ取扱且爲替ノ業務ヲ相營

ミ度候間御許可被下度此段併而稟請仕候也

明治二十七年二月二十三日

日本銀行總裁　川田小一郎

追テ本文御許可ノ上ハ大津本金庫事務ノ儀ハ京都出張所ヨリ派出事務取扱致度此段添テ上申仕候也

（右指令）

明治二十七年二月二十三日文祕第十九號稟請和歌山出張所廢止京都出張所設立ノ件認可候條新設出張所ノ番地更ニ屆出スヘシ

但設立ノ上ハ每月報告表每日報告表竝出張所印鑑役員姓名印鑑差出スヘシ

明治二十七年二月二十六日

大藏省

然ルニ京都出張所ハ從來金庫及諸公債事務竝ニ爲替ノ業務ヲ取扱來リシカ明治三十年四月一日ヨリ其ノ業務ヲ擴張シ貸付割引等一般ノ業務ヲ營ムコトヽナレリ

明治二十七八年戰役ノ結果新ニ臺灣ノ我版圖ニ歸スルヤ政府ハ該地國庫金ノ取扱ヲ爲サシムルノ必要ヨリ明治二十九年十月十六日臺灣ニ本支金庫ヲ開始スルノ旨ヲ告示セリ是ニ於テ日本銀行ハ臺北ニ出張所ヲ置キ臺南臺中鳳山媽宮城ノ四箇所ニ派出所ヲ設ケ國庫金取扱ノ事務ヲ開始シ以テ其告示ノ旨ニ從ヘリ

臺北出張所職員竝ニ事務分掌

職員

一　出張所長　一人　支配役又ハ副支配役ヲ以テ之ニ充ツ

一 書記　若干名
一 手代　若干名
右ノ外傭員ヲ置ク
事務分掌
一 金庫係
一 國庫係
一 營業係
一 文書係
各係ニハ係長又ハ主任ヲ置カス所長ニ於テ之ヲ主掌スルモノトス
又同年二月、日本銀行ハ横濱正金銀行倫敦支店ニ代理ヲ委任シテ清國償金保管出納ノ事務ヲ取扱ハシム依テ同店ニテハ直ニ其業務ヲ開始セリ
是ヨリ先キ明治二十八年六月北海道函館ニ支店ヲ設置シタル結果函館出張所ヲ廢シ根室出張所ハ派出所ト爲レリ
而シテ小樽ヘハ派出所ヲ設ケ以テ金庫及諸公債事務ヲ取扱ハセ同年十一月ヨリ更ニ爲替其他ノ業務ヲ營ミ來リシカ後三十年十一月更ニ又業務ヲ一層擴張シ從テ其名義モ之ヲ改メテ小樽出張所トナシタリ
又三十二年福島ニ出張所ヲ新設セリ蓋シ奥羽地方ハ生絲竝ニ米穀等重要ノ物產少カラス而カモ金融動モスレハ擁塞シテ天賦ノ發達得テ之ヲ遂クルニ由ナシ且夫レ此年五月ヲ以テ奥羽鐵道米

澤福島間ノ開通アリ陸羽交通漸ク其端ヲ開キテ日本銀行支店若クハ出張所ノ設置ヲ必要トスル愈〻切ナルニ至ル卽チ之レ地ヲ福島町ニトシテ先ツ此ニ其出張所ヲ設ケシ所以ナリ
今般東北地方金融ノ便利ヲ謀ル爲メ福島縣下福島ニ本行出張所ヲ設立致度候間御許可被下度條例第二條ニ據リ此段稟請仕候也

明治三十二年六月三日
大藏大臣 伯爵 松方正義 殿
日本銀行總裁
山本達雄

追テ出張所名稱之儀ハ「日本銀行福島出張所」ト相稱シ可申此段添テ上申仕候也
（右指令）
明治三十二年六月六日
大藏大臣 伯爵 松方正義
明治三十二年六月三日附祕第一六號稟請福島出張所設立ノ件認可ス
而シテ同年九月新ニ臺灣銀行ノ設立アリ國庫事務ヲ擧ケテ凡テ之ニ囑託シタルヲ以テ臺北出張所ハ之ヲ廢止セリ

第六節 資本金

第一款 政府ノ拂込金

日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ニシテ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓ト定メ資本金增加ノ必要アルトキハ株主總會ノ決議ニ依リ其增加ヲ請願スルコトヲ得ヘシ而シテ資本金總額五分一卽貳百萬

圓ノ入金アル時ハ營業ヲ開始スルヲ得ヘク資本金募集ノ手續ハ定款ノ定ムル所ニ依ルヘキコトハ日本銀行條例第四條及第七條ノ規定スル所ナリ日本銀行ハ此條例ノ下ニ於テ明治十五年十月十日其第一回入金貳百萬圓ヲ以テ營業ヲ開始セリ是レ實ニ開業當時ニ於ケル同行ノ營業資本ナリトス而シテ日本銀行ハ中央銀行トシテ國家ニ對シ實ニ多大ノ義務ヲ負擔セルカ故ニ政府ハ之ヲ保護センカ爲ニ特ニ其資本金壹千萬圓ノ中其半額卽チ五百萬圓迄ヲ引受ケ之カ株主トナリ其持株二萬五千株ニ對スル第一回ノ入金額壹百萬圓ヲ十月二日ヲ以テ日本銀行ニ交付セリ

夫レ政府カ日本銀行ニ對シ其大株主トナレル所以ノモノハ固ヨリ保護助成ノ意ニ出テタルモノニシテ敢テ人民ト共ニ利ヲ爭フカ爲メニアラス從テ其利益金配當ニ至テモ亦一般人民ノ株主タル者ト異同ナカル可ラス卽日本銀行定款ニ於テハ第三十六條ヲ以テ純益金ハ人民所有ノ株金現拂込高ニ對シテハ年六分(卽半季三分)ノ割合ヲ以テ配當スルモ政府所有ノ株金現拂込高ニ對シテハ年六分(卽半季四分)ノ割合ヲ以テ配當ス

右配當金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ積立テ其殘額十分ノ一ヲ理事監事ノ賞與金ニ充テ以上各配當金積立金賞與金ヲ引去リタル殘額ヲ總株ニ配當スヘキコトヽ定メタリ

今開業當時ニ於ケル同行營業ノ模樣ヲ窺フニ資本ノ運轉甚タ不十分ニシテ貳百萬圓ノ營業資金ニシテ動モスレハ徒ラニ庫底ニ眠ラントスルノ狀況ナリシヲ以テ同年十月二十日、日本銀行副總裁富田鐵之助ハ資本ノ運轉未タ充分ナラサルヲ以テ七分利付金祿公債證書實價五拾萬圓丈ケ當分買入レンコトヲ大藏卿ニ請願シ其許可ヲ得テ之ヲ實行セリ斯ノ如ク資本ノ運轉充分ナラス從テ利益金大ナル能ハサルヲ以テ若シ定款ノ規定スル所ニ從ヒ其利益金ヲ一般株主ニ分配スルニ於テハ其割合之ヲ他ノ銀行ニ比シ甚タシキ軒輊アリ株主ノ感情上ニ於テ將タ同行信用ノ上ニ在リテ頗ル憂慮スヘキモノアリシヲ以テ定款ノ規定ニ依レハ一般株主ハ政府ニ比シ旣ニ其分配上甚タシキ特點ヲ有スルニ拘ラス明治十六年七月二十五日、日本銀行總裁吉原重俊ヨリ更ニ一般株主ニ對シテノミ再配當ヲ爲サンコトヲ大藏卿ニ請願セリ卽左ノ如シ

本行兩季勘定ノ純益再配當ノ割合ハ定款第三十六條ニ揭載候通御許可ヲ受ケ相定メ可申儀ニ有之就テ本年上半季勘定ノ割合ハ別紙計算書ノ通人民株高ヘ對シテノミ年二分ノ再配當ヲ爲シ候事ニ取調相伺候條何卒右御免許被下度重役集會ニ於テ決議監事集會承諾ノ上此段奉願候也

明治十六年七月二十五日

日本銀行總裁 吉 原 重 俊

大藏卿 松 方 正 義 殿

仰ヶ政府カ其配當僅ニ年六分ヲ以テ甘ンスルモノハ時ニ或ハ再配當アリ之ヲ補充スルコトヲ得ルカ故ナリ然ルニ又獨リ人民ニ配當センストスル所以ノモノハ日本銀行ハ啻ニ中央銀行トシテ國家ニ對シ多大ノ責任ヲ有スルノミナラス又其盛衰ハ直ニ斯界ノ消長ニ影響ヲ及ホシ創業ノ際早クモ株主ニ不安ノ念ヲ與フル如キハ理財上深ク愼ムヘキコトタルヲ以テ政府ハ右ノ出願ニ對シ八月六日其允許ヲ與ヘタリ

斯ノ如ク政府ハ其資本金ニ就テモ常ニ之ヲ保護スル所ナリシカ越ヘテ明治十七年十二月十九日太政大臣三條實美ヨリ大藏卿ニ向テ左ノ如ク令達セリ

一 金五百萬圓

大 藏 省

内
金貳百五拾萬圓　日本銀行株金トシテ
金貳百五拾萬圓　政府ヨリ入金済ノ分
右株金ノ内
入金スヘキ分

一　金百萬圓　横濱正金銀行補助
合金六百萬圓　トシテ下付ノ分

右之金額　帝室資產ニ被屬候條來十八年一月ヨリ宮內省へ可引渡此旨相達候事

但授受ノ儀ハ宮內卿ヘ協議可取計事

明治十七年十二月十九日

太政大臣　公爵　三條實美

是ニ於テ政府所有ノ日本銀行株五百萬圓ハ帝室財產ニ編入セラルヽニ至レルヲ以テ翌十八年二月二十日其所有ノ株式五萬株ヲ悉ク宮內省ヘ引渡シ從テ其株券名義モ凡テ之ヲ內藏頭ト改メシメタリ其達左ノ如シ

金五百萬圓　日本銀行株金大
藏省所有ノ分

內
金貳百五拾萬圓　入金済ノ分
金貳百五拾萬圓　追テ入金スヘキ分

右之金額明治十八年一月ヨリ　帝室資產ニ被屬候條此旨相達候事

日本銀行

但株券名義ノ儀ハ內藏頭ト相改候儀ト可相心得事

明治十八年二月二十日

右ニ關シテ日本銀行ハ其取扱方疑義ニ渉ルモノアルヲ以テ左ノ如ク大藏省ニ伺出テタリ

本行資本金ノ中政府御引受ノ分本年一月ヨリ　帝室御資產ヘ被相屬候旨去ル二月二十日附ヲ以テ御達相成候ニ付右心得方左ニ相伺候

一　帝室御所有ノ本行株券ニ對シ純益金計算方卽チ定款第三十六條及昨十七年一月請願面ニ同二月十四日附御指令ノ廉等如何樣相心得可然哉

一　株券ニ屬スル總テノ權利義務ハ定款第十八條ノ通リ相心得ヘキヤ果シテ然ラハ爾今定式及臨時株主總會ニ於テ要スル招集狀其他報告等ハ內藏頭ヘ宛相發スヘキ哉

右至急何分ノ御指令被下度此段上申仕候也

明治十八年三月二十七日

大藏卿　伯爵　松方正義　殿

（右指令）

伺之趣左ノ通可相心得候事

第一項　總テ政府所有中ト同樣ニ相心得定款第三十六條第二項政府ノ文字ヲ帝室ト更正致スヘシ

第二項　伺之通

日本銀行副總裁　富田鐵之助

爾來政府所有ノ株式ニ對スル日本銀行トノ關係ハ全ク斷絕シテ宮內省ニ移リタルモ其帝室資產中ニ換屬セシ後ト雖モ其株式ニ對スル利益金配當ノ割合ハ之ヲ政府カ所持セシ時ト毫モ異ナル所ナク一般株主ニ對シテハ常ニ二分高ノ割合ヲ以テ配當シ來リシカ明治二十年三月ヨリハ之ヲ平等ニシ內藏頭名義ノ株券ニ對シテモ尙ホ一般株主ト同一ノ割合ヲ以テ配當スルニ至レリ其事由ハ左ノ文書ニ徵シテ明カナリ

明治二十年三月三十一日銀行局次長上床熙載提議

日本銀行純益金ノ儀ハ定款第三十六條ニ依リ人民持株ヘハ年八分政府持株ヘハ年六分ノ割合ヲ以テ配當致シ來候處右ノ如ク差等ヲ付シ候ハ全ク該行創立ノ際兌換券發行ノ如キ特權ヲ附與セラレタル事業モ未タ之ヲ實施スルノ場合ニ至リ難ク當時ノ情勢不得已ニ出候儀ニ有之然ルニ今日ニ至リ候テハ其事業漸ク伸張シ旣ニ兌換券發行ノ實施ヲ許サレ其流通高モ益〻巨額ニ達スルノ運ニ赴キ候上ハ最早此ノ如キノ等差ヲ要セス爾後ハ政府人民平等ノ割合ト相成可然且又國庫局ノ儀ハ該行中最重要ノ事務ヲ處理スルノ局部ニ屬スルヲ以テ他ノ諸局ト少シク區別ヲ立候方可然トノ主旨ニテ各局ノ首位ニ列ス可キ旨曾テ御指令相成居候處實際各局ノ組織及ヒ執務上ニ於テ不都合ノ廉モ有之ニ付文書局ヲ首位ニ置キ度其他國庫局吏員選任ノ手續上ニ付テ該行ヨリ內申ノ趣モ有之候事情尤ニ相聞ヘ候間左按ノ通夫々御達相成可然哉此段相伺候也

其銀行定款第三十六條及第八十五條第二項ヲ左ノ通改正シ同第五十三條第六十三條中四項ノ二字ヲ三項ト改ム可シ此旨相達ス

第三十六條

純益金ハ左ノ割合ヲ以テ分配ス可シ

第一　總株金現拂込高ニ對シ年六分ノ割合ヲ以テ配當ス可シ

第二　右配當金ヲ引去リ其殘額ヨリ少ナクトモ十分ノ一ヲ積立金ト爲ス可シ

第三　右同殘額ノ十分一迄ヲ役員賞與金竝交際費トシテ引去ル可シ但其割合ハ內規ヲ以テ定ムルモノトス

右三項ヲ差引キ其殘額ハ總株ヘ配當ス可シ尤モ其割合ハ時々大藏大臣ノ許可ヲ受ク可シ

第八十五條第二項

右株主總會ハ出席員所有ノ株數六萬個ニ滿ツルニ非サレハ其事件ヲ議決スルヲ得ス

明治二十三年三月三十一日

大藏大臣　伯爵　松方正義

第二款　資本金ノ增加

日本銀行カ第一回拂込資本金僅ニ貳百萬圓ヲ以テ營業ヲ爲シ來リシカ而モ資本金ノ缺乏ヲ感スル所アラサリシノミナラス寧ロ其資本ノ多キヲ憂ヘテ常ニ其運轉ニ苦ミ時ニ或ハ公債ヲ買入レタルカ如キ亦タ窮餘ノ一方便タリシナリ然リ而シテ明治十八九年ノ頃ヨリ少シク其資金ノ不足ヲ訴ヘ明治二十年ニ及ヒテハ速ニ之ヲ增加スル

ニアラサレハ其營業上大ナル支障ヲ生スルニ至レリ蓋シ當時同行ノ準備已ニ成リテ其營業ノ範圍亦甚シク伸張セシニ加ヘテ政府發行ノ紙幣交換處分ノ爲メ兌換券ノ發行高日ニ月ニ益〻增加シ其事業ニ對スル資力ノ權衡玆ニ其平均ヲ失シタルニ依ラスンハアラス

是ニ於テ乎明治二十年二月十九日資本未拂込殘額五百萬圓ハ尙ホ直ニ之ヲ得ヘキニ拘ラス其株主總會ニ於テ更ニ資本金壹千萬圓ヲ增加シ新ニ株券ヲ發行セン事ヲ決議シテ日本銀行條例第四條ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ請願シタルニ大藏大臣ハ閣議ヲ經テ之ヲ允許セリ

閣議案

豫テ上申仕置候當銀行資本金壹千萬圓增加之儀別紙議題竝ニ說明相添本日株主總會ノ討議ニ付シ候處出席員持株總數三萬二千九百五十七株此權利數七百三十四個ノ內一個ヲ除キ盡ク贊成可決仕候ニ付何卒速ニ御許可被成下度條例第四條竝ニ定款第七條ニ據リ此段請求仕候也

明治二十年二月十九日

日本銀行總裁 吉原重俊

大藏大臣 伯爵 松方正義 殿

明治二十年二月十九日株主總會議題

一 本行現在ノ資本金壹千萬圓ヘ更ニ壹千萬圓ヲ增加シ新タニ株券ヲ發行スル事

此方法

第一項 增加新株ハ現在ノ株式同樣其數ヲ五萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ貳百圓ト定ムル事

第二項 增加株金ハ一株ニ付百圓宛總計五百萬圓ヲ此際募集シ殘半額ハ現在ノ株式同樣定

款第九條ノ末項ニ從ヒ未拂殘額ト爲シ置ク事

第三項 增加新株ハ價格ヲ定メテ發賣シ而シテ其價格ヲ百七拾五圓トシテ現在ノ株主ニ於テ之ヲ引受クルモノトス右ニ由テ生スル處ノ差益ハ本行積立金ニ組入ルヘシ

但事故アリテ募集ニ應シ難キ株主ニ對スル分ハ他ノ株主ニ於テ引受クヘシ

第四項 增加株金ノ拂込ミハ本年六月竝十二月ノ兩度トシ其割合及期限ヲ左ノ通定ムル事

第一回(一株ニ付五拾圓)此發賣價格八拾七圓五拾錢

右ハ明治二十年六月十五日ヨリ同月三十日迄ニ入金

第二回(一株ニ付五拾圓)此發賣價格八拾七圓五拾錢

右ハ明治二十年十二月十五日ヨリ同月三十一日迄ニ入金

以上

議題說明

本行現在ノ資本金ハ金額壹千萬圓ニシテ實際拂込ノ額ハ其半額卽チ五百萬圓ナリ然ルニ業務益〻擴張シ殊ニ兌換券ノ發行高次第ニ巨額ニ及フヘキノ實況ナルニ付現在ノ資本高ハ之ヲ事業ニ比スレハ到底不足ニシテ甚タ權衡ヲ失セリ依之今般更ニ壹千萬圓ヲ增加シ前後通計貳千萬圓ノ資本ト爲サンコトヲ必要トス尤現在株式ノ拂込殘額五百萬圓ヲ追募スレハ實力ニ於テ妨ケナキニ似タリト雖モ然ルトキハ全體ノ資本總額ノ多キヲ加ヘサルカ故尙不權衡ノ嫌ヲ免カルヽ能ハス此則チ前陳資本金ノ增加ヲ必要ナリトスル所以ナリ

此增加資本募集ノ方法ニ至リテハ一ニ泰西ノ例證ニ準據シ稱價ト發賣價格ヲ區別シ稱價百圓

ノ一株ヲ價格百七拾五圓(客年來ノ時價ヲ斟酌シテ定メシモノナリ)ニテ發賣シ由テ生スル處ノ差益ハ本行積立金ニ編入スルモノトシ而シテ新株ハ悉皆之ヲ現在(二月十九日)ノ株主各位ヨリ募集スルコトヽナサントス此發賣價格ト稱價トヲ區別セシ理由ハ資本額ノ增加スルニ隨テ共ニ積立準備ノ增殖ヲ謀ルハ行務上最モ緊要ノコトナルヲ以テナリ是レ蓋シ株主各位ニ對シテ最モ公正ナル處分ニシテ實ニ西曆千八百五十七年佛蘭西ノ中央銀行ニ於テ其資本ノ倍額ヲ增募シ又千八百七十三年白耳義ノ中央銀行ニ於テモ同樣ノコトヲ擧行セシ時ノ的例ヲ引用セシモノナリ右資本增加新株發行ノ儀ハ本行重役集會及ヒ銀行總會ニ於テ必要ナリト認定セシヲ以テ條例第四條竝ニ定款第七條ニ據リ爰ニ本會ニ提出シテ各位ノ討議ニ付ス可決セラルヽニ於テハ直ニ政府ニ請願シテ其許可ヲ仰カント欲スルナリ

明治二十年二月十九日

當銀行增加株式五萬箇ニ對スル第一回拂込金四百參拾七萬五千圓內貳百五拾萬圓ハ株金、百八拾七萬五千圓ハ差金之高本年六月十五日ヨリ同月三十日迄ニ悉皆入金相濟候條此段御屆仕候也

明治二十年七月八日

日本銀行總裁 吉原重俊

大藏大臣 伯爵松方正義 殿

閣議案

日本銀行ヨリ資本金增加ノ儀別紙ノ通及出願候處該行資本金ノ儀ハ日本銀行條例第四條ニ依リ先ツ壹千萬圓ト定メ其ノ內五百萬圓ヲ拂込ミ以テ營業ノ資本ニ充テ來リ候處近來該銀行ノ業務次第ニ伸張シ殊ニ政府發行ノ紙幣交換處分ノ爲メ該行免換券ノ發行高日ヲ逐フテ增加シ

今日ニ於テ旣ニ參千八百五拾萬圓餘ノ巨額ニ及ヒ其事業ニ對シテ資力ノ較々不權衡ナルヲ感スルニ至レリ尤右資本金ノ拂込殘額猶五百萬圓アルヲ以テ之ヲ追募スルヲ得ヘシト雖モ總額壹千萬圓ノ資本ニテハ現今ノ事業ニ對シテモ猶其權衡ヲ得サルノ憾ナキニアラス況ンヤ將來益〻事業ノ擴張ヲ謀ラントスルニハ到底其全資力ヲ培殖スルニ非サレハ十分ニ其目的ヲ達スルヲ得サルノ憂モ有之旁〻資本金增加ノ今日ニ必要ナルヲ感シ遂ニ本月十九日ノ株主總會ニ於テ別紙ノ通決議ノ上條例第四條ニ依リ及出願候次第實ニ目下緊要ノ計畫ニ有之且其募集等ノ方法モ極メテ至當ト相認メ候間願ノ通許可ヲ與ヘ日本銀行條例第四條但書ニ據リ同銀行資本金ヲ增加シテ總額貳千萬圓ト爲シ更ニ五萬株ヲ募集スルコトヲ許可セシ旨當省ヨリ告示候樣致度依テ至急閣議ヲ要ス

明治二十年二月二十八日

大藏大臣 伯爵松方正義

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文 殿

請議ノ通

內閣總理大臣之印

明治二十年三月十四日

第三十號告示

明治十五年六月第三十二號布告日本銀行條例第四條但書ニ依リ同銀行資本金ヲ改メテ總額貳千萬圓ト爲シ更ニ五萬株ヲ增加スルコトヲ許可ス

大藏大臣 伯爵松方正義

明治二十年三月十五日

是ニ於テ日本銀行ノ資本金ハ總額貳千萬圓トナリ實ニ從來ノ倍額ニ達セシカハ業務ト資力トノ權衡ヲ得テ營業上何等ノ支障ヲ見サルニ至レリ然ルニ明治二十七八年日清戰役アリ爲メニ我邦ノ經濟及財政ハ至大ノ影響ヲ蒙リ各般ノ事業勃興ノ運ニ嚮ヒタレハ日本銀行ハ其業務ヲ一層伸張スルノ必要ヲ生シテ遂ニ再ヒ資本金ヲ增加スルニ至レリ

當時日本銀行ノ資本金ハ其總額貳千萬圓ニシテ拂込金壹千萬圓ヲ除クモ未拂込ニ屬スルモノ尙ホ壹千萬圓アリ若シ現狀ヲ維持スルニ止マラシメハ假令兌換券ノ發行額甚タ增加ヲ呈スルモノアリト雖モ未拂込資本ヲ追徵シテ之ニ供フレハ敢テ障碍アラサルヘキモ今ヤ日本銀行ハ經濟界ノ輿望ニ從ヒ更ニ其業務ヲ伸張スヘキ時期ニ到達セシヲ以テ卽チ日本銀行ハ明治二十八年八月十七日臨時株主總會ヲ開キテ現在ノ資本金貳千萬圓ノ外更ニ壹千萬圓ヲ增加シ特別配當金ヲ以テ直ニ其第一回拂込金ニ充用スル事及ヒ定款第九條末項竝ニ第八十五條第二項改正ノ事ヲ議決シ直ニ之ヲ大藏大臣ニ請願シテ卽日其許可ヲ得タリ左ノ文書ニ就テ其詳細ヲ知ルヘシ

日清戰爭事件漸ク其局ヲ結ヒ候上ハ是ヨリ本行カ益〻業務ヲ伸張シ經濟社會ノ輿望ニ副フハ國家ニ對スル義務ニ可有之然ルニ業務ノ伸張ハ實ニ資力ノ多少ニ伴フヘキヲ以テ先ツ資力ヲ增加シテ之レカ鞏固ヲ圖ルハ今日ノ急務ニ可有之ト奉存候而シテ本行ノ資力タル現在株式ノ拂込殘額尙壹千萬圓有之候ニ付之レヲ追募スレハ實力ニ於テ敢テ妨クル處ナキカ如シト雖モ今ヤ兌換券ノ發行高モ次第ニ巨額ニ達スヘキヲ以テ資本ノ高ヲシテ事業ニ相當スルノ點ニマテ達セシメ兩者ノ權衡ヲ保持スルハ寔ニ時勢ノ已ヲ得サル所ニ有之果シテ然ラハ本行カ內外ニ對スル責任彌〻重大ト相成候ヲ以テ尙ホ何時ニテモ追募シ得ラルヘキ餘地ヲ存シテ以テ益〻信用

ヲ鞏固ナラシムル儀必要ト奉存候ニ付現在ノ資本金貳千萬圓ニ更ニ壹千萬圓ヲ以テシテ總額ヲ參千萬圓トシ新ニ株券ヲ發行シ此新株ハ之ヲ五萬個ニ分チ舊株同樣一株ノ額面ヲ貳百圓トシ而シテ一株ニ付此際百圓ヲ拂込マシムルコトヽシ然テ此拂込ニハ二十八年上半季ニ於ケル特別割賦金ヲ轉用スルノ議ヲ株主總會ノ討議ニ付シ候處該會ニ於テ可決致シ候ニ付御許可相成度此段上申候也

明治二十八年八月十七日

日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

追申前陳新株拂込ノ後ハ更ニ短期間ニ於テ新舊總株ニ對シ五拾圓ツヽヲ追募可致計畫ニ有之候也

本行定款第九條末項及第八十五條第二項更正ノ儀別紙議題竝ニ說明ヲ以テ本日株主總會ノ討議ニ付シ候處出席員持株總數七萬三千九百三十三個ニシテ此投票權利數千五百十個卽チ全會ノ一致ヲ以テ可決仕候ニ付御許可被成下度條例第二十三條竝ニ定款第八十五條ニ據ヲ此段請願仕候也

明治二十八年八月十七日

日本銀行總裁　川田小一郎

大藏大臣　伯爵　松方正義　殿

明治二十八年八月十七日株主總會議題

定款ノ變更

本行定款第九條末項及第八十五條第二項ヲ左ノ通更正スル事

第九條　末　項

百圓拂込以後ノ拂込ハ銀行ノ都合ニ依リ募集スヘシ但其拂込金額ハ一回毎ニ一株ニ付貳拾圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多カラサルモノトス其拂込期日ハ二箇月以前ニ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ廣告スヘシ

（參照）

第九條　末　項

第五回以降ハ銀行ノ都合ニ由リ募集スヘシ而シテ其期限ハ少ク共六箇月以前ニ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ廣告スヘシ但其金額ハ一回毎ニ一株ニ付貳拾圓ヨリ少ナカラス四拾圓ヨリ多カラサルモノトス

第八十五條　第二項

右株主總會ハ出席員所有ノ株數九萬個ニ滿ツルニ非レハ其事件ヲ議決スルヲ得ス

（參照）

第八十五條　第二項

右株主總會ハ出席員所有ノ株數六萬個ニ滿ツルニ非レハ其事件ヲ議決スルヲ得ス

右定款變更ノ儀ハ本行重役集會及銀行總會ニ於テ必要ナリト認メシヲ以テ條例第二十三條竝ニ定款第八十五條ニ據リ之ヲ本會ニ提出シテ各位ノ討議ニ付ス可決セラルヽニ於テハ直ニ政府

ニ請願シテ其允許ヲ仰カント欲スルナリ

明治二十八年八月十七日

日本銀行

定款變更ノ理由說明

一　株金拂込金額四拾圓ヲ五拾圓ト改メ又其拂込期限六箇月ヲ二箇月ト改メントスルハ輓近金融機關ノ發達及廣告方法ノ利便實ニ定款設定當時ノ比ニ非ルヲ以テ拂込額ノ程度ヲ擴張スルモ妥當ヲ缺クノ嫌ナク又豫告ニ長期限ヲ要セサルヲ以テナリ

一　株主總會議決ニ要スル出席員所有ノ株數六萬個ヲ九萬個ニ改メントスルハ卽チ今回株金增加ニ付從來ノ比較上之ヲ更正セサレハ其權衡ヲ得サルニ因ル

以上

日本銀行

第三課長提議（明治二十八年八月十六日）

將來本邦經濟ノ趨勢ヲ按スルニ大ニ擴張發達スヘキハ疑ヲ容レサル所ニシテ金融ノ中央機關タル日本銀行ノ業務ノ擴張隨テ資力ノ增加ハ寔ニ必要ノ事ニ屬ス此際ニ當テ別紙ノ如キ出願有之候上ハ速ニ甲案ノ通閣議御提出相成閣議御決定ノ上乙案ノ通指令ヲ丙案ノ通告示相成可然哉此段相伺候也

追テ資本增加ノ認可權ハ條例第四條及定款第七條ニ依リ政府ニ一任シアルヲ以テ別ニ法律ノ改正ヲ要セサルハ勿論ナレトモ事體頗重大ニシテ且條例定款中大藏大臣限リニテ決行シ得ヘキ他ノ事項トハ法文上區別アルノミナラス前例モ有之候ヲ以テ閣議ヲ經テ認可スヘキ

モノト相認申候

閣議案

本邦經濟ノ趨勢ヲ案スルニ將來大ニ擴張發達スヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ果シテ然ラハ金融ノ中央機關タル日本銀行ノ業務擴張隨テ之レカ資力ノ增加ハ最モ緊要ノ事ニ屬ス殊ニ該行兌換券發行高ノ如キモ壹億四千萬圓以上ニ上リタル今日其事業ニ對シ資力稍權衡ヲ失セルヤノ感アリ尤モ現在株式ノ拂込殘額尙壹千萬圓アルヲ以テ之ヲ追募スルトキハ差支ナキニ似タレトモ貳千萬圓ノ資本ニテハ到底業務ノ擴張ニ應シ難カルヘキノ虞アリ該行ニ於テ資本金增加ノ必要ヲ感シ本月十七日株主總會ヲ開キ壹千萬圓ノ增資ヲ爲シ株數ヲ增加シ總計資本金參千萬圓株數十五萬株トシ新舊株トモ百圓拂込トナシタル上更ニ短期間ニ五拾圓ツヽヲ追募シ拂込資本總額ヲ貳千五百五拾萬圓トシ之ト同時ニ定款第九條第八十五條ヲ改正シ未拂込ノ株金拂込期日ハ二箇月以前ニ廣告スルコトヽシ株主總會出席員ノ所有株數ヲ九萬個ト改ムルコトヲ議決シテ出願セリ願意至當ナルノミナラス其計畫方法等モ適法ト認メ候間願意全體ヲ許可セント欲ス仍テ玆ニ之ヲ閣議ニ提出ス

日本銀行資本增額ノ件請議ノ通

明治二十八年八月十七日

內閣總理大臣 侯爵 伊藤博文

本月十七日出願資本金壹千萬圓增加ノ件竝定款第九條末項及第八十五條第二項改正ノ件許可ス

日本銀行

明治二十八年八月十七日

大藏大臣 伯爵 松方正義

第五十一號告示

今般日本銀行條例第四條ニ依リ日本銀行ノ資本金ヲ更ニ壹千萬圓增加シ株數ヲ五萬株增加スルコトヲ許可候條此旨告示ス

明治二十八年八月十九日

尋テ明治三十一年二月臨時株主總會ニ於テ事業上ノ都合ニ依リ資本入金ヲ增加スルノ必要ヲ認メ其入金殘額七百五拾萬圓ヲ追徵スルコトヲ議決セリ而シテ其方法タル新舊株ヲ通シテ一株ニ付五拾圓ヲ追募スルモノナルヲ以テ明治三十年下半季ニ於ケル特別配當金七百五拾萬圓ヲ以テ直チニ之ニ充ツルコトヽナシ大藏大臣ノ許可ヲ得テ同月二十一日其登記ヲ經タリ

是ニ於テカ日本銀行ノ資本金ハ全部拂込ヲ了シ公稱竝ニ拂込資本金共ニ參千萬圓トナレリ而シテ當時本行ノ積立金ハ其高又壹千貳百參拾貳萬圓ニ達セリ故ニ之ヲ拂込資本金參千萬圓ニ比スレハ實ニ其四割一分强ニ當ル而シテ日本銀行ハ此積立金ヲ以テ金銀地金及ヒ公債證書ヲ買入レ益〻其基礎ノ鞏固ヲ謀レリ

第七節 政府委託事務

第一款 國庫金事務

日本銀行ヲシテ政府委託事務ヲ執行セシムルハ同行創立ノ主要ナル目的ナルコトハ同行創立趣旨書ノ明示スル所ナリ而シテ其委託事務中ニハ預金事務アリ公債事務アリ貨幣事務アリ又銀行紙幣銷却事務アリト雖モ國庫出納ニ關スル事務ハ其最モ主タルモノニ屬ス然リ而シテ政府カ日

本銀行ニ國庫金ノ出納ヲ命シタル所以ノモノハ從來國庫ニ收納スヘキ金錢ノ鑑定竝ニ支出ハ凡テ之ヲ爲換方ニ於テ掌リタルモノナレトモ爲換方ナル者ハ或ハ一私人アリ或ハ私立銀行アリ或ハ國立銀行アリテ一定セサルノミナラス其資力ト信用トニ於テ不安ノ念ナキコト能ハス現金出納事務ノ繁劇ナルト共ニ其危險實ニ尠少ナラス又之カ管理統一ノ上ニ於テ尠カラサル不便アルヲ以テ明治十五年六月布告第三十二號日本銀行條例ノ發布セラルヽヤ第十三條ニ於テ政府ノ都合ニ依リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ニ從事セシムヘキ旨ヲ規定シタリシカ明治十六年一月二十七日ヲ以テ政府ハ日本銀行ニ對シテ國庫金取扱方命令ニ付キ左ノ如ク達セリ

國庫金爲換方ノ儀以來漸次其行ヘ取扱可申付條爲心得其旨相達候事

明治十六年一月二十七日

大藏卿 松方正義

日本銀行

國庫金爲換方ノ儀ニ付今般別項相達候ニ付テハ現今爲換方相勤居候モ各銀行滿期ニ至リ候ハヽ漸次其行ヘ取扱可相命ニ付其心得ヲ以テ右取扱順序等兼テ伺出候樣可致事

明治十六年一月二十七日

大藏卿 松方正義

右ノ如ク大藏卿ハ國庫金取扱方ヲ豫メ同行ヘ內命スル所アリシカ尋テ同年四月十一日大藏卿ハ太政官ニ向ヒ日本銀行ヘ國庫金取扱ヲ命スルノ議ニ就キ左ノ如ク建議セル所アリタリ蓋シ當時ハ同行ノ準備漸ク整備シタルヲ以テナリ

日本銀行ヘ國庫金取扱ヲ命スルノ議

日本銀行條例第十三條ニ基キ今般同銀行ヘ國庫金取扱ノ儀命任可致候尤實際取扱ハシムヘキ事務ハ之ヲ分割シ同銀行業務整頓ノ實況ト當省ノ都合トニ由リ本年七月已降漸次ニ指命執行セシムヘクト存候但國庫金取扱ヲ命スルニ付テハ豫テ日本銀行創立設明書ニ具陳候趣旨ニ據リ特ニ國庫局ヲ置カシメ且實際事務所辨ノ條款ハ當省ヨリ之ヲ令達シ國庫局長及局長補ハ大藏卿之ヲ選命シ其他ノ役員ハ大藏卿認可同銀行ニ於テ相命候樣可致候尙又右取扱ヲ命スルモ總テ同銀行ヨリハ保證品抵當等徵收不致候依テ別紙命令書案相添ヘ此段相伺候也

追テ命令書第八條ニ揭クル給費ノ議ハ國庫金一般ニ關スル趣旨ナルヲ以テ豫メ金額難定分モ有之候間追々令達スヘキ事務ニ依リ或ハ舊慣ヲ改メ又ハ更ニ增費ヲ要スルモノ等ハ其時時可相伺心得ニ候今般差向可爲取扱ハ各地方租稅其他ノ納金事務ニシテ取扱料其他ノ給與ハ總テ現今當省爲替方ヘ給與致來候割合ヲ以テ支給シ鑑定費ニ充ツヘキ手數料ハ舊慣ニ依リ受領爲致候積ニ候間別段經費ノ增額ハ要セサル儀モ有之候此段爲念添申候也

大藏卿 松方正義

明治十六年四月十一日

太政大臣 三條實美 殿

右ノ建議ハ直ニ太政大臣ノ容ルヽ所トナリタルヲ以テ大藏卿ハ四月二十七日日本銀行ヘ左ノ如ク國庫金取扱方ヲ令達シタリ

命令書

日本銀行

日本銀行條例第十三條ニ基キ國庫金取扱ヲ命スルニ付左ノ條々ヲ遵守スヘシ

第一條　日本銀行ヲシテ取扱ハシムル可キ事務ハ大藏卿之ヲ分劃シテ漸次ニ令達スル者トシ其時々取扱順序ヲ定メテ之ヲ下付ス可シ

第二條　日本銀行ハ國庫金ヲ取扱フ爲メ特ニ本店ニ國庫局ヲ置キ支店ニ國庫課ヲ設ケ判然事務ヲ區劃シテ本業ト混淆セサラシムヘシ其取扱規程ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏卿ノ許可ヲ請フ可シ

第三條　日本銀行ハ國庫金ノ受拂ヲ各地方ニ在ル國立銀行若クハ私立銀行會社ヲシテ代理セシムルヲ得ヘシト雖モ何レモ其事務ヲ區劃シテ本業ト混淆セサラシムヘシ其代理店及ヒ代理約條取扱規程ハ日本銀行ニ於テ之ヲ定メ大藏卿ノ許可ヲ請フ可シ

第四條　國庫局長ハ大藏卿其特選ノ理事ニ命シ局長補ハ大藏卿之ヲ選命スル者トス其他國庫金ヲ取扱フ役員ハ日本銀行ニ於テ選擧シ大藏卿ノ認可ヲ得テ之ヲ命ス可ク代理店ニ於テ國庫金ヲ取扱ハシムル役員ハ其姓名ヲ具シ大藏卿ノ認可ヲ請フヘシ

第五條　日本銀行本支店代理店ニ於テ取扱フ國庫金ハ運用スルヲ許サス

第六條　國庫金取扱ハ本支店取扱ニ係ル分ト雖モ日本銀行ニ於テ一切其責ニ任シ何等ノ事故ニ依テ損失ヲ蒙ルコトアルモ總テ日本銀行ニ於テ之ヲ辨償スヘシ但避クヘカラサル變災ニシテ其證跡アルニ於テハ大藏卿ハ詮議ノ上之ヲ處分スヘシ

第七條　日本銀行本支店暨ヒ代理店共國庫金取扱ニ係ル帳簿書類現在金等ハ時トシテ大藏省官員臨店檢查スルコトアルヘシ但其官員ハ必ス檢查員タルノ證據書ヲ携帶スル者トス

第八條　國庫金取扱ヲ命スルニ付其取扱費ニ充テ相當ノ金額ヲ支給スヘク尚又納金ハ鑑定費

ニ充テ納者ヨリ手數料ヲ受領スルコトヲ許ス但何レモ其割合金額等ハ漸次令達スル事務ニ從テ之ヲ定ムル者トス

第九條　此取扱ハ明治十六年七月一日ヨリ實行ス可シ但向年期ヲ定メスト雖モ大藏省ノ都合ニ由テハ之ヲ免スルコトアルヘシ

右及命令候也

明治十六年四月二十七日

大藏卿　松方正義

尋テ五月四日政府ハ國庫納金取扱順序ヲ定メ日本銀行ヲシテ國庫ヘ收入スヘキ納金ヲ預リ之カ納付ニ關スル順序ヲ制定シテ同行ヘ達セリ

斯ノ如ク日本銀行ハ國庫金取扱ノ命ヲ受ケタルヲ以テ同年五月國庫局ヲ設ケ專ラ國庫金取扱ニ關スル事務ヲ掌ラシメ本店支店及國庫金取扱所納金取扱規程及國庫金取扱規程竝ニ國庫金取扱所事務代理約條書ヲ定メテ大藏卿ノ認可ヲ經テ之ヲ實施セリ明治十七年一月各關稅ノ收納金モ亦日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽシ國庫納金(海關稅)取扱順序ヲ達セリ明治十九年一月國庫金取扱所事務順序ヲ定メ次テ同年三月歲入歲出納規則ヲ定メ其結果同年五月關稅及稅關諸收入取扱手續ヲ定メ從來ノ海關稅納金取扱順序ヲ廢止スル旨ヲ日本銀行ニ達セリ

明治十九年三月各地ニ現金支拂所ヲ置クコトヽ爲シタルヲ以テ日本銀行ハ同年八月現金支拂所規程及現金支拂所事務代理約條書ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ實施シタリ當時政府ハ國庫金出納保管ニ關スル制度ヲ改正スルノ計畫アリ日本銀行ヲシテ其調查ニ從事セシムル所アリシカ明治二十年二月從來ノ國庫金取扱所現金支拂所ヲ廢シテ新ニ國庫金出納所ヲ設置シ國庫金出

納事務順序ヲ定メ日本銀行ヲシテ之カ事務ヲ取扱ハシムルコトヽセリ蓋シ從來歳入金ハ國庫金取扱所ニ納入セシメ歳出金ハ現金支拂所ニ於テ取扱ハシメ收支全ク其機關ヲ區別シ來リシカ是ニ至リ中央金庫ノ出納ノ外ハ悉ク日本銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヽナレリ明治二十年二月大藏大臣ヨリ日本銀行ヘ令達セルモノ左ノ如シ

日本銀行

本年四月一日ヨリ各地ニ國庫金出納所ヲ設置シ歳入出及雜部金ノ出納事務ヲ爲取扱候條別紙國庫金出納事務順序ニ依リ取扱フヘシ國庫金出納所事務取扱所ニ付テハ明治十六年四月二十七日相達候國庫金取扱命令ノ旨ヲ遵奉スヘシ

國庫金取扱所現金支拂所ノ事務ハ本年三月三十一日ノ殘務ヲ以テ國庫金出納所ヘ引繼ヲ受クヘシ

但國庫金取扱所現金支拂所ヘ別紙ノ通リ相達候條此旨相心得ヘシ

國庫金出納所及出納支所ノ位置區域ハ追テ相達スヘシ

國庫金出納所取扱上ノ經費ハ追テ相達スヘシ

右及命令候也

明治二十年二月三日

大藏大臣 伯爵 松方正義

同月二十二日大藏大臣ハ國庫金出納本所及同支所ノ位置竝ニ出納區域ヲ定メテ日本銀行ニ達シ三月二十一日國庫金出納所ニ事務引續ヲ了シ翌四月一日ヨリ改正制度ヲ實施セリ

明治二十二年二月法律第四號會計法ノ公布アルニ及ヒ其第三十一條ニ於テ政府ハ國庫金ノ取扱

ヲ日本銀行ニ命スルヲ得ル旨ヲ定メ同年四月勅令第六十號會計規則第百十一條ヲ以テ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘキ旨ヲ規定シタリシカ同年十一月勅令第百二十六號ヲ以テ金庫規則ヲ制定シ從來ノ國庫金取扱ニ關スル制度ヲ改正シ新ニ金庫制度ヲ設ケ國庫金ノ取扱ハ總テ日本銀行ヲシテ當ラシムルコトト爲セリ金庫規則ノ規定ニ依レハ國庫ニ於テ保管出納スル現金ハ金庫ヲシテ取扱ハシムルコトトシ金庫ヲ中央金庫本金庫支金庫ノ三種ニ分チ東京ニ中央金庫ヲ置キ各府縣廳下及札幌函館根室ニ本金庫ヲ置キ大藏大臣ノ必要ト認メタル場所ニ支金庫ヲ設置ス金庫ハ大藏大臣之ヲ管理シ中央金庫ハ各地本金庫ヲ、各地本金庫ハ所屬支金庫ヲ總轄ス但東京府下ノ支金庫ハ直ニ中央金庫ニ於テ之ヲ總轄ス而シテ中央金庫本金庫支金庫ノ現金保管出納ハ日本銀行ヲシテ取扱ハシメ之ニ關スル一切ノ責任ヲ政府ニ對シ負ハシムルモノトセリ乃チ日本銀行ハ本金庫支金庫ノ現金ノ保管出納ヲ取扱フ爲メ各地ニ其支店又ハ代理店ヲ設置シ日本銀行ノ支店長又ハ代理店長ハ金庫出納役ノ代理人トシテ其事務ヲ分擔シ代理店ノ支店ニ於テ金庫事務ヲ取扱フトキハ代理店長其支店長ニ代理ノ事務ヲ委囑ス而シテ日本銀行ニシテ代理店ヲ定メントスルトキハ大藏大臣ノ認可ヲ經ヘキモノトシ大藏大臣ハ檢查官吏ヲ派シテ何時ニテモ金庫ノ金櫃帳簿ヲ檢查スルヲ得ルノミナラス同時ニ其銀行ノ總テノ金櫃帳簿ヲ併セテ檢查スルコトヲ得ヘク又金庫ニ於テ備フヘキ帳簿ノ種類其規程出納ノ順序及金庫ノ檢查規程ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ルモノトシ明治二十三年四月一日ヨリ之ヲ實施セラレタリ是ニ於テ大藏大臣ハ同年十二月大藏省訓令第七十二號ヲ以テ金庫出納事務規程及同第七十一號金庫出納證明規程ヲ定メテ金庫出納役ニ令達シ明治二